

八千代市権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡

—萱田地区埋蔵文化財調査報告書VII—

1994

住宅・都市整備公団 首都圏都市開発本部
財団法人 千葉県文化財センター

やちよしごんげんうしろいせき ほっかいどういせき いどひかいいせき
八千代市権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡

—萱田地区埋蔵文化財調査報告書VII—

1994

住宅・都市整備公団 首都圏都市開発本部
財団法人 千葉県文化財センター



井戸尚遺跡D1坑出土三彩陶器軒。小壺



井戸尚遺跡D1坑出土焼灰。青石

序 文

千葉県の北西部に位置する八千代市は、東京に近接することから、東京のベッドタウンとして早くから注目されてきました。一方、市内には新川をはじめとする多くの中小河川が流れ、その恵まれた自然環境により、台地上には数多くの大規模な遺跡が存在しています。

近年、本県においては首都圏における急激な人口増加に対応するため、大規模な宅地造成が各地で実施されていますが、八千代市萱田地区でも住宅・都市整備公団により約100ヘクタールにもおよぶ土地区画整理が計画されました。

このため千葉県教育委員会では、昭和50年に事業予定地内の埋蔵文化財の分布調査を実施し、その結果をもとに埋蔵文化財の取扱いについて、住宅・都市整備公団および関係機関と協議を重ねてきました。その結果、遺跡の所在地を公園や緑地として現状保存を図る一方、それが困難な遺跡については、やむを得ず記録保存の処理を講ずることとなりました。発掘調査については、千葉県教育委員会から財団法人千葉県文化財センターが調査機関としての指定を受け、昭和52年度から調査を実施してまいりました。その成果は平成4年度までに6冊の報告書として刊行されています。

このたび、萱田地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査の完了にあたり、第7集として昭和58年度から平成3年度まで、数次にわたり調査を実施した權現後遺跡、北海道遺跡、井戸向遺跡の発掘成果を報告することとなりました。權現後遺跡は平安時代、北海道遺跡は古墳時代から平安時代、井戸向遺跡では先土器時代から平安時代までの遺構や遺物が検出されました。なかでも井戸向遺跡では、竪穴住居跡から奈良三彩陶器の托、小壺などが出土しており、この地域の歴史を解明するうえで大変貴重な資料といえます。この報告書が学術資料としてはもとより、教育資料としても広く活用されるとともに、埋蔵文化財の保護と普及のために役立つことを願っております。

おわりに、発掘調査から報告書の刊行までご指導、ご協力いただいた千葉県教育委員会、住宅・都市整備公団、八千代市教育委員会、地元関係諸機関各位にお礼を申し上げるとともに、寒暑のなか調査にご協力いただいた調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成6年3月

財団法人千葉県文化財センター

理事長 奥山 浩

凡　　例

- 1 本書は、八千代市都市計画事業萱田特定土地区画整理事業の実施に伴い事前に調査した八千代市権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部の依頼により、文化庁および千葉県教育委員会の指導を受けて、財団法人千葉県文化財センターが行った。
- 3 発掘調査は、昭和58年5月9日から平成3年4月26日まで数次にわたり実施した。
- 4 整理作業は昭和63年6月1日から平成4年3月31日まで行った。
- 5 本書は、『八千代市権現後遺跡』・『八千代市北海道遺跡』・『八千代市ヲサル山遺跡』・『八千代市井戸向遺跡』・『八千代市白幡前遺跡』・『八千代市坊山遺跡』に続く、萱田地区埋蔵文化財調査報告書の第7冊にあたるものである。
- 6 本書に所収した遺跡は、すでに『八千代市権現後遺跡』・『八千代市北海道遺跡』・『八千代市井戸向遺跡』として報告書が刊行されているが、ここに報告する各地点は、前記報告書を刊行した後に発掘調査を実施した地点である。
- 7 本書に所収した遺跡の遺跡コードは、行政管理庁指定統計コード八千代市(221)に千葉県文化財センター遺跡コードを付し、権現後遺跡(221-001)、北海道遺跡(221-002)、井戸向遺跡(221-006)とした。
- 8 整理作業および本書の原稿執筆は調査部長堀部昭夫・天野努、部長補佐阪田正一、佐久間豊、班長上野純司・田坂浩の指導のもとに大野康男が行った。

目 次

序 文

凡 例

第1章 はじめに	2
第1節 遺跡の位置と環境	2
第2節 調査の経過と方法	2
第2章 横現後遺跡	4
第1節 調査の概要	4
第2節 横現後遺跡第3地点	6
第3章 北海道遺跡	13
第1節 調査の概要	13
第2節 北海道遺跡第1地点	15
第4章 井戸向遺跡	21
第1節 調査の概要	21
第2節 井戸向遺跡第1地点	23
第3節 井戸向遺跡第2地点	25
第4節 井戸向遺跡第3地点	30
第5節 井戸向遺跡第4地点	31
第6節 井戸向遺跡第5・6・7地点	55
第7節 井戸向遺跡第8地点	58
第8節 井戸向遺跡第9地点	61
第5章 おわりに	78
第1節 井戸向遺跡D147の炭化米について	78
第2節 井戸向遺跡第9地点出土の炭化穀類同定計測報告	82
結 語	103

挿図目次

第1図	萱田地区全体図	1	第31図	井戸向遺跡第4地点全体図	31
第2図	権現後遺跡全体図	4	第32図	井戸向遺跡第4地点先土器時代遺物分布図	32
第3図	権現後遺跡第3地点全体図	5	第33図	S 032地点遺物分布状況	33
第4図	D 062実測図	6	第34図	S 032地点遺物垂直分布	33
第5図	D 062出土遺物実測図	7	第35図	S 032地点出土遺物実測図	34
第6図	D 067実測図	8	第36図	S 033・S 034地点遺物分布状況	36
第7図	D 067出土遺物実測図	10	第37図	S 033地点出土遺物実測図	37
第8図	D 192実測図	11	第38図	S 034地点出土遺物実測図	39
第9図	D 192出土遺物実測図	11	第39図	S 035地点遺物分布状況	40
第10図	H 018および出土遺物実測図	12	第40図	S 035地点遺物垂直分布	40
第11図	北海道遺跡全体図	13	第41図	S 035地点剥片計測値	41
第12図	北海道遺跡第1地点全体図	14	第42図	S 035地点出土遺物実測図(1)	41
第13図	D 151実測図	15	第43図	S 035地点出土遺物実測図(2)	42
第14図	D 151出土遺物実測図	16	第44図	S 035地点出土遺物実測図(3)	43
第15図	D 152実測図	17	第45図	S 036地点遺物分布状況	46
第16図	D 152出土遺物実測図	18	第46図	S 036地点遺物垂直分布	46
第17図	D 153実測図	19	第47図	S 036地点剥片計測値	47
第18図	D 153出土遺物実測図	19	第48図	S 036地点出土遺物実測図	48
第19図	溝状遺構出土遺物実測図	20	第49図	S 038地点遺物分布状況	49
第20図	井戸向遺跡全体図	21	第50図	S 038地点遺物垂直分布	50
第21図	井戸向遺跡第1地点全体図	22	第51図	S 038地点剥片計測値	50
第22図	D 143実測図	23	第52図	S 038地点出土遺物実測図	51
第23図	D 143出土遺物実測図	23	第53図	D 145実測図	53
第24図	P 196実測図	24	第54図	D 145出土遺物実測図	53
第25図	井戸向遺跡第2地点全体図	25	第55図	井戸向遺跡第5地点全体図	55
第26図	D 142実測図	26	第56図	P 197・P 198実測図	56
第27図	D 142出土遺物実測図	27	第57図	P 199～P 204実測図	57
第28図	P 190～P 192・P 195実測図	28	第58図	井戸向遺跡第8地点全体図	58
第29図	P 193・P 194実測図	29	第59図	D 144実測図	59
第30図	井戸向遺跡第3地点全体図	30			

第60図	D144出土遺物実測図	59	第74図	D147出土遺物実測図(3)	71
第61図	D146および出土遺物実測図	60	第75図	D148実測図	72
第62図	P205～P207実測図	61	第76図	D148出土遺物実測図	72
第63図	井戸向遺跡第9地点全体図	62	第77図	D149実測図	73
第64図	S040地点遺物分布状況	63	第78図	D150実測図	74
第65図	S040地点出土量の重量別分布	63	第79図	D150出土遺物実測図	74
第66図	S040地点遺物垂直分布	64	第80図	P208～P212実測図	76
第67図	S041地点遺物垂直分布	65	第81図	炭化米出土量(1)	79
第68図	S041地点遺物分布状況	66	第82図	炭化米出土量(2)	79
第69図	S041地点剝片計測値	67	第83図	炭化材片の出土量	79
第70図	S041地点出土遺物実測図	67	第84図	須恵器瓶子片出土量	79
第71図	D147実測図	68			
第72図	D147出土遺物実測図(1)	69			
第73図	D147出土遺物実測図(2)	70			

表 目 次

第1表	権現後遺跡調査地点一覧	3	第19表	S034地点遺物集計表	39
第2表	D062出土土器一覧	7	第20表	S035地点遺物計測表	44
第3表	D067出土土器一覧	9	第21表	S035地点遺物集計表	45
第4表	D192出土土器一覧	11	第22表	S036地点遺物計測表	45
第5表	H018出土土器一覧	12	第23表	S036地点遺物集計表	47
第6表	北海道遺跡調査地点一覧	15	第24表	S037地点遺物計測表	48
第7表	D151出土土器一覧	16	第25表	S038地点遺物計測表	50
第8表	D152出土土器一覧	17	第26表	S038地点遺物集計表	52
第9表	D153出土土器一覧	19	第27表	D145出土土器一覧	54
第10表	溝状遺構出土土器一覧	20	第28表	D144出土土器一覧	60
第11表	井戸向遺跡調査地点一覧	22	第29表	D146出土土器一覧	61
第12表	D143出土土器一覧	24	第30表	S040地点遺物集計表	64
第13表	D142出土土器一覧	26	第31表	S041地点遺物計測表	65
第14表	S032地点遺物計測表	35	第32表	S041地点遺物集計表	66
第15表	S032地点遺物集計表	35	第33表	D147出土土器一覧	68
第16表	S033地点遺物計測表	38	第34表	D147出土金属製品一覧	71
第17表	S033地点遺物集計表	38	第35表	D148出土土器一覧	73
第18表	S034地点遺物計測表	39	第36表	D150出土土器一覧	75

図版目次

図版 1	1. D062全景 2. D067全景 3. D067出土遺物	2. D145出土遺物
図版 2	1. D067出土遺物 2. D192全景 3. D192出土遺物	図版14 1. 井戸向遺跡第5地点 2. 井戸向遺跡第5地点 3. 井戸向遺跡第5地点
図版 3	1. H018全景 2. D151全景 3. D151出土遺物	図版15 1. 井戸向遺跡第5地点 2. 井戸向遺跡第8地点 3. 井戸向遺跡第8地点
図版 4	1. D152全景 2. D153全景 3. D152出土遺物	図版16 1. 井戸向遺跡第8地点 2. 井戸向遺跡第8地点 3. D144全景
図版 5	1. D153出土遺物 2. D143全景 3. D143遺物出土狀況	図版17 1. D144出土遺物 2. D146全景 3. 井戸向遺跡第9地点
図版 6	1. D143出土遺物 2. D142全景	図版18 1. S040地点遺物分布狀況 2. S041地点遺物分布狀況 3. S041地点出土遺物
図版 7	1. D142出土遺物 2. 井戸向遺跡第4地点 3. 井戸向遺跡第4地点 4. S032地点遺物分布狀況	図版19 1. D147全景 2. D147遺物出土狀況 3. D147遺物出土狀況
図版 8	1. S032地点出土遺物 2. S033・S034地点遺物分布狀況	図版20 1. D147出土遺物
図版 9	1. S033・S034地点出土遺物 2. S035地点遺物分布狀況	図版21 1. D147出土燧石 2. D147出土鉈尾 3. D147出土炭化米 4. D147出土鐵製品
図版10	1. S035地点出土遺物	図版22 1. D148全景 2. D148遺物出土狀況 3. D148出土遺物
図版11	1. S036地点遺物分布狀況 2. S037地点遺物分布狀況 3. S036・S037地点出土遺物	図版23 1. D149全景 2. D150全景 3. D150出土遺物
図版12	1. S038地点遺物分布狀況 2. S038地点出土遺物 3. D145全景	図版24 1. P210全景 2. P212全景 3. P208全景
図版13	1. D145遺物出土狀況	



第1図 莫田地区全体図

第1章 はじめに

第1節 遺跡の位置と環境

董田地区は八千代市の中央を流れる新川の左岸の標高15~25mの台地上に位置している。この地区には北から権現後遺跡・ヲサル山遺跡・北海道遺跡・坊山遺跡・井戸向遺跡・白幡前遺跡の7遺跡が所在し、先土器時代から平安時代まで連続と人々の生活の痕跡がこされている。これらの遺跡は新川とその支谷である須久茂谷津・寺谷津に臨んで形成され、董田地区的埋蔵文化財調査によりこれらの遺跡のほぼ全貌が明らかにされている。

権現後遺跡は董田地区的最も北側に位置するもので、東に新川を、南に須久茂谷津を臨む標高約25mの台地上に立地している。台地上面はほぼ平坦で、新川および須久茂谷津が形成した沖積層面に向けて急な崖を形成している。

北海道遺跡は北側に須久茂谷津を臨み、須久茂谷津を挟んで権現後遺跡と対面している。標高は約15mを測り、そのほとんどが段丘中位面にあたる。この段丘面は権現後遺跡のある台地には形成されておらず、北海道遺跡から白幡前遺跡まで新川に沿って認められる。遺跡は新川に向かって緩斜面を形成し、遺跡内でも10m近い比高がある。

井戸向遺跡は北海道遺跡と同じ台地上に位置し、北側に北海道遺跡が、西側に坊山遺跡が隣接している。南側には寺谷津を臨み、寺谷津を挟んだ対岸には白幡前遺跡が位置している。井戸向遺跡は、新川に沿って形成された段丘中位面から段丘上位面に連続して遺構が展開している。

第2節 調査の経過と方法

住宅・都市整備公団は、首都圏における急激な人口増加に対応する施策の一環として、千葉県八千代市の董田地区において土地区画整理事業を実施することを計画した。首都圏都市開発本部は、事業地内に所在するであろう埋蔵文化財について八千代市教育委員会との協議を経て、昭和50年2月に千葉県教育委員会に埋蔵文化財の所在の有無について照会をした。

それにもとづいて、千葉県教育委員会は首都圏都市開発本部に遺跡の分布調査を事前に実施するよう指示し、あわせて分布調査機関として財団法人千葉県文化財センターを指定した。分布調査の結果、先土器時代から平安時代にいたる多様な遺物の散布が観察でき、事業地内の広い範囲に埋蔵文化財が包蔵されていることを確認した。分布調査の結果を受け、遺跡の取扱いについて協議を重ねた結果、公園・緑地として極力現状保存を図る一方、保存が困難な遺跡

については記録保存の処置を講ずることに決定した。

埋蔵文化財の発掘調査は、昭和52年度から着手し、昭和57年度までに大部分の遺跡の調査を終了した。しかし、用地の問題が解決しない部分がラサル山遺跡を除いたすべての遺跡に残され、昭和58年度以降も引き続いて調査を継続した。すべての調査が終了したのは平成3年度となり、調査面積は権現後遺跡が5,055m²、北海道遺跡が3,000m²、井戸向遺跡が17,099m²となつた。

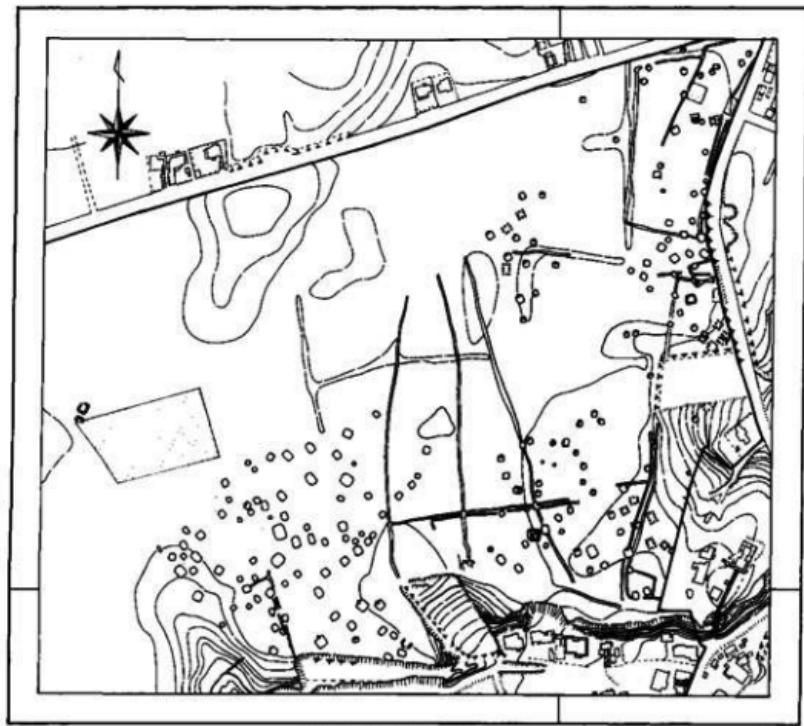
第1表 権現後遺跡調査地点一覧

地 点 名	調査開始	調査終了	対象面積	所 在 地	担当者
権現後第1地点	昭和58年5月9日	昭和58年5月21日	85m ²	萱田字権現後447	藤岡孝司
権現後第2地点	昭和59年8月6日	昭和59年9月21日	2,400m ²	大和田新田616-1	奥田正彦
権現後第2地点	昭和60年9月20日	昭和60年10月16日	2,400m ²	大和田新田616-1	奥田正彦
権現後第3地点	昭和60年7月16日	昭和60年7月26日	150m ²	大和田新田624-3	奥田正彦
権現後第3地点	昭和60年9月4日	昭和60年9月5日	20m ²	大和田新田624-3	奥田正彦

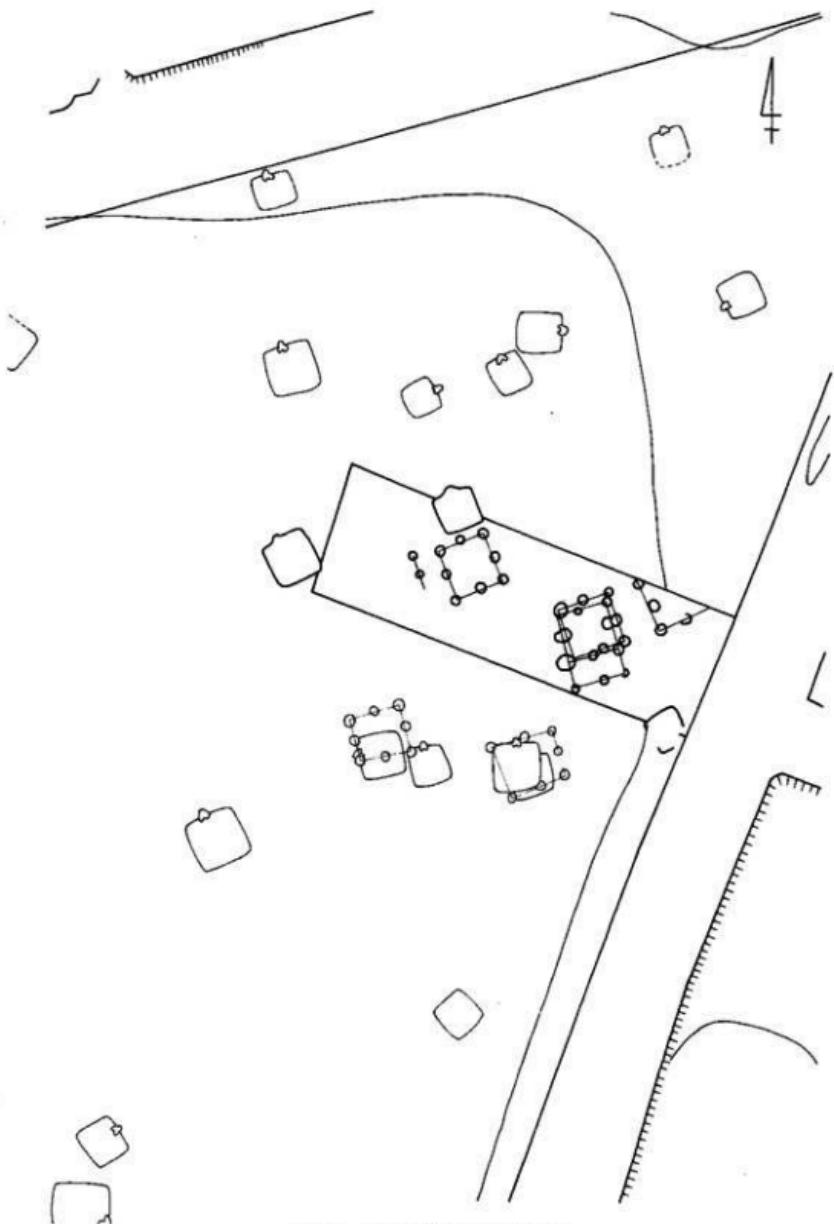
第2章 権現後遺跡

第1節 調査の概要（第2図、第1表）

権現後遺跡はその大部分が「八千代市権現後遺跡」としてすでに報告書が刊行されている。そこで検出された遺構は先土器時代から平安時代にわたり、先土器時代遺物集中地点27か所、弥生時代後期の竪穴住居跡73軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡67軒等が調査されている。ここに報告するのは昭和58年度以降に5次にわたって調査を行った3か所である。これらの地点はたがいに離れて位置し、面積は合計で5,055m²となる。最も広い面積を有するのは権現後遺跡第2地点で4,800m²である。この地点は権現後遺跡とヲサル山遺跡の中間にあたり、遺構の密度もかなり低い部分である。発掘調査の結果遺構は存在せず、M75-77グリッドでⅢ層から先土器時代の碎片が3点出土したに過ぎない。権現後遺跡の3か所の調査で遺構が検出されたのは第3地点だけであった。



第2図 権現後遺跡全体図



第3図 権現後遺跡第3地点全体図

第2節 権現後遺跡第3地点

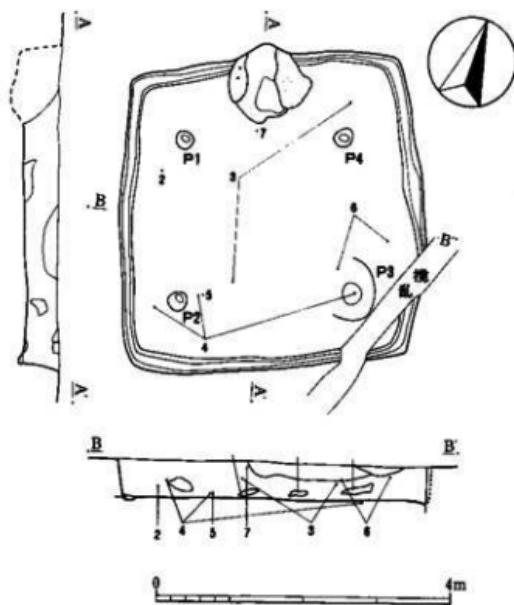
権現後遺跡第3地点は八千代市大和田新田624-3に位置している。検出された遺構は堅穴住居跡3軒、掘立柱建物跡4棟である。なお、検出した3軒の堅穴住居跡のうち、D062・D067の2軒は、その一部分がすでに調査され、部分的であるにせよ「八千代市権現後遺跡」に報告されている。また、掘立柱建物跡は4棟が確認されたが、調査を行ったのは1棟である。なお、この地点は権現後遺跡の北西よりに堅穴住居跡26軒、掘立柱建物跡6棟から構成される権現後遺跡歴史時代第IV群に属する。

D062 (第4・5図、第2表、図版1)

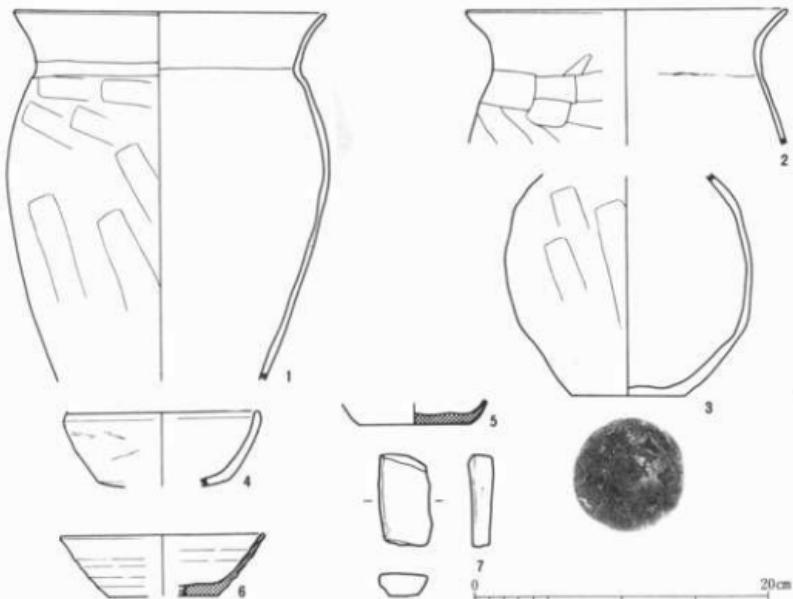
住居のほとんどの部分がすでに調査されており、今回の調査範囲に含まれていたのは住居南東コーナーの一部である。規模は南北3.7m、東西3.9mを測り、平面形態が方形の堅穴住居である。確認面からの深さは0.5mを測り、カマドを除いて壁溝がめぐっている。床面は全体に堅くなっているが、特に踏み固めた範囲は確認できなかった。柱穴は住居対角線上に4か所あり、直径約0.3m、床面から0.4mの深さがある。床下には大小8か所のピットを検出したが、この内の4か所が柱穴とかさなる。

カマドは北壁中央に設置され、約0.3mの煙道の張り出しがある。構築材は袖部から煙出し部まで一体化し、天井部がわずかに遺存していた。

今回の調査では遺物は出土せず、前報告の遺物をそのまま掲載した。1～3は甕で1・2は口径20cmを超える武藏型の製品である。3は球形の胴部をなっている。4は土師器壊で、体部のヘラ削りはほとんど消されている。5・6は須恵器壊で、5は底部ヘラ切り無調整の製品である。7は凝灰岩製の砥石である。



第4図 D062実測図



第5図 D062出土遺物実測図

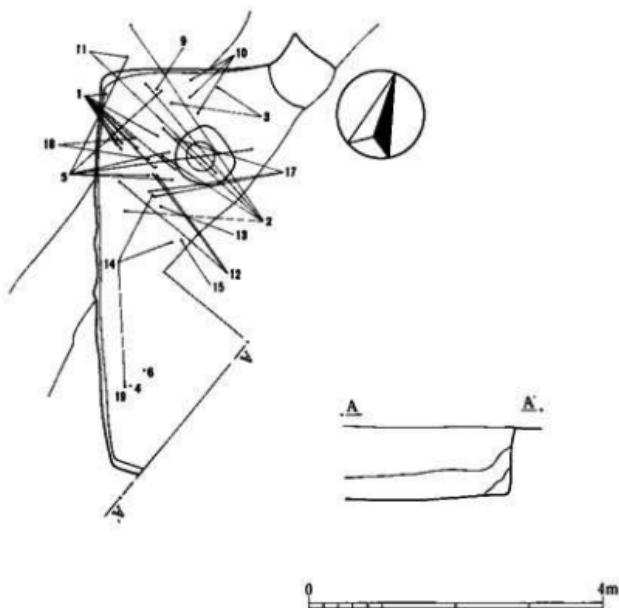
第2表 D062出土土器一覧

No.	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	遺物番号	備考
1	土師器壺	20.7	—	24.7	砂粒	良	好	明褐色	
2	土師器壺	21.6	—	—	砂粒	良	好	褐色	
3	土師器壺	—	7.6	—	砂粒	良	好	暗赤褐色	
4	土師器壺	12.8	—	4.9	砂粒	良	好	暗褐色	
5	須恵器壺	—	7.4	—	真石	不良	暗褐色		
6	須恵器壺	13.5	7.2	4.0	砂粒	良	好	暗灰色	

D067 (第6・7図、第4表、図版2)

以前に住居南西コーナーの一部が調査されており、今回の調査を含めても住居全体の半分に満たない。規模は南北5.2mを測り、平面形態は方形の竪穴住居跡である。確認面からの深さは1.0mに達し、遺存状態は良好である。壁溝はなく、北西コーナー近くに直径約0.8mのピットが検出できた。床面からの深さは0.4mで柱穴と考えられる。カマドは北壁に設置され、約0.4mの煙道の張り出しがある。

調査した面積が狭いにもかかわらず出土遺物は多く、21点を図示した。なお、挿図の番号に○の付いた遺物は以前の調査で出土したものである。1・2は土師器壺で、1はほぼ完形である。1は鉢に近い浅い器形で、胴部下半に横位のヘラ削りを施している。胎土・調整は常総型



第6図 D067実測図

の壺に通じる。3は土師器瓶である。口径25cmを測る大形の製品で、胴部は内外面とも縦位のヘラ削りを施している。5～20はロクロ土師器壺である。5はやや大振りの製品で、器面を丁寧に磨いている。ロクロ土師器壺はすべて回転糸切りで、底部の調整は15が無調整、12・14・16・17が静止ヘラ削り、他は回転ヘラ削りである。墨書きされたものが多く、19・20は文字が不明であるが、他は「岡」の異体字の「正」である。「正」は萱田地区の中でも權現後遺跡に限られた文字であり、それも權現後遺跡の北西によった權現後遺跡歴史時代IV群とした建物群に限られている。「正」の墨書きが出土した遺構はD067以外にD041があるが、D041では1点だけであり、「正」が本遺構の特徴的な文字と理解できる。なお、15・16は体部外面に線刻がある。

D192（第8・9図、第4表、図版2）

今回の調査で存在が明かとなった遺構で、規模は南北約3.5m、東西約3.8mを測る方形の堅穴住居跡である。確認面からの深さは約0.6mで、カマドを除いて壁溝がめぐっている。柱穴は住居対角線上の壁に近い位置に4か所あり、直径はいずれも約0.4m、床面から約0.5mの深さがある。また、カマドに対面する南壁際中央に直径約0.3m、床面からの深さ約0.3mを測る出入口ピットがある。床面はこれらのピットに囲まれた範囲に硬化面が遺存している。カマドは北壁中央に設置され、約0.3mの煙道の張り出しがある。袖は煙道部にわずかに残されるが、カ

マド下掘り込みは壁外へ張り出している。

出土遺物は4点を図示したが、いずれも住居内の広い範囲に散乱し、カマドから出土した破片も多い。1は土師器壺で、いわゆる武藏型の壺である。2~4は須恵器壺で、底径はいずれも8cmを超えており、底部はヘラ切り後に2・4が全面回転ヘラ削り、3は一定方向にヘラ削りを行っている。体部下端は2・3が静止ヘラ削りである。

第3表 D067出土土器一覧

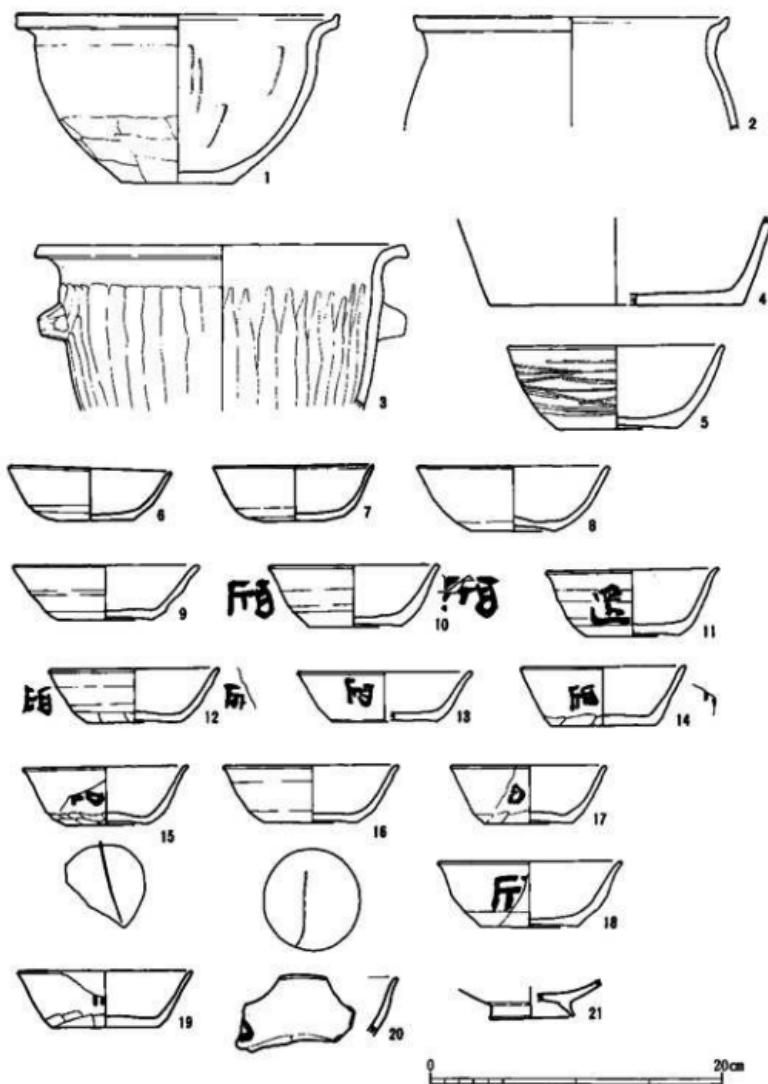
No	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成色	調査番号	備考
1	土師器壺	22.0	7.5	11.6	石英粒	良好	明褐色 25,38,49,83,105,115 118,119,145,147,152	底部本葉模
2	土師器壺	21.7	—	—	石英粒	良好	褐色 1,17,42,85,102,149 153	
3	土師器壺	25.0	—	—	砂粒	良好	明褐色 39,151,153	
4	須恵器壺	—	17.4	—	砂粒	良好	明褐色 ②	
5	ロクロ土師器壺	14.7	8.0	5.6	青母粒	良好	明褐色 1,22,24,41,43,44,92 152	ヘラ磨き
6	ロクロ土師器壺	10.3	5.6	3.5	砂粒	良好	明褐色 ③	
7	ロクロ土師器壺	10.8	6.8	3.7	砂粒	良好	明褐色 ⑤	
8	ロクロ土師器壺	13.2	5.6	4.3	青母粒	不良	褐色 152,153	
9	ロクロ土師器壺	12.6	6.4	3.7	砂粒	良好	褐色 100,152	
10	ロクロ土師器壺	11.8	6.3	4.1	青母粒	良好	褐色 142,144,146,152	墨書「正」
11	ロクロ土師器壺	11.7	6.3	4.4	青母粒	良好	褐色 43,154	墨書「正」
12	ロクロ土師器壺	11.8	6.4	3.5	青母粒	良好	明褐色 4,106,109	墨書「正」
13	ロクロ土師器壺	11.8	7.3	3.3	青母粒	良好	赤褐色 69	墨書「正」
14	ロクロ土師器壺	11.3	7.2	3.9	青母粒	良好	明褐色 67,70	墨書「正」
15	ロクロ土師器壺	11.2	5.6	3.9	青母粒	良好	明褐色 7	墨書「正」縫刻
16	ロクロ土師器壺	12.0	6.4	3.9	青母粒	良好	明褐色 152,153	縫刻
17	ロクロ土師器壺	10.6	6.1	3.9	青母粒	不良	明褐色 72,84,110,152	墨書「正」
18	ロクロ土師器壺	12.4	6.5	4.3	青母粒	良好	明褐色 1,49,113	墨書「正」
19	ロクロ土師器壺	11.7	7.2	3.8	青母粒	良好	明褐色 ④	墨書「正」
20	ロクロ土師器壺	—	—	—	青母粒	良好	明褐色 ⑩	墨書「正」
21	ロクロ土師器壺	—	5.6	—	砂粒	良好	褐色 ⑪	

H018 (第10図、第5表、図版3)

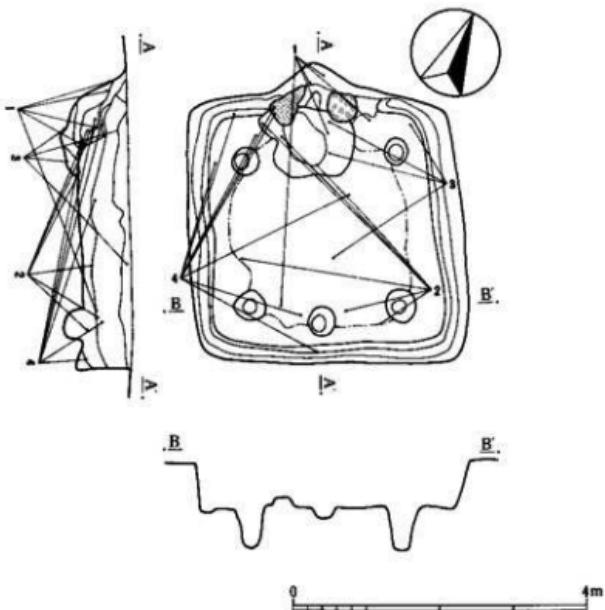
権現後遺跡第3地点では4棟の掘立柱建物跡の存在が確認できたが、H018を除いた3棟は土地の形状変更が行われないため、確認面での検出にとどまった。H018は2間×2間の掘立柱建物跡で、柱間で2.4m×2.1mの規模を測る。柱間寸法はおおよそ2.1mで、南北方向の柱間がわずかに長い。掘方は直径0.8~1.0mの円形で、確認面から0.4mの深さがある。柱痕跡は0.2~0.3mの太さである。また、本建物跡の西側に、柱位置を若干ずらして3か所のピットが検出できた。あるいは、隣接して建物が存在したのかもしれない。

出土遺物は少なく、2点が図示できた。1は土師器壺で、小形のロクロ調整の製品である。口縁部は短く外反している。2はロクロ土師器壺の破片で、体部外面に横位に「正」と墨書き

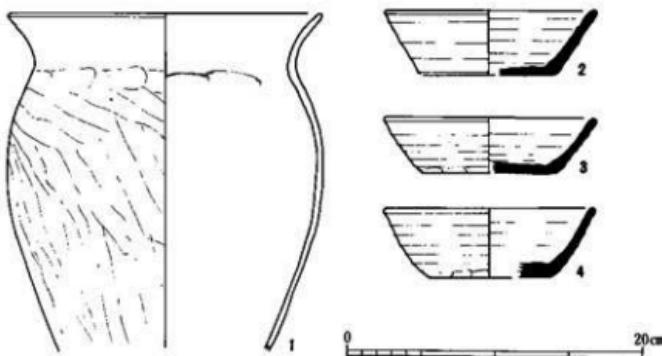
れている。



第7図 D067出土遺物実測図



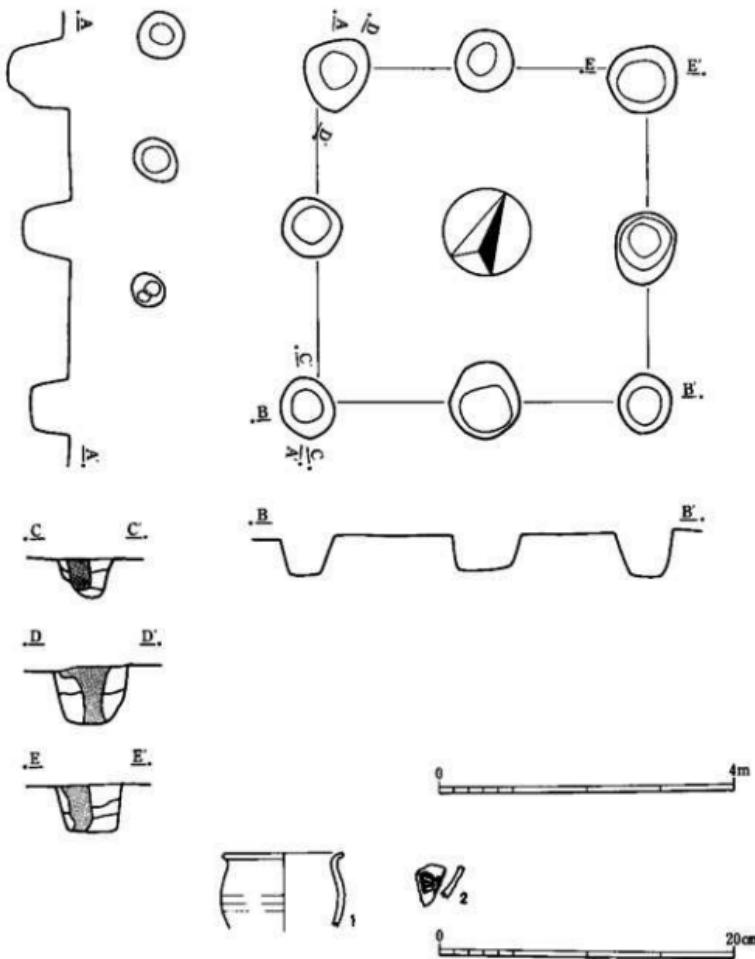
第8図 D192実測図



第9図 D192出土遺物実測図

第4表 D192出土土器一覧

No	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	遺物番号	備考
1	土器器壁	21.0	-	-	砂粒	良	好	明赤褐色	32, 98, 102, 117, 119
2	須恵器環	14.2	8.9	4.3	石英粒	良	好	灰褐色	14, 24, 34, 41, 69, 77
3	須恵器環	14.2	8.9	3.7	石英粒	良	好	灰色	10, 45, 107, 111
4	須恵器環	14.2	18.2	4.6	石英粒	良	好	褐灰色	54, 59, 60, 63, 88, 89, 95 97



第10図 H018・出土遺物実測図

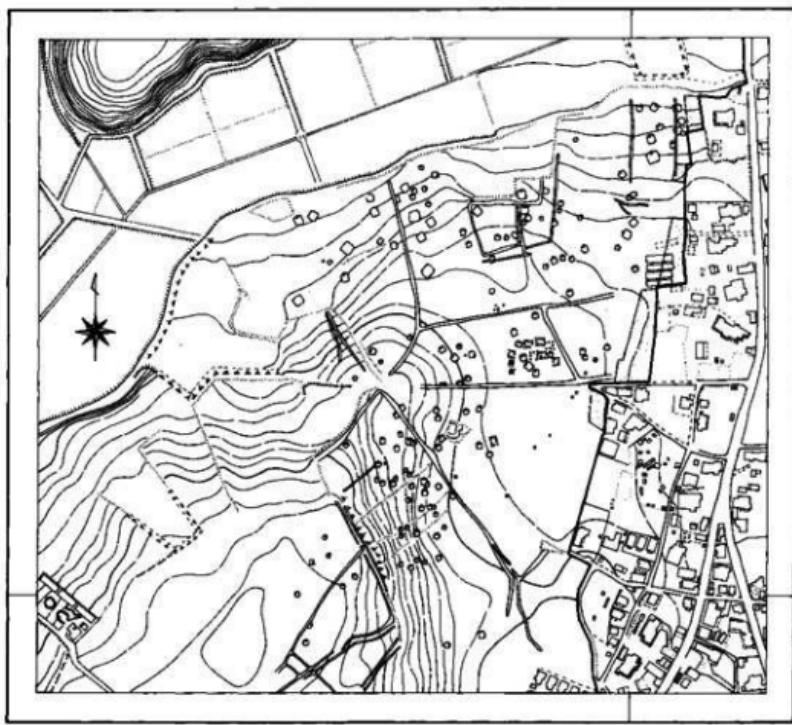
第5表 H018出土土器一覧

No	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成色調	遺物番号	備考
1	ロクロ土器盤	8.1	-	-	黄母粒	良 好	暗褐色	6
2	ロクロ土器環	-	-	-	精 純	良 好	明赤褐色	2 墨書「五」

第3章 北海道遺跡

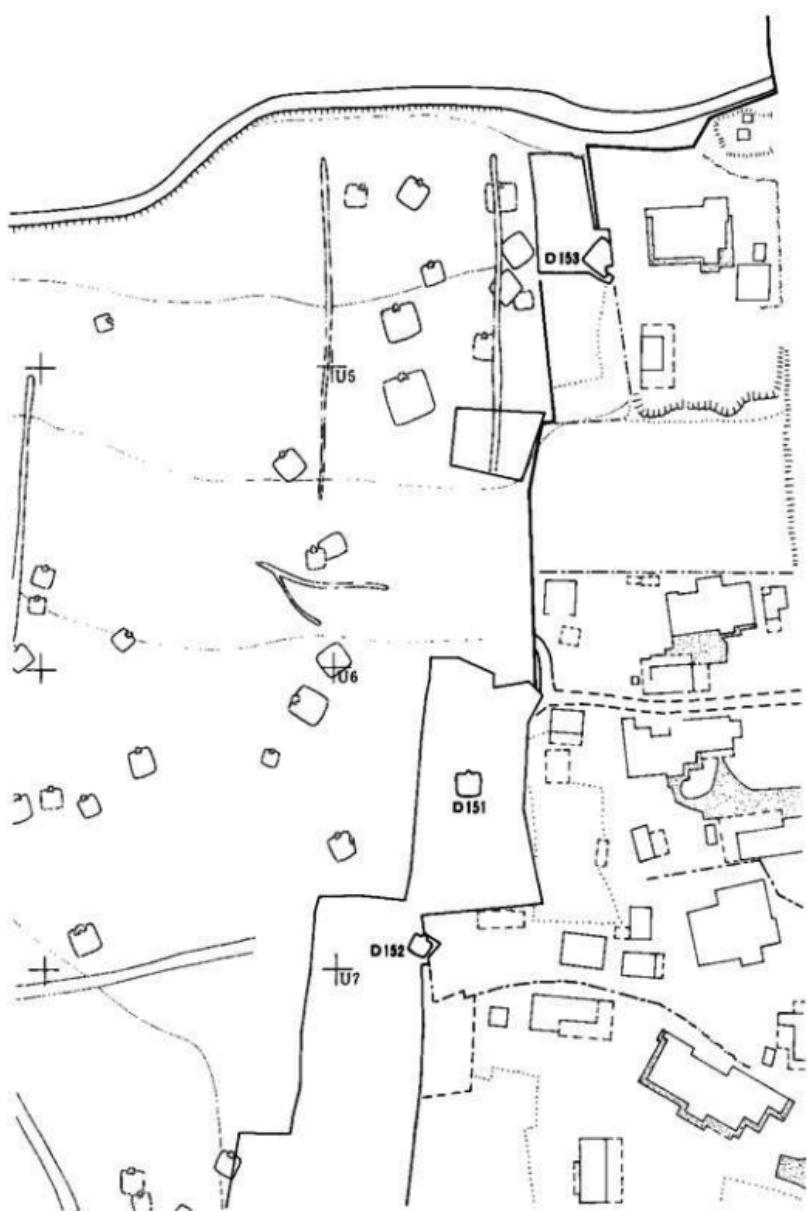
第1節 調査の概要 (第11図、第6表)

北海道遺跡はその大部分が「八千代市北海道遺跡」としてすでに報告書が刊行されている。そこで検出した遺構は先土器時代から平安時代にわたり、先土器時代遺物集中地点63か所、弥生時代後期の竪穴住居跡73軒、古墳時代の竪穴住居跡29軒、奈良時代から平安時代の竪穴住居跡114軒が調査されている。ここに報告するのは昭和58年度に調査を行った北海道遺跡第1地点である。調査対象面積は3,000m²であるが、調査箇所は連続したものではなく、5か所に分断されている。検出した遺構は竪穴住居跡3軒で、その内訳は古墳時代中期が1軒、奈良・平安時代が2軒である。



第11図 北海道遺跡全体図

0 100m



第12図 北海道遺跡第1地点全体図

第6表 北海道遺跡調査地点一覧

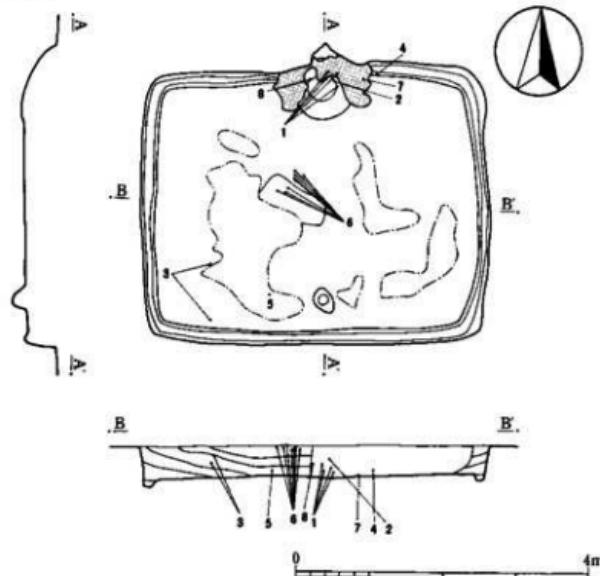
地 点 名	調 査 開 始	調 査 終 了	対 象 面 積	所 在 地	担当者
北海道第1遺跡	昭和58年10月3日	昭和58年12月1日	3,000m ²	菅田字北海道489	藤岡孝司

第2節 北海道遺跡第1地点

D151 (第13・14図、第7表、図版3)

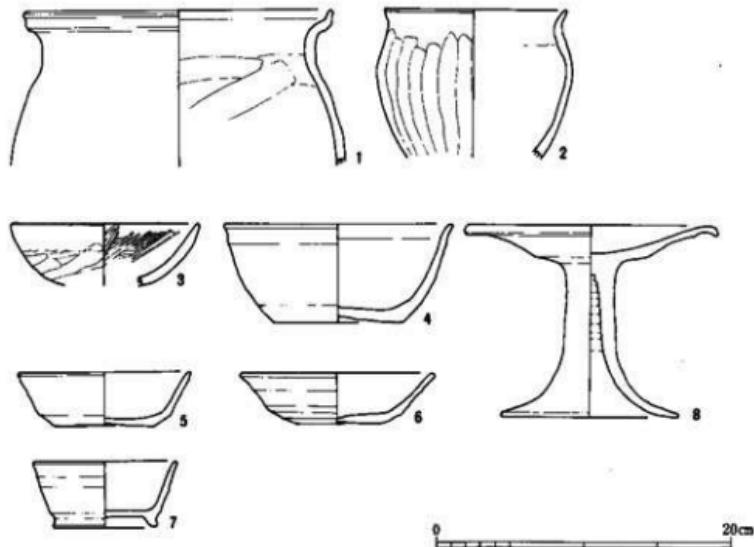
北海道遺跡の北西の隅に竪穴住居跡10軒から構成される北海道遺跡歴史時代第Ⅳ群とした建物群に属する竪穴住居跡で、南北3.7m、東西4.8mの規模を測る。確認面からの深さは0.4mを測り、カマドを除いて壁溝がめぐっている。覆土は全体にローム粒を多く含み、住居中央の床面に近い位置に焼土が堆積していた。柱穴ではなく、カマドに對面する南壁際中央に出入口ピットがある。このピットは直径約0.3m、床面から0.3mの深さがある。床面は出入口ピットからカマドへ向けて硬化面が遺存しているが、住居中央は帯状に硬化面が認められなかった。カマドは北壁中央に設置され、約0.3mの煙道の張り出しがある。袖部の遺存はよくないが、煙道部には天井部が落ち込んでいた。

出土遺物は150点ほどあるがあまり接合せず、図示した遺物の多くはカマドから出土したものである。また、6は他の遺物より時期的に新しいが、覆土上層から出土している。最終埋没時期に近いものと考えられる。1・2は土師器壺で、1は口径20.8cmを測る大型の常純型の壺、2は口径12.4cmを測る小形の壺である。



第13図 D151実測図

3は土師器坏で、体部外面をヘラ削り、体部内面にヘラ磨きを施している。口縁部は丸くおさめ、端部にヨコナデを施している。4～6はロクロ土師器坏で、6は他の遺物と時期が一致しない。底部は4・6が回転糸切り後、回転ヘラ削り、5は静止糸切り後、周縁部回転ヘラ削りを施している。7はロクロ土師器高台坏で、体部は急角度で直線的に立ち上がっている。底部外面は全面回転ヘラ削りで、切り離しは観察できない。体部内面に赤色の顔料が残っている。8はロクロ土師器高坏で、めずらしい器種である。坏部は浅く、口縁部が大きく外反している。脚部は細く長いもので、全面ロクロ調整である。



第14図 D151出土遺物実測図

第7表 D151出土土器一覧

No	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	遺物番号	備考
1	土師器	20.8	—	—	石英粒	良好	褐色	165, 177, 180, 181	
2	土師器	12.4	—	—	砂粒	良好	明赤褐色	182	
3	土師器坏	12.6	—	—	霞母粒	良好	明褐色	4.8	内面ヘラ磨き
4	ロクロ土師器坏	15.6	8.8	6.5	霞母粒	良好	明褐色	139	
5	ロクロ土師器坏	11.6	6.8	3.5	霞母粒	良好	褐色	138	
6	ロクロ土師器坏	13.2	5.5	3.3	砂粒	良好	褐色	22, 24, 26, 132, 136, 142 143, 144	
7	土師器高台坏	9.6	6.9	4.4	霞母粒	良好	明褐色	183	内面赤色顔料
8	土師器高坏	17.1	12.0	12.7	粘土	良好	褐色	187	

D152 (第15図、第8表、図版4)

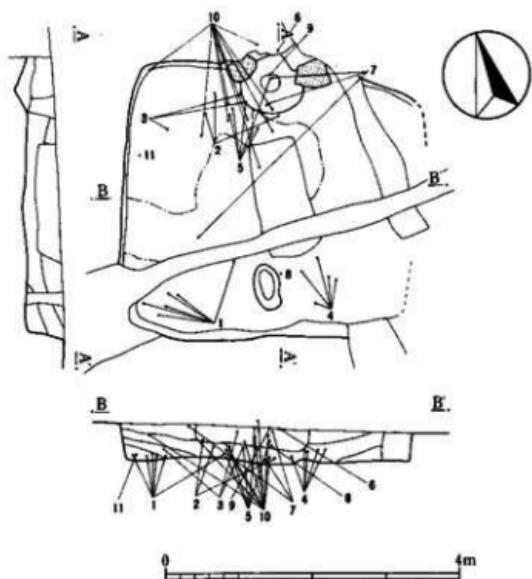
D151と同じく北海道遺跡歴史時代第VII群とした建物群に属する竪穴住居跡で、後世の溝状遺

構によりかなり破壊されている。規模は南北約3.7m、東西約4mを測るが、東壁はほとんど検出できなかった。確認面からの深さは約0.5mを測り、覆土はローム粒およびロームブロックを含んでいる。壁溝はなく、南壁際中央に出口ピットがある。このピットは南北0.7m、東西0.4m、床面からの深さは0.3mを測る。床面は大きく擾乱されているが、西壁からカマド前面にかけてL字状に硬化面が遺存している。カマドは北壁中央に設置され、袖部がわずかに残される。カマド下掘り込みは直徑約0.8mを測る。

出土遺物は比較的多く、300点以上の遺物が出土している。1～3は土師器甕である。1は口径26.3cmを測る大形の甕で、胴部外面は縦位のヘラ削りを、内面は上半が横位の強いヘラナデ、下半が縦位のヘラ削りである。2・3は小形の甕で、胴部外面はともに縦位のヘラ削りである。4・5は須恵器の甕で、同一個体である。口径は29.5cmを測り、底部は5孔である。胴部外面は縦位の叩き、底部近くで横位のヘラ削りを施している。6～10はロクロ土師器甕で、底部は

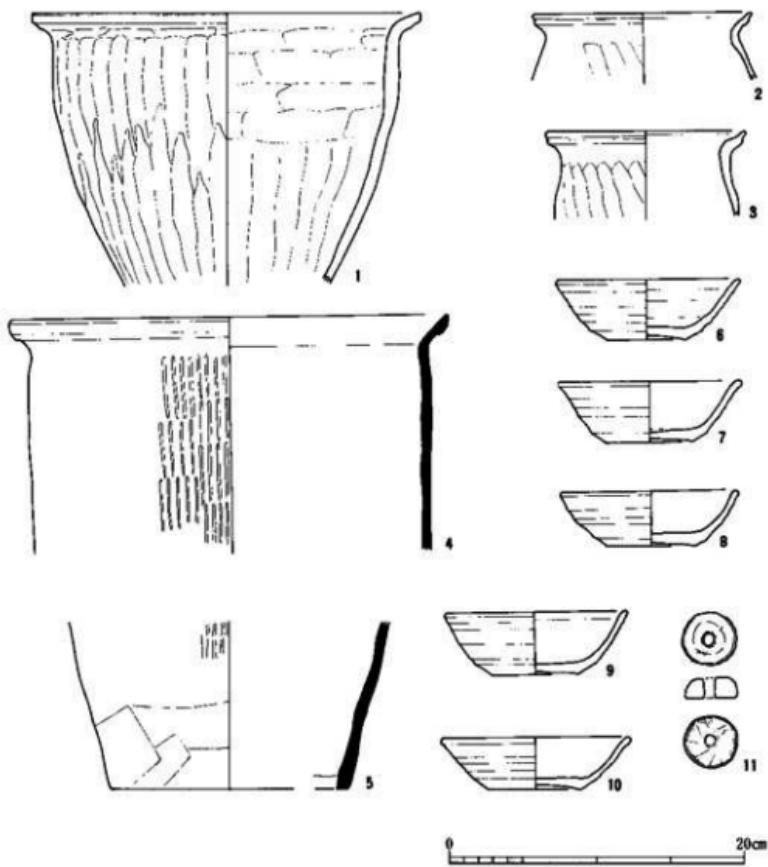
第8表 D 152出土土器一覧

No	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	遺物番号	備考
1	土師器甕	26.3	—	—	砂粒	良	好	褐色	29,149,151,186,212 215
2	土師器甕	15.0	—	—	砂粒	不良	好	褐色	120,194,295
3	土師器甕	13.5	—	—	砂粒	不良	好	褐色	167,184,190
4	須恵器甕	29.5	—	—	砂粒	良	好	褐色	43,47,48,52,256
5	須恵器甕	—	18.2	—	砂粒	良	好	褐色	14,176,190,309,324
6	ロクロ土師器甕	12.3	5.2	4.0	砂粒	良	好	褐色	331
7	ロクロ土師器甕	12.2	5.9	4.0	雲母粒	良	好	褐色	26,312,326
8	ロクロ土師器甕	12.8	6.0	3.7	雲母粒	良	好	褐色	291
9	ロクロ土師器甕	12.3	5.8	4.1	雲母粒	良	好	褐色	322
10	ロクロ土師器甕	12.8	6.2	3.4	砂粒	良	好	赤褐色	8,16,77,80,192,273 290,302,337



第15図 D 152実測図

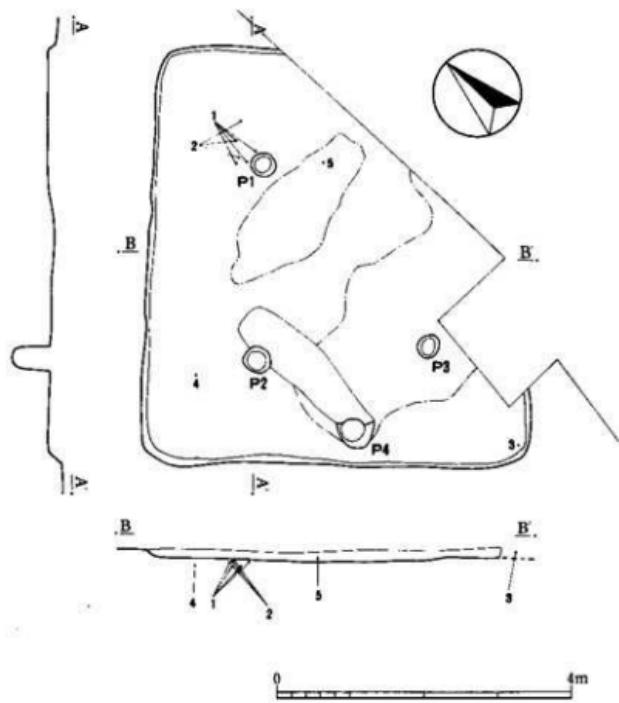
すべて回転糸切り後、全面回転ヘラ削りを施している。11は石製の紡錘具で、直径3.6cmを測る。



第16図 D152出土遺物実測図

D153 (第17・18図、第9表、図版5)

北海道遺跡の東端に古墳時代中期の竪穴住居跡2軒から構成される古墳時代中期第V群とした建物群がある。本住居はこの建物群のなかに含まれる竪穴住居で、北東コーナーが調査範囲外に含まれる。規模は $5.6m \times 5.3m$ を測り、平面形は方形である。確認面からの深さは約0.2mで、覆土はローム粒・ロームブロックを多く含んでいる。柱穴は住居対角線上に4か所配置されていたと考えられるが、北東の柱穴は未調査区域に含まれている。各柱穴は直径約0.3mの円形で、床面からの深さは0.5~0.7mを測る。また、南東壁際中央に直径約0.5mのピットがある。



第17図 D153実測図



第18図 D153出土遺物実測図

第9表 D153出土土器一覧

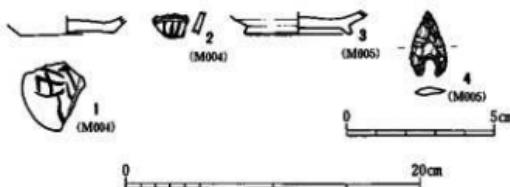
No.	器種	口徑	底径	器高	胎土	焼成	色調	遺物番号	備考
1	鉢形土器	13.0	6.5	8.6	砂粒	良	好	褐色	51, 67, 85, 86, 90
2	鉢形土器	8.0	3.0	7.2	砂粒	良	好	褐色	45, 51, 60

このピットも床面から0.7mの深さがあり、主柱穴とするのに充分な規模をもっている。床面はP1の南側とP4から住居東コーナーに向かた広い範囲に硬化面が遺存している。なお、炉は確認できなかった。

出土遺物は少ない。1・2は鉢形土器で、1は頸部から短く口縁部が立ち上がっている。頸部は後から粘土を張り付け、指頭で調整している。胴部は上半に横位のヘラ削りを施している。なお、底部は器厚が薄くなりすぎたためか、後から粘土を円形に張り付け、その部分に入念なヘラ磨きを施している。2は口縁部が内弯する小形の土器で、内外面とも丁寧にナデを施している。3は砂岩製の砥石である。一端に両側穿孔の孔が貫通している。4は滑石製の臼玉未製品である。5は直径8mmを測る土製の玉で、孔はない。

その他の遺物（第19図、第10表）

北海道遺跡第3地点では近世の溝から若干の遺物が出土している。1・2はロクロ土師器坏で、1は底部外面に「富」が、2は体部外面に墨書きされている。3はロクロ土師器皿の底部破片である。



第19図 M004・M005出土遺物実測図

第10表 溝状造構出土土器一覧

No.	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	遺物番号	備考
1	ロクロ土師器坏	-	6.3	-	砂粒	良	好	褐色	M4-101,102 墨書き「富」
2	ロクロ土師器坏	-	-	-	砂粒	良	好	褐色	M4-82 墨書き
3	ロクロ土師器坏	-	7.3	-	滑 砂	良	好	明褐色	M5-34

第4章 井戸向遺跡

第1節 調査の概要（第20図、第11表）

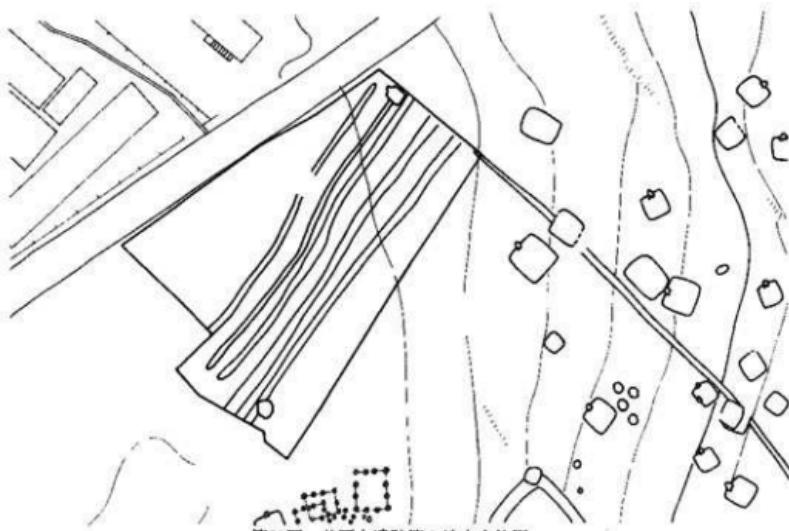
井戸向遺跡はその大部分が「八千代市井戸向遺跡」としてすでに報告書が刊行されている。ここで検出した遺構は先土器時代から平安時代にわたり、先土器時代遺物集中地点34地点、奈良・平安時代の竪穴住居跡99軒、掘立柱建物跡44棟等がある。ここに報告するのは昭和58年度以降に17次にわたって調査を行った9か所である。9か所の調査対象面積は17,099m²である。検出した遺構は先土器時代遺物集中地点9箇所、古墳時代前期の竪穴住居跡1軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡8軒等である。なお、井戸向遺跡第9地点では竪穴住居跡から奈良三彩陶器の托と小壺が出土している。



第20図 井戸向遺跡全体図

第11表 井戸向遺跡調査地点一覧

地 点 名	調 査 開 始	調 査 終 了	対 象 面 積	所 在 地	担当者
井戸向第1地点	昭和58年11月28日	昭和58年12月23日	2,825m ²	壹田字井戸向1531-7	藤岡季司
井戸向第2地点	昭和58年4月18日	昭和58年5月24日	536m ²	壹田字井戸向1464	金丸 誠
井戸向第3地点	昭和58年5月9日	昭和58年5月21日	958m ²	壹田字寺ノ内1506	藤岡季司
井戸向第4地点	昭和59年12月1日	昭和59年12月15日	900m ²	大和田新田字坊山533-9	奥田正彦
井戸向第4地点	昭和60年11月20日	昭和61年1月20日	1,920m ²	大和田新田字坊山533-6	奥田正彦
井戸向第4地点	昭和61年3月3日	昭和61年3月22日	890m ²	大和田新田字坊山533-7	奥田正彦
井戸向第4地点	昭和61年12月8日	昭和61年3月3日	1,770m ²	大和田新田字坊山533-4	奥田正彦
井戸向第4地点	平成元年4月5日	平成元年4月19日	510m ²	壹田字井戸向1531-7	大野康男
井戸向第5地点	昭和60年12月18日	昭和61年1月9日	300m ²	大和田新田字坊山548-8	奥田正彦
井戸向第5地点	平成2年5月14日	平成2年5月18日	85m ²	大和田新田550-3	大野康男
井戸向第6地点	平成元年8月23日	平成元年8月30日	205m ²	大和田新田字坊山548-4	大野康男
井戸向第6地点	平成3年4月8日	平成3年4月26日	300m ²	大和田新田548-4	大野康男
井戸向第7地点	平成2年10月1日	平成2年10月5日	200m ²	壹田字寺ノ内1503-1	大野康男
井戸向第8地点	昭和60年5月24日	昭和60年6月21日	400m ²	壹田字井戸向1536-3	奥田正彦
井戸向第8地点	昭和61年7月1日	昭和61年8月5日	700m ²	壹田字井戸向1536-1	奥田正彦
井戸向第9地点	平成元年8月1日	平成元年9月29日	3,600m ²	壹田字弁天作1579-5	大野康男
井戸向第9地点	平成3年4月8日	平成3年4月30日	1,000m ²	壹田字弁天作1579-4	大野康男



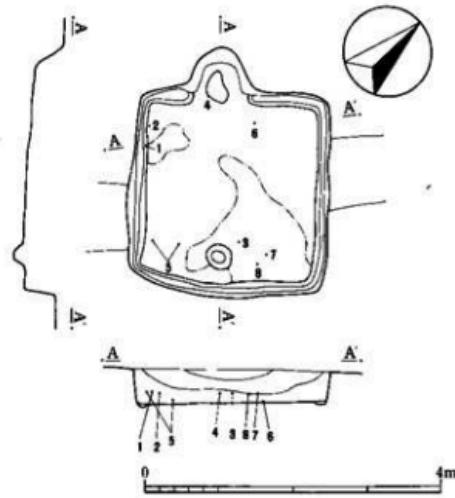
第2節 井戸向遺跡第1地点

井戸向遺跡第1地点はQ18グリッドを中心とした一角で、北側に井戸向遺跡第4地点、南側に同第8地点が隣接している。調査対象面積は2,825m²で、奈良時代の竪穴住居跡1軒、土壙1基、近世の溝状造構5条を検出した。

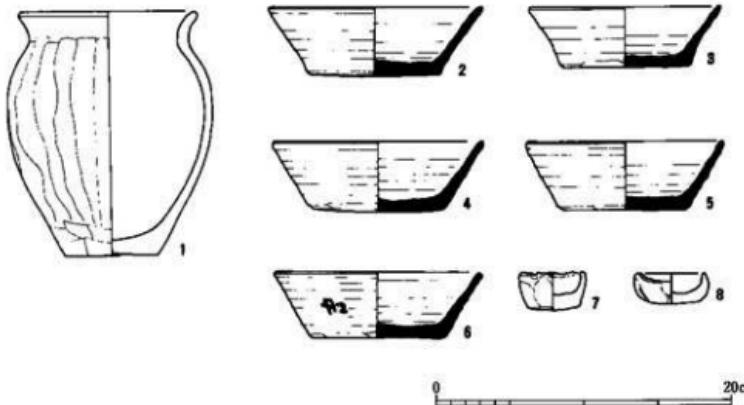
D143(第22・23図、第12表、図版5・6)

井戸向遺跡の中央で竪穴住居跡12軒から構成される歴史時代第II群とした建物群に属する竪穴住居跡である。規模は2.8m×2.8mを測り、方形の平面形である。確認面からの深さは0.4mで、埋土はローム粒およびロームブロックを多く含んでいる。柱穴はなく、南東壁際中央に出入口ピットがある。

このピットは直径約0.3mを測り、床面から0.2mの深さがある。壁溝はカマド部分を除いてめぐり、床面は住居南東コーナーから住居中央にかけてと、北西コーナー近くの2か所に硬化面が遺存している。カマドは住居北西壁に設置され、約0.6mの煙道の張り出しがあ



第22図 D143実測図



第23図 D143出土物実測図

る。袖部はまったく遺存せず、カマド下掘り込みはほとんど張り出し部におさまっている。

出土遺物は非常に少ないが、8点の土器を図示することができた。図示した遺物は完形ないし完形に近いものであるが、いずれも床面よりわずかに上の埋土から出土している。1は土師器壺である。胸部は縦位のヘラ削りで、底部近くで横位のヘラ削りを加えている。底部は不定なヘラ削りである。2～6は須恵器壺である。底径はいずれも8cmを超えるもので、底部はヘラ切り後、1はわずかにナデ調整、他は全面一方向にヘラ削りを施している。体部下端は1を除いてヘラ削りを施している。なお、3は口縁部に油煙が付着し、6は体部外面に横位に墨書きされている。文字は不明である。7・8は土師器の手捏ねの整形の壺である。器面に指頭圧痕が観察できる。

第12表 D143出土土器一覧

No	器種	口径	底径	厚さ	胎土	焼成	色調	遺物番号	備考
1	土師器壺	11.9	6.2	16.3	砂粒	良	好	暗赤褐色	22
2	須恵器壺	14.5	8.8	4.6	雲母粒	良	好	青灰色	21
3	須恵器壺	12.9	8.4	4.0	石英粒	良	好	青灰色	17
4	須恵器壺	14.3	8.8	4.6	精礪	良	好	青灰色	24
5	須恵器壺	13.1	8.45	4.6	石英粒	良	好	青灰色	19,20
6	須恵器壺	14.1	8.8	4.3	石英粒	良	好	青灰色	2
7	土師器壺	4.3	3.3	2.4	砂粒	良	好	褐色	16
8	土師器壺	4.6	—	2.0	砂粒	良	好	褐色	18

P196 (第24図)

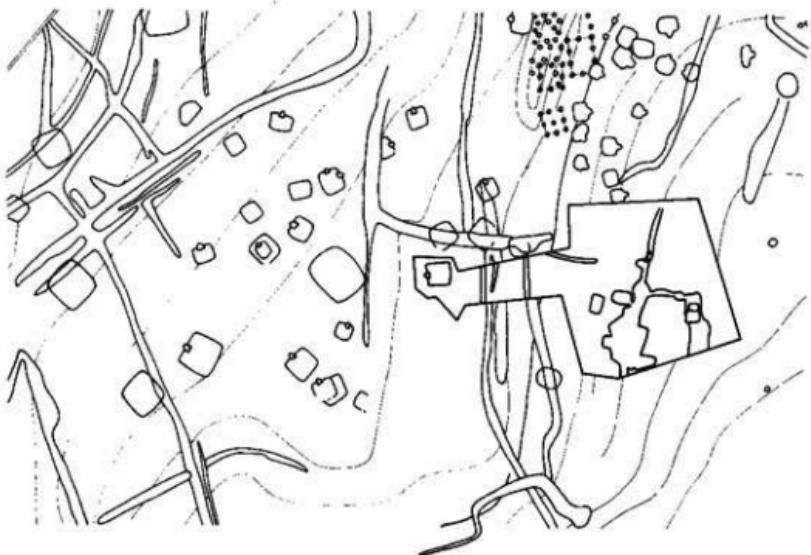
Q18-33グリッドに位置する土壤で、規模は2.4m×2.1mの略方形である。近世の溝状遺構と重複するが、溝状遺構に先行して構築されたものである。確認面からの深さは0.4mで、覆土はローム粒をかなり多く含んでいる。底面はほぼ平坦で、壁ぎわから中央に向ってわずかに低くなっている。出土遺物はない。



第24図 P196実測図

第3節 井戸向遺跡第2地点（第25図）

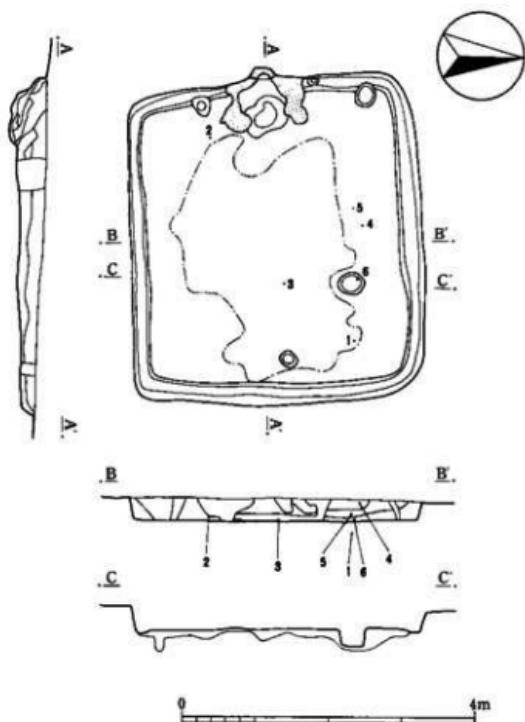
井戸向遺跡第2地点はU16グリッドに位置し、寺谷津に面した緩斜面にあたる。標高は13～15mで、寺谷津の沖積層面との比高は2～4mほどである。調査対象面積は536m²で、奈良時代の竪穴住居跡1軒と近世の溝状遺構および土壤が検出できた。



第25図 井戸向遺跡第2地点全体図

D142（第26・27図、第13表、図版6・7）

井戸向遺跡の北端に竪穴住居跡37軒、掘立柱建物跡28棟から構成される歴史時代第I群とした建物群に属する竪穴住居跡である。規模は4.4m×4.0mを測り、平面形は整った方形である。確認面からの深さは約0.3mで、覆土はローム粒を多く含み、上層では炭化粒も含んでいる。壁溝はカマド下も含めて全周し、柱穴は西壁に接して2か所、北東コーナー寄りに1か所の合計3か所が確認できた。柱穴の直径は0.2～0.3mで、床面から0.3mの深さがある。なお、P3に対応する南東コーナー寄りの床面の硬化面の遺存状況はあたかも障害物があったかの様相であり、本来は4か所に主柱があったのかもしれない。また、東壁ぎわに直径0.2mの出入口ピットがある。床面は住居内の広い範囲に硬化面が遺存しているが、前述したように、西側ではP3およびそれと並ぶ位置が抜けている。カマドは西壁中央に設置され、0.2mの煙道部の張り出しがある。構築材は袖部から煙道部までおよんでおり、カマド下掘り込みは直径0.6mを測る。

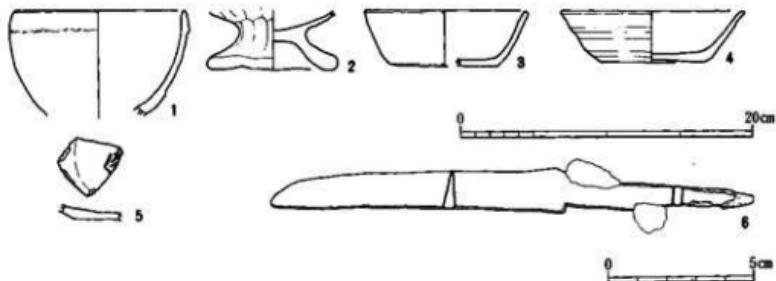


第26図 D142実測図

出土遺物は約170点あり、図示した遺物のうち4以外は床面ないし床面に近いレベルから出土したものである。1は土師器鉢で、底部を欠損している。口縁部に1条の粘土紐接合痕を残すが、器面は2次的な火熱を受け内外面とも剥落している。2は土師器の台付き壺である。3～5はロクロ土師器壺で、3が本住居の時期を示すものと思われる。底部は3・5が一方向のヘラ削り、4は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。なお、5は底部外面に墨書きされている。文字は不明である。6は刀子である。

第13表 D142出土土器一覧

No.	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	遺物番号	備考
1	土師器鉢	11.6	—	—	砂粒	不良	赤褐色	172	
2	土師器壺	—	8.8	—	砂粒	不良	赤褐色	102	
3	ロクロ土師器壺	11.2	7.6	3.8	白色	針	良好	赤褐色	60
4	ロクロ土師器壺	12.5	7.2	3.5	精緻	良	好	褐色	50
5	ロクロ土師器壺	—	—	—	砂粒	良	好	暗褐色	82 墨書き



第27図 D142出土遺物実測図

P 190 (第28図)

U17-42グリッドに位置する土壌で、規模は $3.0m \times 2.0m$ のきわめて整った方形である。確認面からの深さは1.5mで、覆土は細かく分層できるが全体的にロームブロックを含んでいる。底面には0.4mの厚さでロームブロックを主体とする土層が堆積し、その上を薄く粘土が覆っている。

出土遺物は土師器・須恵器の破片が少しあるが、本土壤の時期決定の材料にはならない。

P 191 (第28図)

U17-43グリッドに位置する土壌で、近世の溝状遺構と一部重複している。規模は $3.4m \times 2.0m$ を測り、方形である。確認面からの深さは1.0mで、覆土は全体にローム粒・ロームブロックを多く含み、最下層にローム粒を主体とした土層が0.4mの厚さで水平に堆積している。

出土遺物は9世紀代の土師器・須恵器がわずかに出土しているが、時期の決定材料とはならない。

P 192 (第29図)

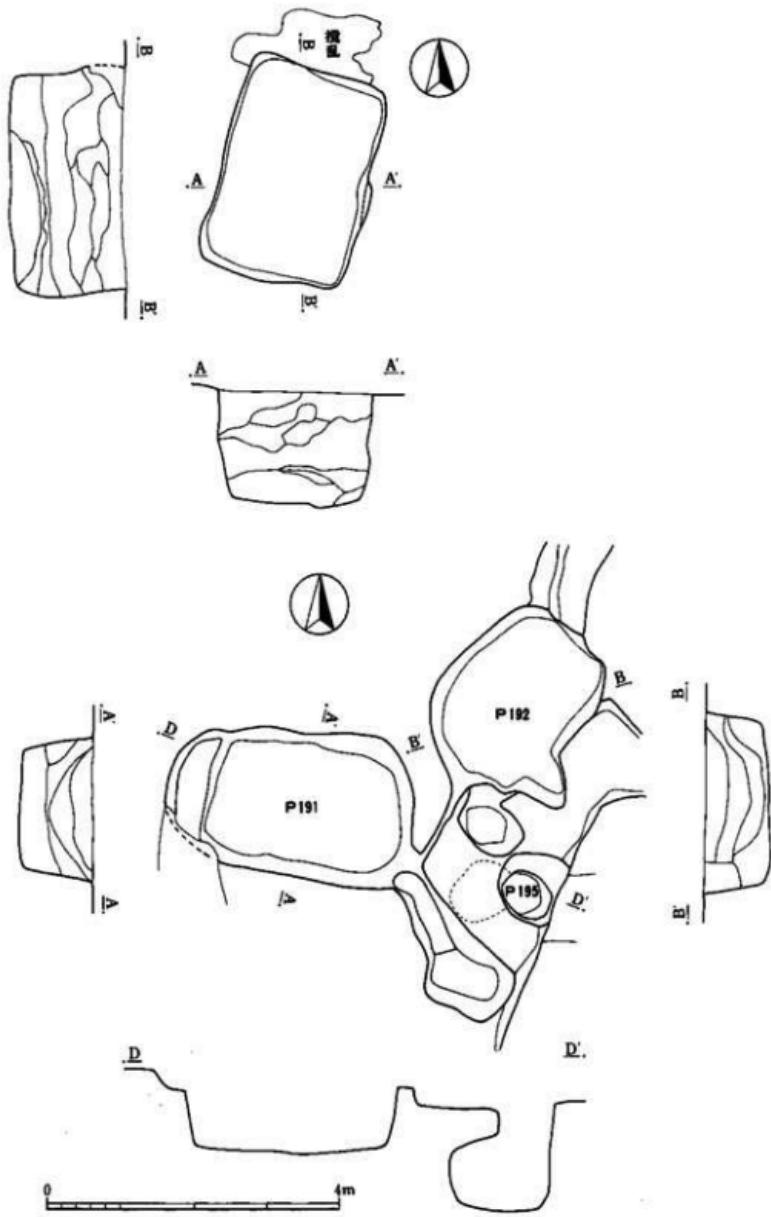
U17-44グリッドに位置する土壌で、やはり近世の溝状遺構と一部重複している。規模は $2.5m \times 1.8m$ を測り、方形である。また、東壁の一部が約0.5m張り出しており、入口施設と考えられる。確認面からの深さは1.0mで、覆土はローム粒・ロームブロックを主体とした土層が堆積している。出土遺物は9世紀代の土師器・須恵器の破片があるが、P 191同様時期の決定材料とはならない。

P 193 (第29図)

U17-63グリッドに位置する土壌で、近世の溝状遺構に中央を破壊されている。規模は $2.9m \times 1.6m$ を測り、方形である。確認面からの深さは0.8mで、覆土はロームブロックを多く含んでいる。なお、溝状遺構に先行して構築されている。

P 194 (第29図)

U17-63グリッドに位置する土壌で、近世の溝状遺構に一部破壊されている。規模は長軸長が

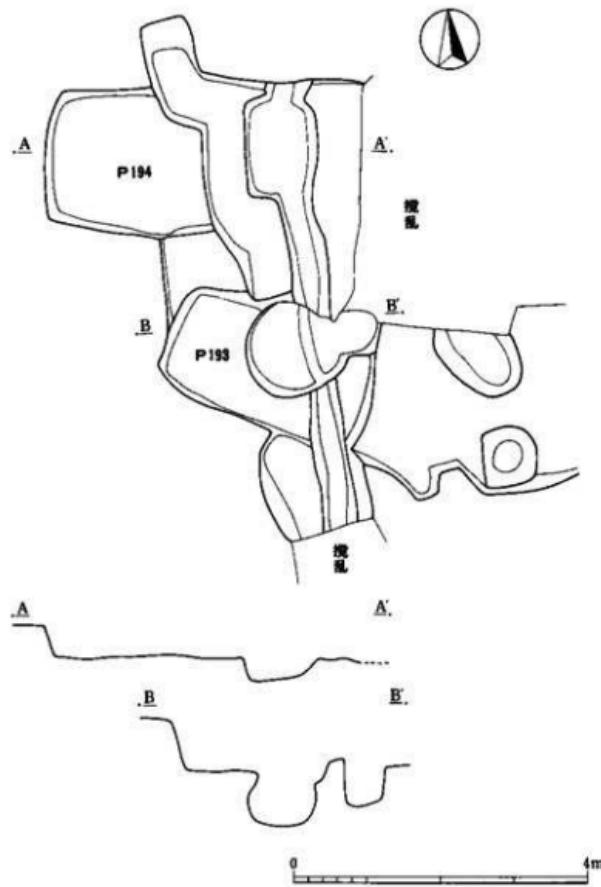


第28図 P190・P191・P192・P195実測図

不明だが、短軸は2.0mを測り、方形である。確認面からの深さは0.4mで、覆土はローム粒を主体とし、ロームブロックを若干含んでいる。

P 195 (第28図)

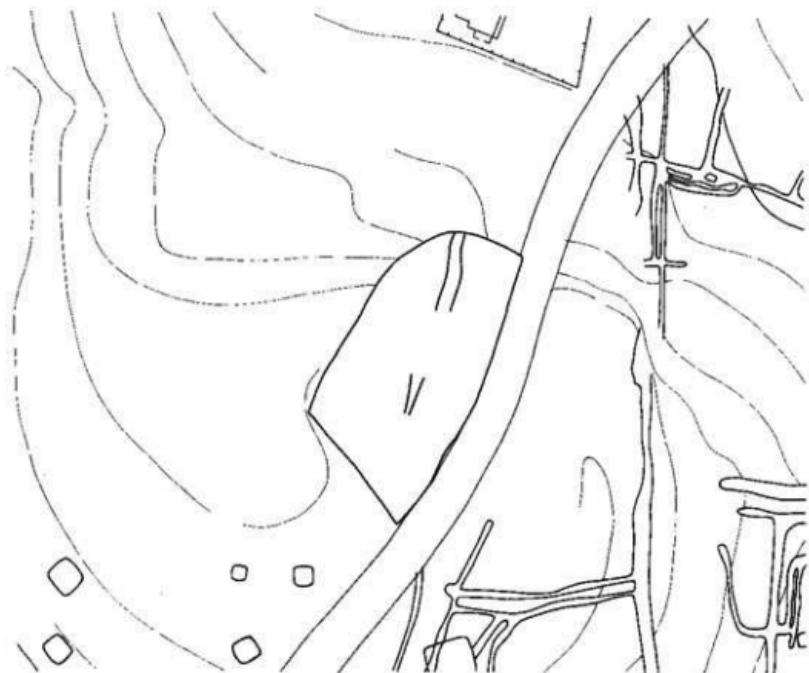
U17-44に位置する土壤で、やはり近世の溝状遺構と重複している。規模は直径1.0m円形で、断面図Dに見るよう確認面より底面が広い。底面の規模は1.2m×0.8mを測り、ほぼ平坦である。確認面からの深さは1.2mである。出土遺物はない。



第29図 P 193・P 194実測図

第4節 井戸向遺跡第3地点（第30図）

井戸向遺跡第3地点はS14グリッドに位置し、北側に第5地点、南側に第6地点、東側に第7地点が隣接している。調査対象面積は958m²で、現況はかなり削平されており、近世の溝状構を1条検出しただけである。



第30図 井戸向遺跡第3地点全体図

第5節 井戸向遺跡第4地点 (第31図)

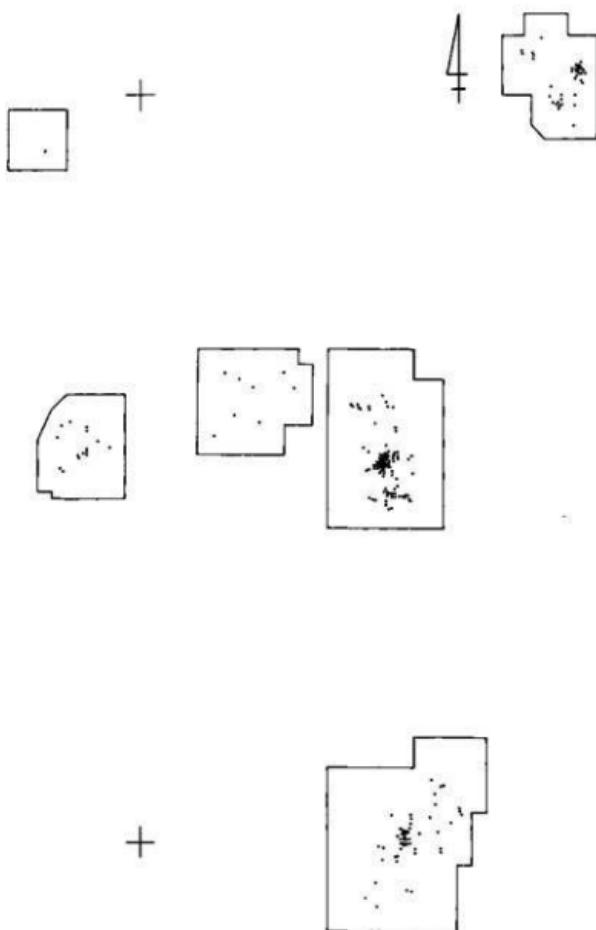
井戸向遺跡第4地点はR16グリッドに位置し、段丘上位面の縁辺部にあたる。標高は約23mを測り、寺谷津が形成した冲積層面との比高は10m強となる。調査は5次にわたって行われ、調査対象面積の合計は5,990m²である。検出した遺構は先土器時代遺物集中地点7か所、古墳時代前期の竪穴住居跡1軒、時期不明の土塁2基、近世の溝状遺構である。



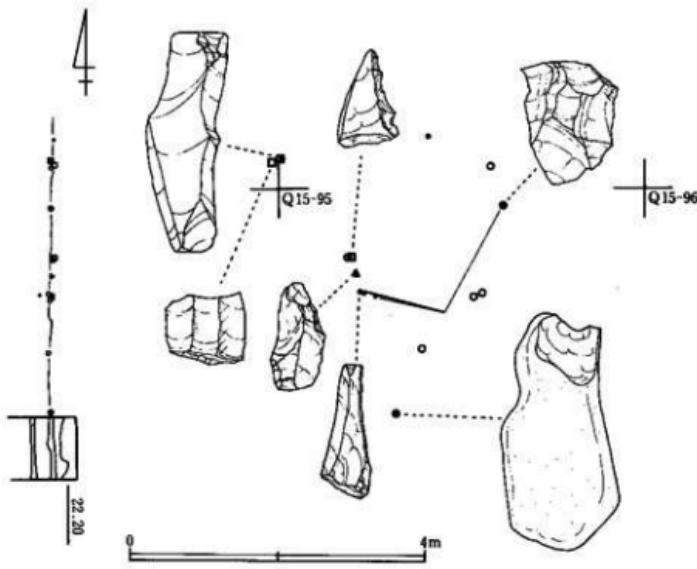
第31図 井戸向遺跡第4地点全体図

S 032 (第33~35図、第14・15表、図版7・8)

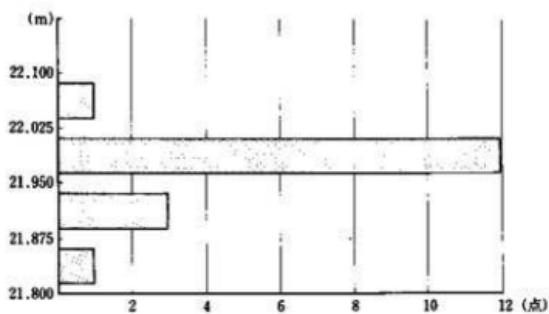
VII層を産出層準とする遺物集中地点で、Q15-95グリッドを中心に直径約3mの範囲に遺物が分布している。遺物の上下への拡散は少なく、標高最大値は22.071m、最小値21.821m、平均値21.967m、標準偏差は0.05である。遺物点数は17点で、ナイフ形石器1点を含んでいる。使用石材は安山岩・凝灰岩で、大量に消費された母岩はない。安山岩3は5点あり、剥片利用石核・剥片・碎片・調整痕のある剥片があり、遺物実測図3および碎片が石核に接合した。なお、安山岩3とした石材はS 033地点・S 036地点・S 038地点でも出土しており、特にS 038地点で



第32図 井戸向遺跡第4地点先土器時代遺物分布図



第33図 S 032地点遺物分布状況

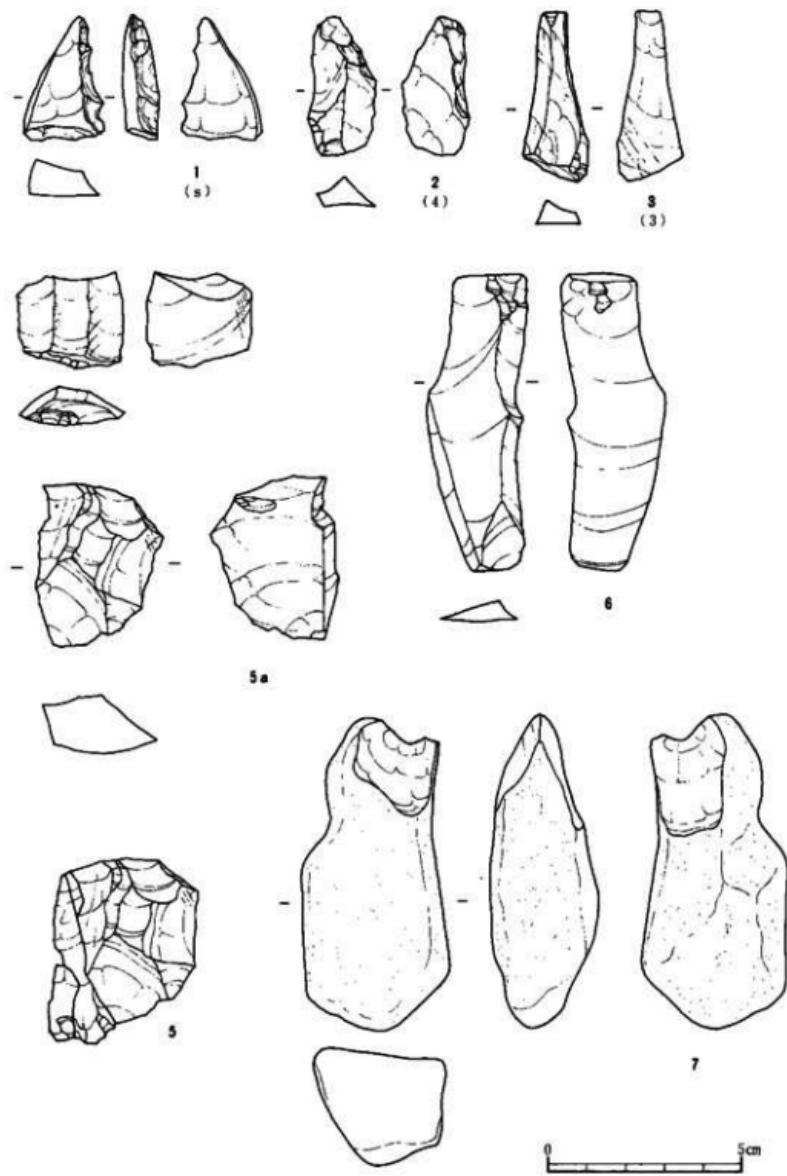


第34図 S 032地点遺物垂直分布

大量に使用されている。

安山岩 3 比較的緻密で黒色の石材で、わずかに白色の斑晶を含んでいる。剥片利用石核・調整痕のある剥片・剥片・碎片がある。5の石核には3の剥片を含め、3点が接合した。1は縦長の剥片を折断し、側縁に粗い調整を施している。

凝灰岩 1 表面は風化が進み、白色となっている。3のナイフ形石器が1点あるだけである。縦長の剥片を素材として、左側縁にわずかにプランティングを施している。



第35図 S 032地点出土遺物実測図

第14表 S 032地点遺物計測表

標図No	遺物No	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	5	R・フレイク	3.05	1.98	0.86	5.45	安山岩	安山岩 3
2	4	ナイフ形石器	3.49	1.54	0.76	4.73	凝灰岩	凝灰岩 1
3	3	剥片	4.31	1.53	0.93	5.26	安山岩	安山岩 3
4	14	R・フレイク	2.23	2.65	0.76	6.19	凝灰岩	凝灰岩 6
5	10	剥片利用石核	3.95	3.05	1.57	22.11	安山岩	安山岩 3
6	13	石刃	7.40	2.39	0.55	11.32	凝灰岩	凝灰岩 5
7	1	石核	7.52	3.59	2.90	95.68	凝灰岩	未分類

第15表 S 032地点遺物集計表

石材	ナイフ 形石器	石刃	R・ フレイク	剥片	碎片	石核	礫	合計	%
安山岩 3			1 5.45	1 5.26	2 2.01	1 22.11		5 34.83	29.42 3.30
凝灰岩 1	1 4.73							1 4.73	5.88 0.45
凝灰岩 2				1 2.53				1 2.53	5.88 0.24
凝灰岩 4							3 26.01	3 26.01	17.65 2.47
凝灰岩 5		1 11.32						1 11.32	5.88 1.07
凝灰岩 6			1 6.19					1 6.19	5.88 0.59
未分類						1 95.68	4 873.37	5 969.05	29.41 91.88
合計	1 4.73	1 11.32	2 11.64	2 7.79	2 2.01	117.79	899.38	1054.66	100.00 100.00
%	5.88 0.45	5.88 1.07	11.76 1.10	11.76 0.74	11.76 0.19	11.76 11.17	41.20 85.28	100.00 100.00	

(上段は点数、下段は重量)

凝灰岩 2 やはり表面の風化が著しいが、凝灰岩 1 と比較して緻密である。不定形な剥片が 1 点ある。

凝灰岩 4 青灰色の石材で、礫片が 3 点ある。すべて礫面を残しているが、接合しない。

凝灰岩 5 黒色の緻密な石材で、6 の石刃がある。

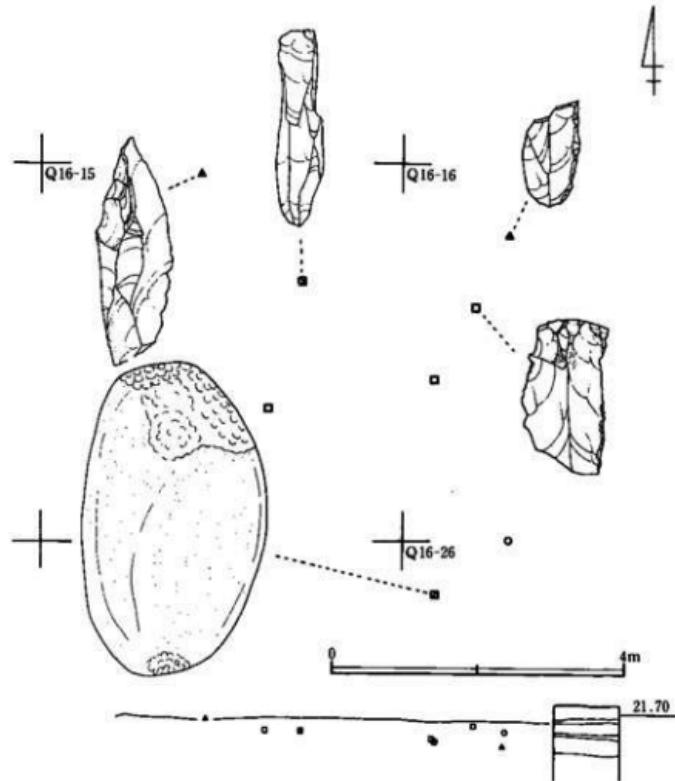
そのほかの石材として、砂岩・凝灰岩・チャートの礫と遺物実測図 7 の石核がある。7 は拳大の礫の一端を両側から敲打している。礫は拳大ないしはそれ以上の大きさで、ほとんど原形をとどめている。

S 033地点（第36・37図、第16・17表、図版8・9）

IX a層を産出層準とする遺物集中地点で、Q16-15グリッドを中心に直径約5mの範囲に遺物が分布している。南側にS 034地点が隣接し、一つの遺物集中地点ととらえて問題はない。遺物総数はS 034地点を含めても8点しかなく、剝片・碎片は1点もない。遺物の出土レベルは最高値が21.618m、最低値21.276m、平均値21.464m、標準偏差0.112である。使用石材は安山岩・凝灰岩で母岩にまとまりがなく、いわば製品を主体とした遺物集中地点である。

安山岩1 灰色の比較的緻密な石材で、遺物実測図のナイフ形石器がある。これはかなり大型の製品で、長さは7.52cmを測る。縦長の厚手の剝片を素材とし、左側縁にプランティングを施している。

安山岩3 黒色の緻密な石材で、わずかに白色の斑晶を含んでいる。本地点以外にS 032・S 036地点でも出土している。本地点では調整痕のある剝片が2点ある。5は縦長の剝片を折断したもので、右側縁に調整が施されている。6は縦長の厚手の剝片で、裏面



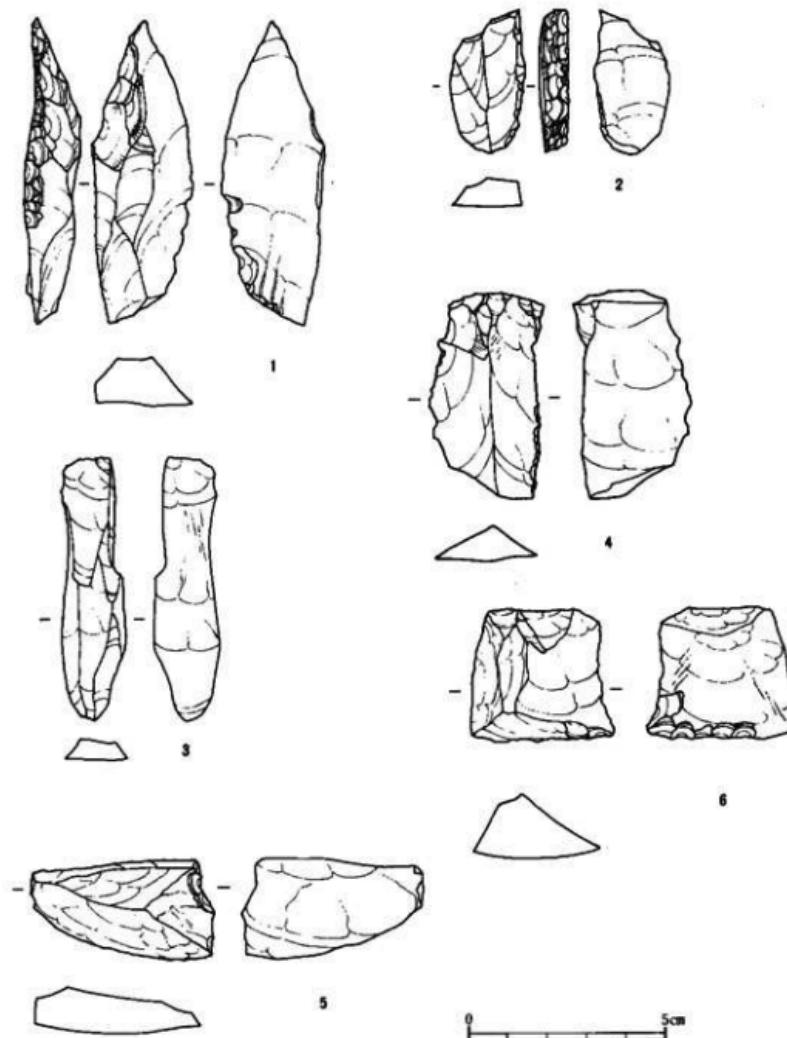
第36図 S 033・S 034地点遺物分布状況

から調整が施されている。

凝灰岩3 明黄色の石材で、遺物実測図3の石刃がある。

凝灰岩7 灰色の緻密な石材で、遺物実測図4の石刃がある。S038地点でも1点出土している。

凝灰岩8 灰色の緻密な石材で、遺物実測図2のナイフ形石器がある。先端部を欠損するが、縦長の剥片を素材とし、左側縁にプランティングを施している。



第37図 S033地点出土遺物実測図

この他S034地点から安山岩製の敲石が出土している。拳大より若干大きい砾を使用し、両端部に敲打痕が残されている。

第16表 S033地点遺物計測表

捕获No	遺物No	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	3	ナイフ形石器	7.52	2.52	1.16	22.13	安山岩	安山岩 1
2	6	ナイフ形石器	3.29	1.74	0.73	5.89	凝灰岩	凝灰岩 8
3	2	石刃	6.37	1.55	0.46	5.23	凝灰岩	凝灰岩 3
4	5	R・フレイク	4.89	2.77	0.96	13.23	凝灰岩	凝灰岩 7
5	1	R・フレイク	4.60	2.39	1.19	13.93	安山岩	安山岩 3
6	4	R・フレイク	3.42	3.65	1.87	22.64	安山岩	安山岩 3

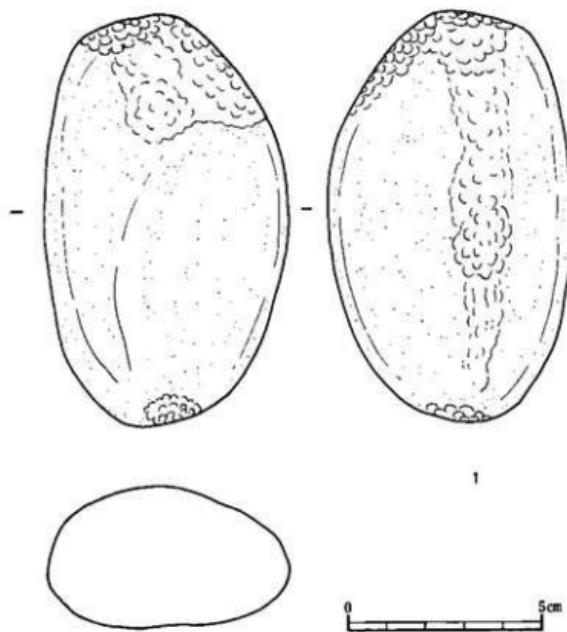
第17表 S033地点遺物集計表

石材	ナイフ形石器	石刃	R・フレイク	合計	%
安山岩 1	1 22.13		1 22.13	16.67 26.65	
安山岩 3			2 36.57	2 36.57	33.34 44.03
凝灰岩 3		1 5.23		1 5.23	16.67 6.30
凝灰岩 7			1 13.23	1 13.23	16.67 15.93
凝灰岩 8	1 5.89			1 5.89	16.67 7.09
合計	2 28.02	1 5.23	3 49.80	6 83.05	100.00 100.00
%	33.33 33.74	16.67 6.30	50.00 59.96	100.00 100.00	

(上段は点数、下段は重量)

S035地点 (第39~44図、第20・21表、図版9・10)

VII層からIX層上部を産出層準とする遺物集中地点で、Q16-35グリッドを中心に、東西約7m、南北約3mの範囲に遺物が分布している。遺物の分布はランダムな分布ではなく、視覚的に3か所に集中している。これら3か所は使用石材に大きな違いはないが、たがいに接合する資料は存在しない。遺物総数は108点で、井戸向遺跡第4地点の先土器時代遺物集中地点のなかで最も多くの遺物が出土している。また、使用石材も豊富で、安山岩・凝灰岩・チャート・珪質頁岩・メノウがあり、母岩数も多い。遺物の出土レベルは、最高値は21.276m、最低値20.631m、平均値20.923m、標準偏差0.137である。遺物は楔形石器・調整痕のある剝片・石核・剝片・碎片があり、点数的には碎片が圧倒的に多い。母岩別にみた場合、楔形石器が生産された母岩は



第38図 S 034地点出土遺物実測図

第18表 S 034地点遺物計測表

挿図No	遺物No	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	2	敲石	10.33	6.14	3.64	316.54	安山岩	未分類

第19表 S 034地点遺物集計表

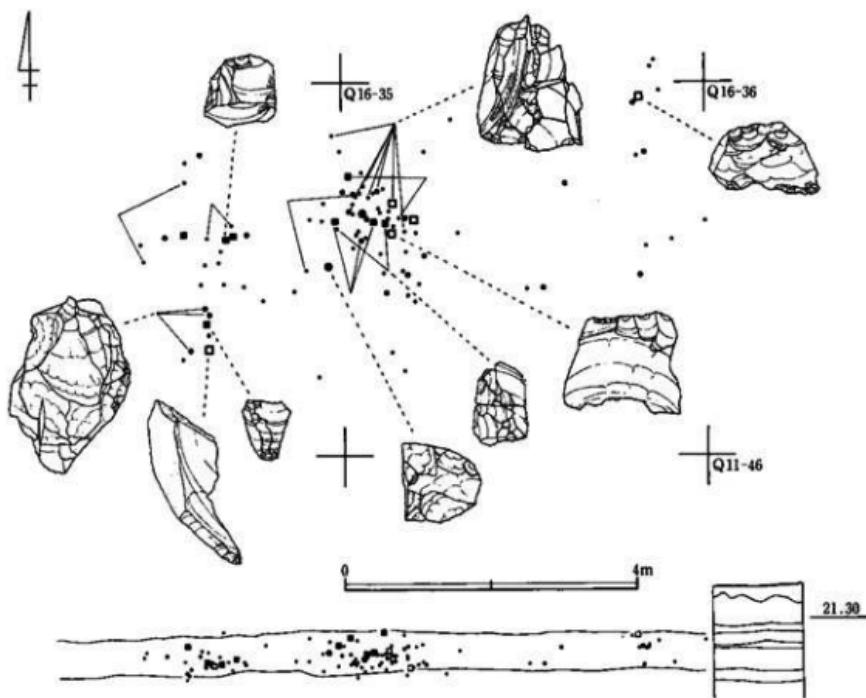
器種 石材	敲石	礫	合計
	1 316.54	1 19.46	2 336.00
%	50.00 94.21	50.00 100.00	100.00 100.00

(上段は点数、下段は重量)

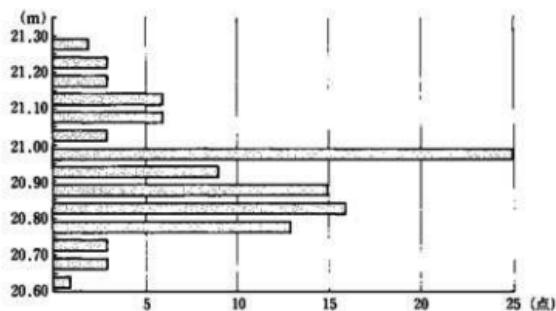
剝片・碎片が比較的多いが、これらの石核は出土していない。

安山岩 安山岩は安山岩・安山岩 8 の 2 種の母岩に分別できる。安山岩の使用は少なく、それぞれ 1 点ずつしかない。石核と剝片がある。

チャート 1 光沢のある灰色の石材で、不定形な剝片が 1 点ある。



第39図 S 035地点遺物分布状況

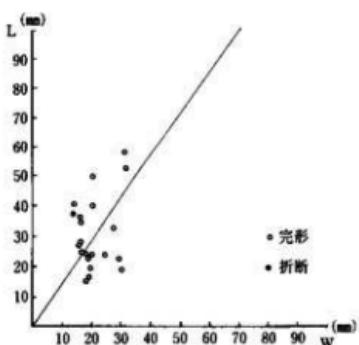


第40図 S 035地点遺物垂直分布

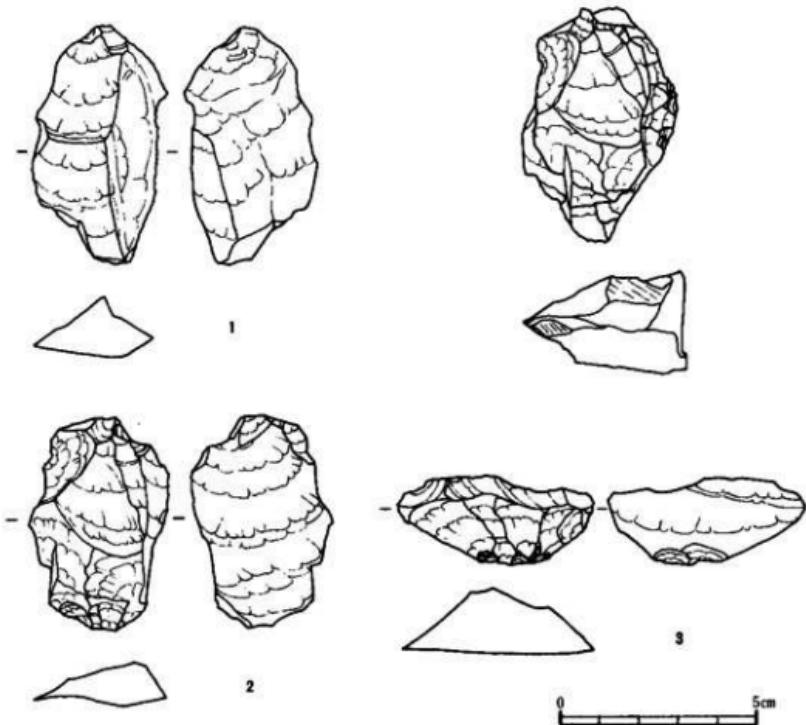
チャート4 光沢のある灰色の良質な石材で、遺物実測図3の楔形石器のほか、剝片・碎片がある。剝片は2点で、不定形なものである。なお、S 036地点からもチャート4は出土している。

チャート5 青灰色で、光沢および透明感のない石材である。剝片・碎片が各1点ある。

- 凝灰岩9 表面は灰色で、若干風化している。14点の遺物があり、第43図に示した3点が接合した。また、接合はしなかったが、第42図1・2は調整痕のある剝片で、ともに打面側に調整を加えている。
- 凝灰岩10 黒色の緻密な石材で、調整痕のある剝片・剥片・碎片がある。剝片はいずれも不定形である。
- 凝灰岩11 青灰色で、表面がざらついた石材である。遺物実測図7の石核と剝片・碎片が各1点ある。7は裸面を残している。
- 珪質頁岩1 灰黄褐色で、光沢のある良質な石材



第41図 S 035地点剝片計測値



第42図 S 035地点出土遺物実測図(1)

である。遺物実測図5の楔形石器と剝片が各1点あり、他の器種と比較して碎片が15点と多い。剝片も縦長ではあるが、小形のものが多い。なお、S036地点からもわずかに出土しているが、接合資料はない。

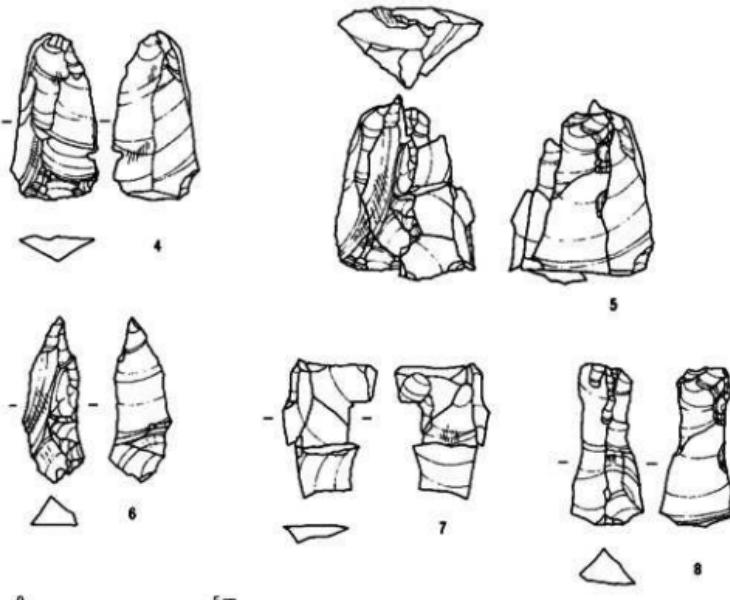
珪質頁岩2 黄褐色の石材で、点数・重量ともに本地点の出土遺物の1/4を占めている。5点の楔形石器が製作されるが、点数的には碎片が圧倒的に多い。遺物実測図4は楔形石器で、自然面を残している。また、接合資料もあり、第43図に示した。これは7点が接合したもので、縦長の剝片を基本としている。なお、11はわずかに調整痕が観察できる。

珪質頁岩4 表皮に近い部分は黄褐色を、中は暗黃灰色の石材である。楔形石器・調整痕のある剝片・剝片・碎片があり、点数的に碎片が多い。遺物実測図6は自然面を残した剝片で、実測図右側縁に調整が施されている。剝片はいずれも不定形である。なお、S036地点でも出土しているが、接合資料はない。

メノウ1 剥片と碎片がある。

S036地点（第45～48図、第22・23表、図版11）

VII層からIX層上部を産出層とする遺物集中地点で、R16-60グリッドを中心に、直径約4mの範囲に遺物が分布している。遺物の分布はランダムではなく、直径1mほどの密集する部分が3か所認められる。遺物総数は41点で、楔形石器・剝片・碎片があるが、点数的には碎片が

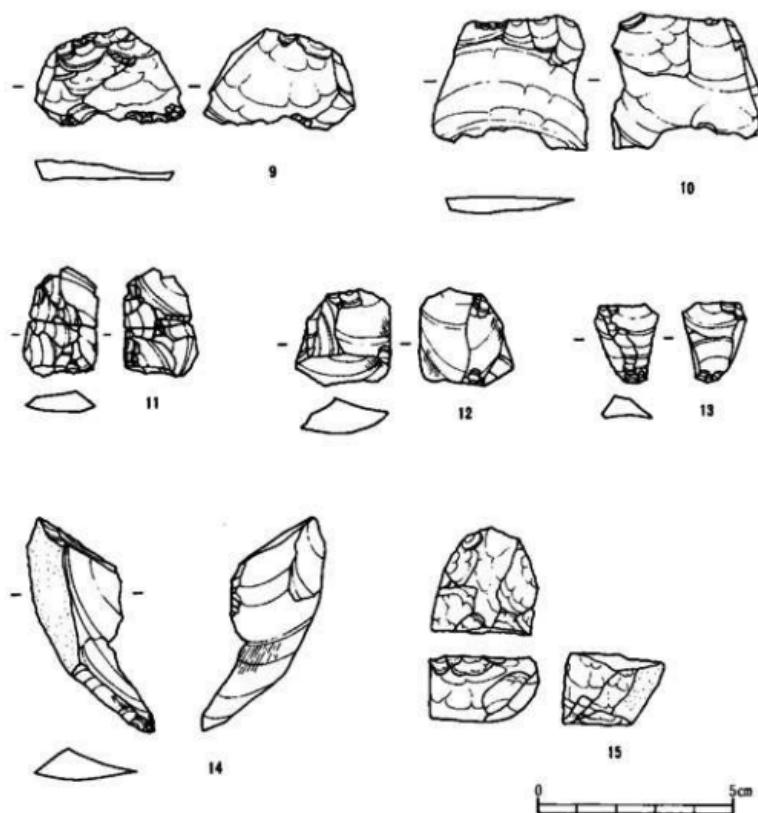


第43図 S036地点出土遺物実測図(2)

圧倒的に多く、また楔形石器と同一母岩の剥片は意外に少ない。使用石材は安山岩・凝灰岩・チャート・珪質頁岩・メノウがあり、その内容はS 035地点とほぼ同じである。遺物の出土レベルは最高値20.159m、最低値19.706m、平均値19.960m、標準偏差0.116である。安山岩3 黒色を呈する緻密な石材で、僅かに白色の斑晶を含んでいる。剥片が2点あり、ともに自然面を残している。なお、この石材はS 032・S 033・S 038地点からも出土しており、S 038地点が特に多い。

安山岩5 青灰色の石材で、楔形石器・碎片がある。遺物実測図4・5は楔形石器で接合した。ともに自然面を残し、打面および打面に対する端部に細かい打割が認められる。

安山岩7 暗褐色の石材で、表面は風化が進んでいる。碎片が2点あるだけである。



第44図 S 035地点出土遺物実測図(3)

チャート 4 S 035地点でも出土している石材で、本地点では楔形石器と碎片がある。遺物実測
図2・3は楔形石器で2は厚みのある剝片を素材としている。

凝灰岩9 S 035地点で多く出土している石材で、本地点では碎片があるだけである。

凝灰岩12 黒色の石材で、碎片が2点ある。

珪質頁岩1 S 035地点で多く出土している石材で、本地点では碎片が5点出土しただけである。

珪質頁岩4 S 035地点と本地点に見られる石材で、楔形石器・剝片・碎片がある。

珪質頁岩6 緑灰色の石材で、碎片が1点ある。

メノウ1 S 035地点で3点が出土している。本地点では剝片が1点ある。

S 037地点（第45・48図、第24表）

Q15-89グリッドから単独で遺物が出土している。遺物の産出層準はIX層上部である。第48図1は安山岩製の石刃である。

S 038地点（第49～52図、第25・26表、図版12）

VII層からIX層上部を産出層準とする遺物集中地点で、P16-39からQ16-30グリッドを中心に9m×5mの範囲に遺物が分布している。分布範囲の中央では遺物の密度も高く、碎片が主体

第20表 S 035地点遺物計測表

探査No	遺物No	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	9	R・フレイク	2.49	3.72	0.59	4.92	凝灰岩	凝灰岩9
2	94	R・フレイク	3.43	4.01	0.52	7.01	凝灰岩	凝灰岩9
3	23	ビエス・エスキュー	1.89	1.31	0.57	1.74	チャート	チャート4
3	90	碎片	0.49	0.33	0.10	0.01	チャート	チャート4
4	91	ビエス・エスキュー	2.18	2.57	0.94	5.18	珪質頁岩	珪質頁岩2
5	71	ビエス・エスキュー	2.08	1.59	0.53	1.44	珪質頁岩	珪質頁岩1
6	73	R・フレイク	5.98	2.32	1.79	6.62	珪質頁岩	珪質頁岩4
7	40	石核	2.61	2.49	1.72	16.26	凝灰岩	凝灰岩11
8	25	剝片	3.98	2.01	0.96	7.85	珪質頁岩	珪質頁岩2
9	78	剝片	4.05	1.36	0.86	4.24	珪質頁岩	珪質頁岩2
10	20	碎片	1.81	1.53	0.86	1.70	珪質頁岩	珪質頁岩2
10	26	碎片	1.54	1.39	0.51	1.12	珪質頁岩	珪質頁岩2
10	32	碎片	1.38	1.62	0.62	1.09	珪質頁岩	珪質頁岩2
10	82	碎片	2.09	0.53	0.45	0.52	珪質頁岩	珪質頁岩2
11	81	R・フレイク	3.94	1.75	0.99	5.12	珪質頁岩	珪質頁岩2
12	74	剝片	5.75	3.15	1.74	27.74	凝灰岩	凝灰岩9
13	80	剝片	5.23	3.22	0.89	15.94	凝灰岩	凝灰岩9
14	70	剝片	4.96	2.11	0.44	14.51	凝灰岩	凝灰岩9

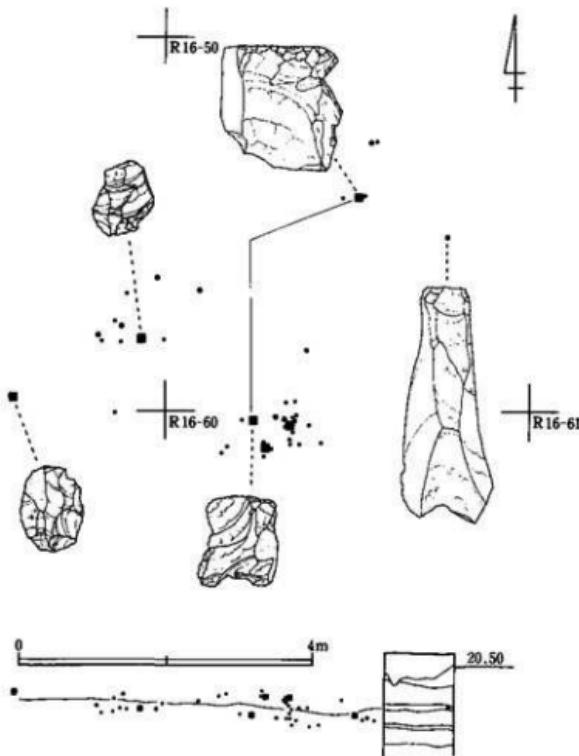
第21表 S 035地点遺物集計表

器種 石材	ピエス・ エスキュー	R・ フレイク	剝片	碎片	石核	合計	%
安山岩 6					1 4.83	1 4.83	0.93 2.01
凝灰岩 8			1 3.25			1 3.25	0.93 1.35
チャート 1				1 0.99		1 0.99	0.93 0.41
チャート 4	1 1.74		2 5.00	4 1.00		7 7.74	6.48 3.22
チャート 5			1 1.27	1 1.21		2 2.48	1.85 1.03
凝灰岩 9		2 11.93	4 61.58	8 2.64		14 76.15	12.96 31.65
凝灰岩 10		1 4.51	2 4.58	6 2.30		9 11.39	8.33 4.73
凝灰岩 11			1 0.71	1 0.49	1 16.26	3 17.46	2.78 7.26
凝灰岩				4 2.20		4 2.20	3.70 0.91
珪質頁岩 1	1 1.44		1 2.89	15 11.76		17 16.09	15.74 6.68
珪質頁岩 2	5 19.95	1 5.12	5 25.16	19 11.94		30 62.17	27.78 25.84
珪質頁岩 4	1 2.97	1 6.62	3 11.76	11 11.27		16 32.62	14.81 13.56
メノウ 1			1 1.98	2 1.28		3 3.26	2.78 1.35
合計	8 26.10	5 28.18	21 118.18	72 47.08	2 21.09	108 240.63	100.00 100.00
%	7.41 10.85	4.63 11.71	19.44 49.11	66.67 19.57	1.85 8.76	100.00 100.00	

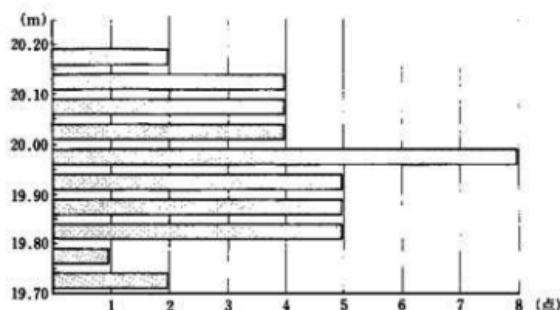
(上段は点数、下段は重量)

第22表 S 036地点遺物計測表

押因No	遺物No	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
2	15	ピエス・エスキュー	2.83	2.02	1.25	6.61	チャート	チャート 4
3	13	ピエス・エスキュー	2.38	2.16	0.86	3.72	チャート	チャート 4
4	33	ピエス・エスキュー	4.04	4.15	1.08	22.12	安山岩	安山岩 5
5	20	ピエス・エスキュー	3.08	2.66	0.84	6.25	安山岩	安山岩 5



第45圖 S 036地點遺物分布狀況

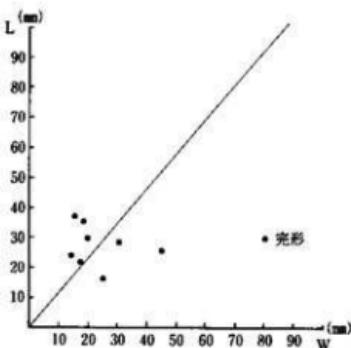


第46圖 S 036地點遺物垂直分布

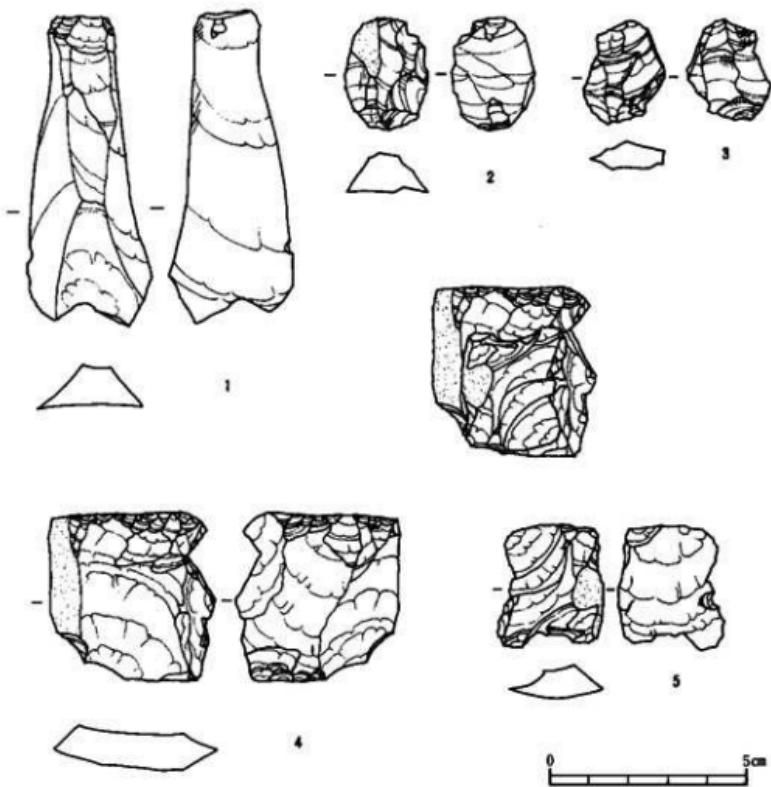
第23表 S 036地点遺物集計表

器種 石材	ピエス× エスキース	制 片	碎 片	合計	%
安山岩 3		2 20.93		2 20.93	4.88 19.78
安山岩 5	2 28.37		4 2.46	6 30.83	14.63 29.14
安山岩 7			2 1.98	2 1.41	4.88 1.33
チャート 4	2 10.33		2 1.98	4 12.31	9.76 11.64
凝灰岩 9			6 2.81	6 2.81	14.63 2.66
凝灰岩 12	1 1.55		1 0.54	2 2.09	4.88 1.98
凝灰岩		1 4.81		1 4.81	2.44 4.55
珪質頁岩 1			5 1.42	5 1.42	12.20 1.34
珪質頁岩 4	1 3.34	4 15.76	6 7.21	11 26.31	26.82 24.87
珪質頁岩 6			1 0.91	1 0.91	2.44 0.86
メノウ 1		1 1.96		1 1.96	2.44 1.85
合 計	6 43.59	8 43.46	27 18.74	41 105.79	100.00 100.00
%	14.63 41.20	19.52 41.09	65.85 17.71	100.00 100.00	

(上段は点数、下段は重量)



第47図 S 036地点剝片計測値



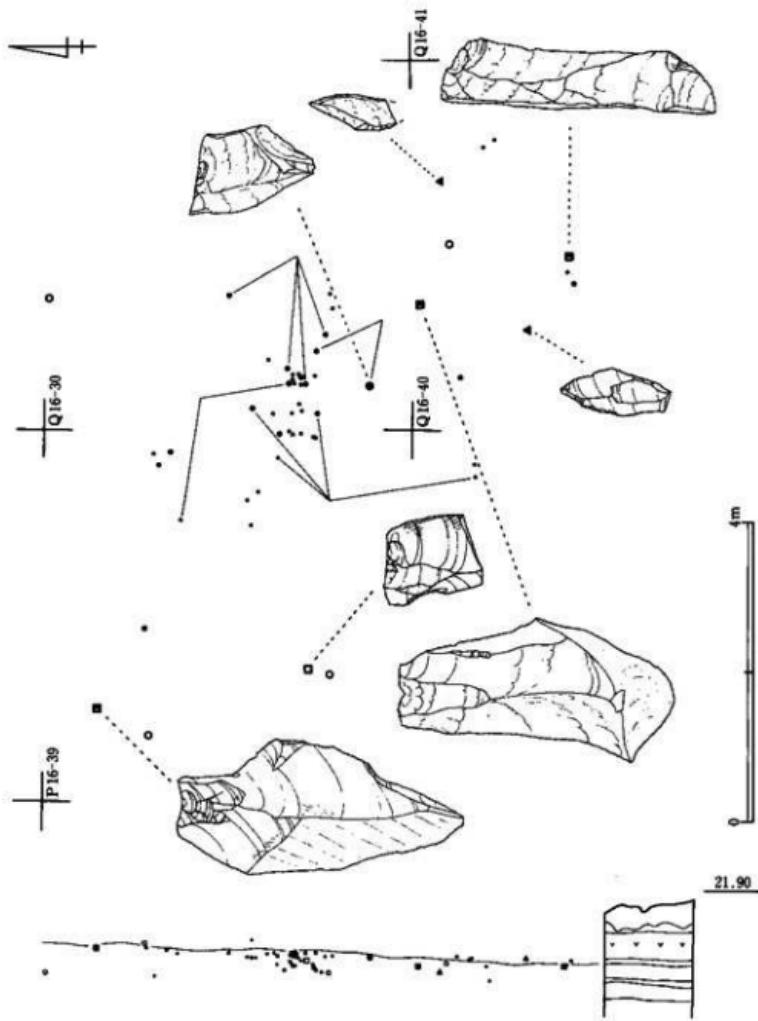
第48図 S 036地点出土遺物実測図

第24表 S 037地点遺物計測表

揮団No	遺物No	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	1	石刃	7.74	3.05	1.12	21.62	安山岩	安山岩1

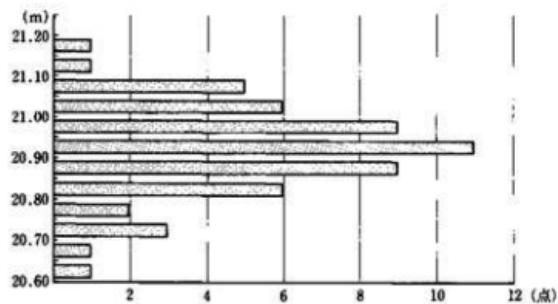
となるが、周辺部では遺物の密度はうすい割に大形の剥片や製品が分布している。遺物はナイフ形石器・石刃・使用痕のある剥片・石核・剥片・碎片・礫があり、礫は点数が少なく、出土位置にまとまりがない。遺物の出土レベルは最高値21.184m、最低値20.629m、平均値20.922m、標準偏差0.112である。使用石材は安山岩・チャート・凝灰岩があり、安山岩が主体となる。安山岩3 比較的緻密で黒色の石材で、わずかに白色の斑晶を含んでいる。表面はあまり風化していない。遺物実測図3は石刃としたが、遺物点数が多いにもかかわらず他

新49図 S 03B地点遺物分布状況

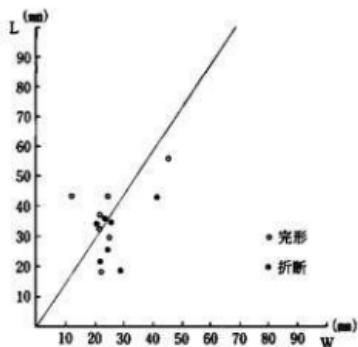


に石刃は出土していない。6は石核であるが、これに接合する資料は出土していない。剝片は比較的大形のものが多く、基本的に縦長である。碎片も多く、僅かに接合資料も得られたが、製品はない。

安山岩10 黒色の斑晶をわずかに含む石材で、風化が進んでいる。遺物実測図5の石刃が1点ある。このほか青灰色の緻密な安山岩が1点ある。遺物実測図1に示したナイ



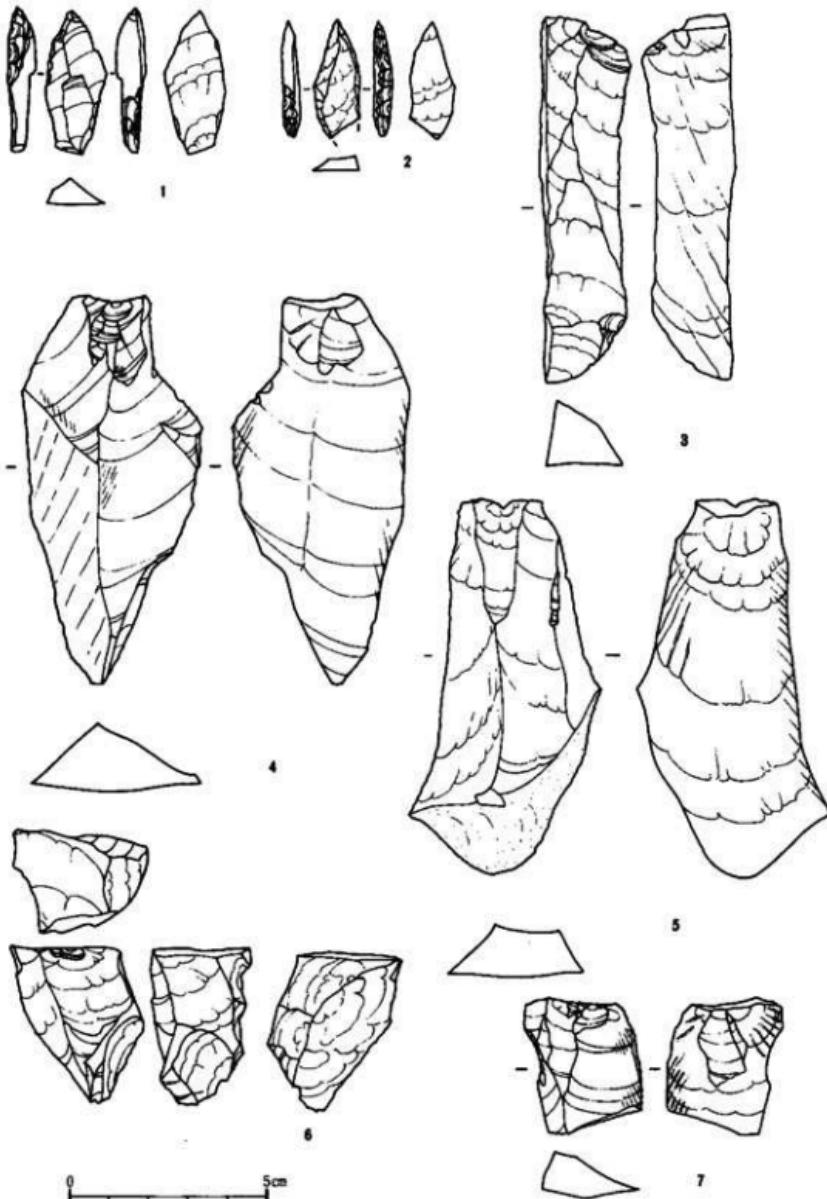
第50図 S 038地点遺物垂直分布



第51図 S 038地点剥片計測値

第25表 S 038地点遺物計測表

標図No	遺物No	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	32	ナイフ形石器	3.66	1.42	0.68	3.13	安山岩	未分類
2	37	ナイフ形石器	2.95	1.11	0.39	1.41	凝灰岩	未分類
3	40	石刃	9.29	2.24	1.57	37.09	安山岩	安山岩 3
4	2	石刃	9.39	4.39	1.73	53.85	チャート	チャート 2
5	33	石刃	9.00	3.99	1.49	61.09	安山岩	安山岩 10
6	28	石核	3.90	2.73	2.08	28.75	安山岩	安山岩 3
7	4	R・フレイク	2.95	2.74	1.09	11.16	凝灰岩	凝灰岩 7



第52圖 S 038地点出土遺物実測図

第26表 S 038地点遺物計測表

器種 石材	ナイフ 形石器	石 刃	R・ フレイク	剥 片	碎 片	石 核	砾	合計	%
安山岩 3		1 37.09		13 111.10	26 13.56	1 28.75		41 190.50	74.54 40.88
安山岩 10		1 61.09						1 61.09	1.82 13.11
安 山 岩	1 3.13							1 3.13	1.82 0.67
チャート 2		1 53.85						1 53.85	1.82 11.56
チャート 6					4 0.64			4 0.64	7.26 0.14
チャート							1 5.03	1 5.03	1.82 1.08
凝灰岩 7			1 11.16					1 11.16	1.82 2.40
凝灰岩 13				1 7.82				1 7.82	1.82 1.68
凝灰岩	1 1.41							1 1.41	1.82 0.30
珪質頁岩							1 2.87	1 2.87	1.82 0.62
砂 岩							2 128.42	2 128.42	3.64 27.56
合 計	2 4.54	3 152.03	1 11.16	14 118.92	30 14.20	1 28.75	4 136.32	55 465.92	100.00 100.00
%	3.64 0.97	5.45 32.63	1.82 2.40	25.45 25.52	54.55 3.05	1.82 6.17	7.27 29.26	100.00 100.00	

(上段は点数、下段は重量)

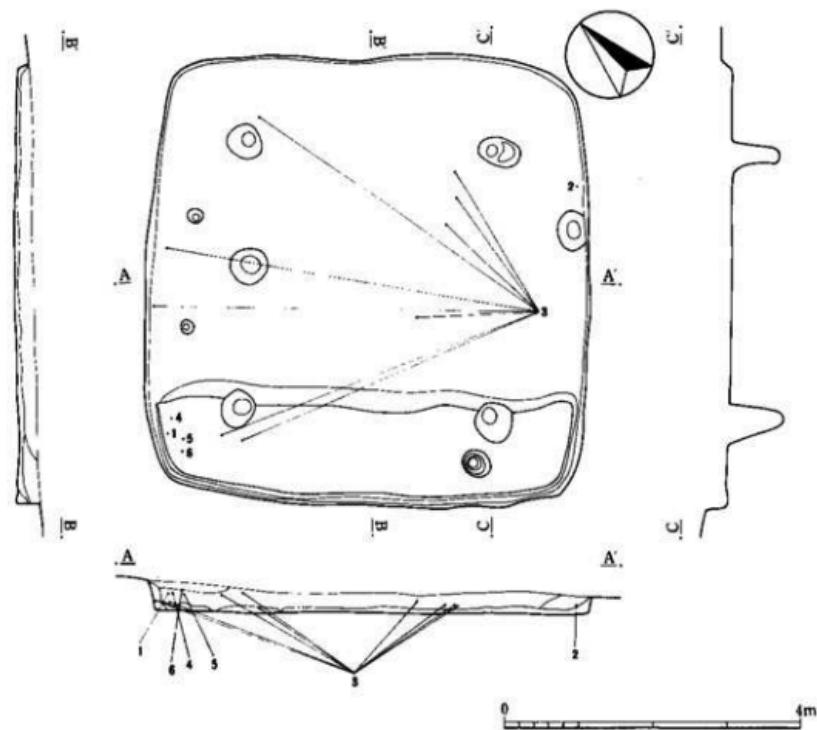
フ形石器で、縦長の剥片を素材として、両側縁にプランティングを施している。

チャート チャートは砾1点のほかに2種の母岩から構成されている。遺物実測図4はチャート2の石刃で、自然面を残している。チャート6は碎片が4点ある。

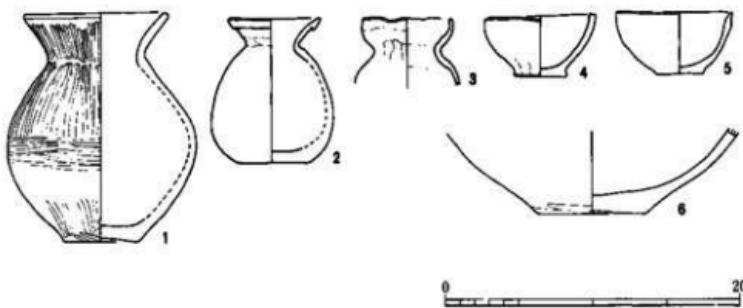
凝灰岩 凝灰岩は3種の母岩が判別できたが、それぞれ1点ずつで構成される。遺物実測図7は凝灰岩7の剥片で、実測図右側縁に使用痕が観察できる。2はナイフ形石器で、基部を欠損している。縦長の剥片を素材とし、両側縁にプランティングを施している。

D145 (第53・54図、第27表、図版12・13)

井戸向遺跡の中央に竪穴住居跡22軒から構成される古墳時代前期第I群とした建物群に属する竪穴住居跡である。規模は6.0m×6.0mを測り、平面形は隅円方形である。確認面からの深



第53図 D145実測図



第54図 D145出土遺物実測図

さは0.3mで、覆土はローム粒を多く混入した黒褐色土が堆積している。壁溝はなく、住居対角線上に4か所の柱穴が検出できた。柱穴は直径0.4mで、床面から0.7mの深さがある。また、南東壁際に直径0.4mのピットがあり、ピット上面に焼土を多く含んだ土層が堆積していた。床

面はP1とP2を結んだ線から西側にベッド状遺構が設けられ、約5cm高くなっている。ベッド状の部分にも直径約0.3mのピットがP2と並んで検出された。炉は北西壁によった位置にあり、床面への掘り込みはほとんどないが、直径0.5mの範囲に良好な焼土が堆積し、床面も火熱をうけている。また、炉の北側に直径0.2mの浅い皿状のくぼみが2か所並んで検出されている。底面は特に固められたようすではなく、調査者は恒常に土器を置いていた場所ではないかとコメントしている。

遺物は少ないが、図示した遺物の多くはベッド状遺構上の住居西コーナーからまとまって出土した。また、遺物実測図3は住居内の広い範囲に散乱していた。

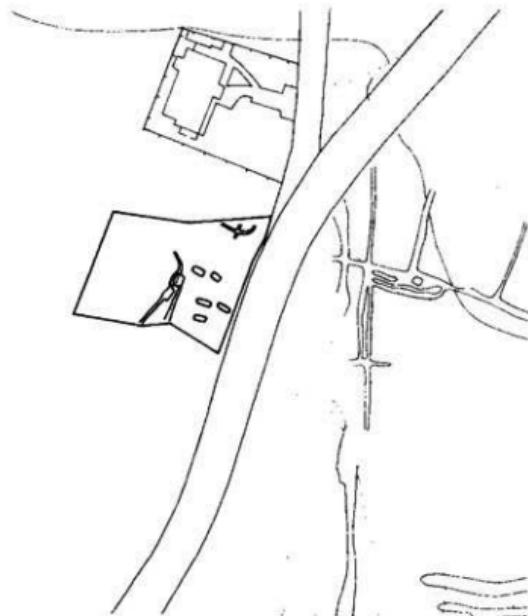
1～3は小形の壺形土器である。1は器面をていねいに磨いており、基本的に縦位のヘラ磨きであるが、胴部最大径付近を横位に磨いている。2は複合口縁であり、最大径が胴部の下位に位置する。器面は横位のナデを施している。3は口縁部が遺存するもので、調整は粗雑である。口縁部は外方へ開くが、端部が直立している。4・5は小形の鉢形土器である。ともに半円形の器形であり、口縁部は4がわずかに外側へ開き、5は端部を方形におさめている。器面は内面が横位のナデ、外面は縦位のナデである。6は大形の壺形土器の底部で、丸みをもった胴部が立ち上がっている。器面は内外面とも横位のナデである。

第27表 D145出土土器一覧

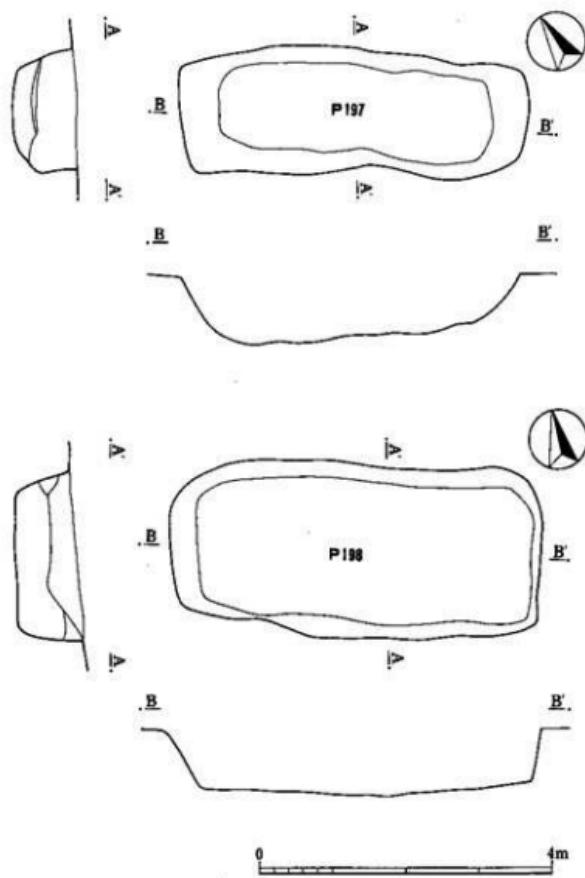
No.	器種	口径	底径	高	胎土	燒成	色調	遺物番号	備考
1	壺形土器	9.6	5.0	15.3	砂粒	良	好	褐色	48
2	壺形土器	6.2	4.7	9.6	砂粒	良	好	明褐色	52
3	壺形土器	6.0	—	—	砂粒	不	良	褐色	22.23.24.29.34.35.37 39.42
4	鉢形土器	6.7	3.5	4.1	砂粒	良	好	明褐色	46
5	鉢形土器	7.9	3.1	4.1	砂粒	不	良	褐色	47
6	壺形土器	—	10.0	—	砂粒	良	好	赤褐色	49

第6節 井戸向遺跡第5・6・7地点

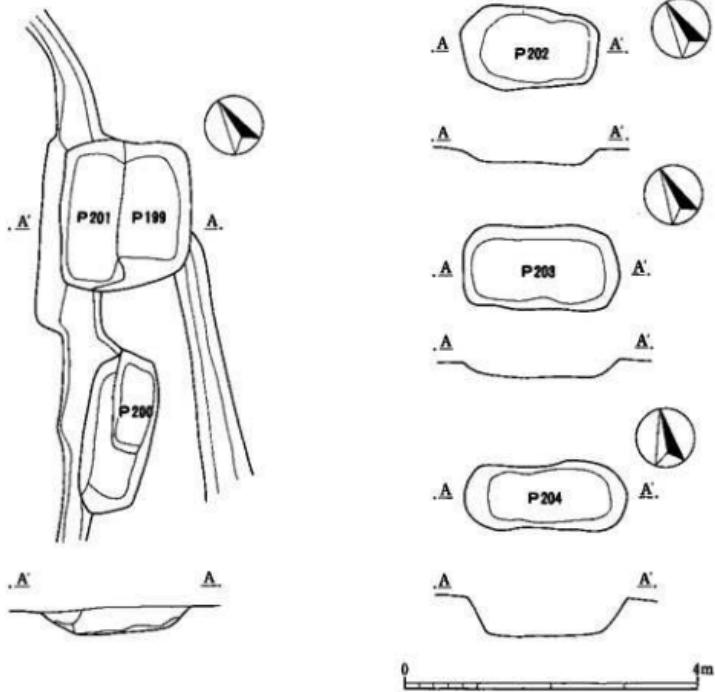
井戸向遺跡第5・6・7地点はS13・S14・T14グリッドに位置し、井戸向遺跡第3地点を中心と南北と東側に隣接している。井戸向遺跡第5地点は、段丘中位面に降りた傾斜変換点にあたり、標高は約15mを測る。井戸向遺跡第6・第7地点は段丘上位面から中位面にかかる緩斜面にあたり、標高は約18mを測る。ただし、第7地点ではかなり削平されていて、表土層下にすぐにVI層が露出していた。検出した遺構は近世の溝状遺構と同時期の土坑だけで、井戸向遺跡第6地点では遺構が検出されなかった。井戸向遺跡第5地点で検出した土坑はP197～P204までの8基である。



第55図 井戸向遺跡第5地点全体図



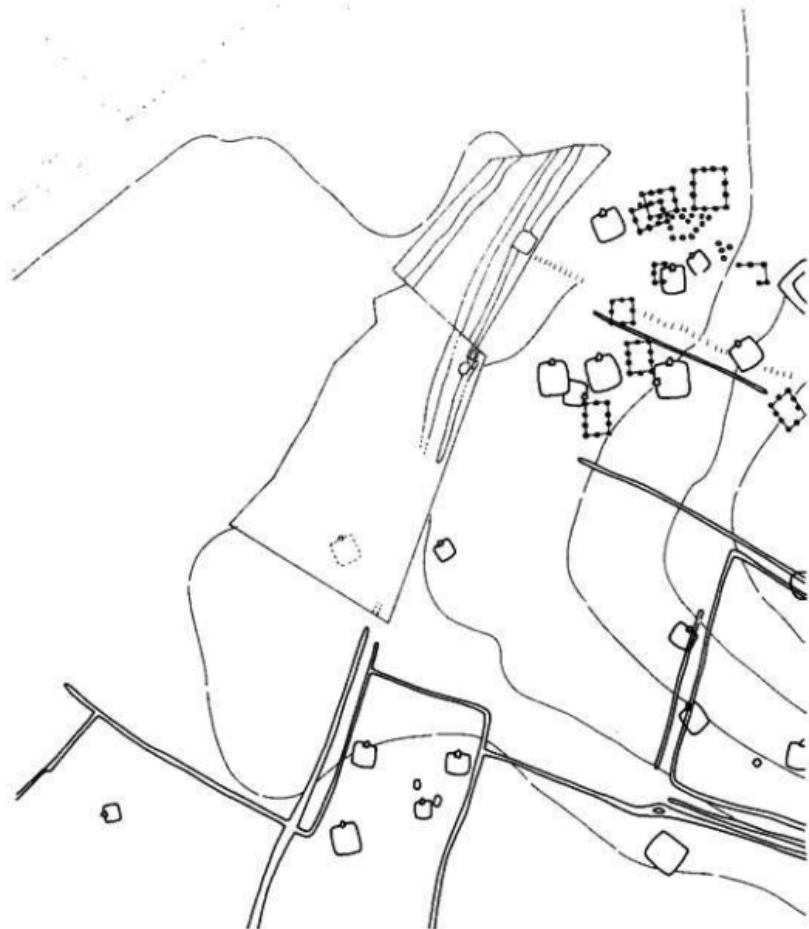
第56図 P197・P198実測図



第57図 P199・P200・P201・P202・P203・P204実測図

第7節 井戸向遺跡第8地点

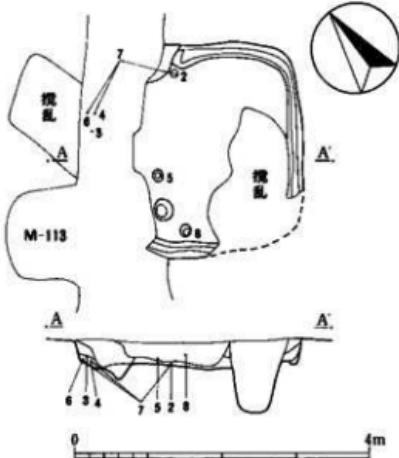
井戸向遺跡第8地点はP18～P19グリッドに位置し、北側に井戸向遺跡第1地点が隣接している。段丘上位面の縁辺にあたり、標高は約23mを測る。調査は2次にわたって行われ、調査対象面積は1,100m²である。検出した遺構は平安時代の竪穴住居跡2軒と近世の溝状遺構、土坑である。



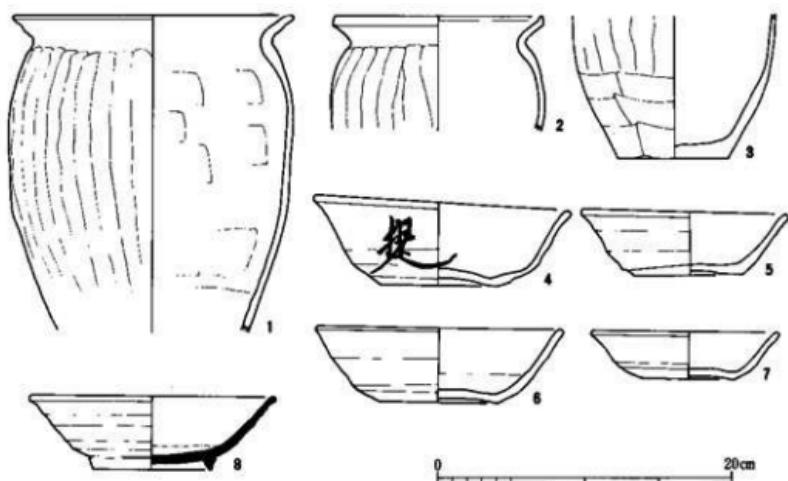
第58図 井戸向遺跡第8地点全体図

D144 (第59・60図、第28表、図版16・17)

井戸向遺跡の中央部で竪穴住居10軒、掘立柱建物跡12棟から構成される歴史時代第III群とした建物群に属する竪穴住居跡である。近世の溝状造構に北西壁を破壊されるが、規模は現存部での軸長2.8mを測る。確認面からの深さは0.4mで、覆土も大きく擾乱されているが、ローム粒・ロームブロックを多く含んだ暗褐色土が堆積している。擾乱は床面まで達している部分が多く、床面の遺存状況も良好とはいえないが、比較的堅緻で、壁溝もカマド部分を除いてめぐっていたものと思われる。カマドは北東壁に設置されていたが、擾乱によりほとんど残されていない。わずかに灰白色の砂質土の堆積が確認できただけである。なお、南西壁ぎわに直径約0.3mのピットが検出できた。このピットはいわゆる出入口ピットとなる可能性もあり、床面からの深さは0.2mを測る。出土遺物は少ないが、完形ないし完形に近い遺物が床面から出土している。また、溝状造構の西側からロクロ土師器壊が3点かきねられて出土しており、この部分の壁の立ち上がりが本住居跡のものであった可能性が非常に高い。



第59図 D144実測図



第60図 D144出土遺物実測図

第28表 D144出土土器一覧

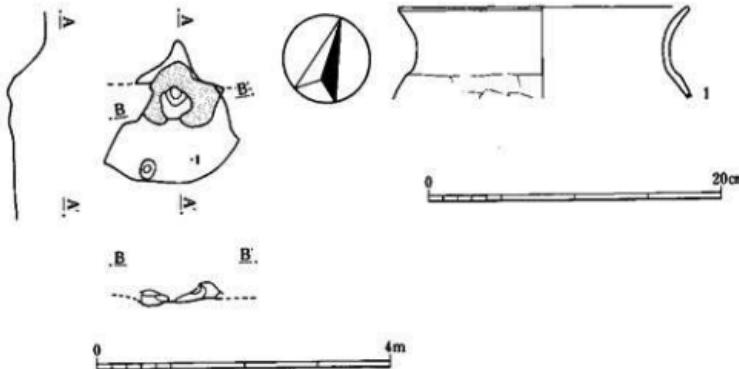
No.	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	遺物番号	備考
1	土師器甕	19.0	—	—	砂母粒	良	好	明褐色	1
2	土師器甕	14.2	—	—	砂粒	良	好	赤褐色	7
3	土師器甕	—	7.4	—	砂粒	良	好	暗褐色	5
4	ロクロ土師器甕	17.3	8.8	5.9	砂粒	良	好	明褐色	8 墨書「提」
5	ロクロ土師器甕	13.6	7.3	4.4	砂母粒	良	好	赤褐色	3
6	ロクロ土師器甕	16.5	8.2	5.0	砂粒	良	好	赤褐色	6
7	ロクロ土師器甕	12.5	6.1	3.2	砂粒	良	好	褐色	6,7,8
8	灰釉陶器碗	16.6	8.0	4.9	精鐵	良	好	灰白色	2

1～3は土師器甕で、1・2は底部を、3は口縁部を欠損している。口縁部は1が丸く、2は受け口状におさめ、胴部はいずれも縦位のヘラ削りを施している。また、3にみると胴部下半は横位のヘラ削りを施している。4～7はロクロ土師器甕で、4・6は口径17cm前後の大振りの製品である。底部は回転糸切り後に回転ヘラ削りを施し、4・7は回転ヘラ削りが底部全面におよんでいる。体部下端はすべて回転ヘラ削りを施している。なお、4は体部外面に正位で「提」と墨書きされている。8は灰釉陶器碗である。高台は断面三角形であり、軸は刷毛塗りである。

D146 (第61図、第29表、図版17)

D144と同じく、井戸戸向遺跡歴史時代第III群とした建物群に属する堅穴住居跡で、削平をうけているためカマド部分を含めた住居のごく一部が遺存しているに過ぎない。住居の規模は不明で、カマドは住居北壁に設置されている。なお、カマド前面に直径約0.4mのビットが検出できた。

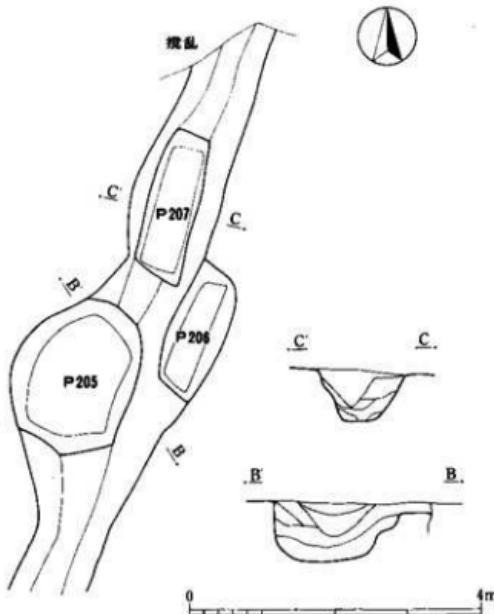
遺物は少なく、土師器甕が1点図示できた。口径20.0cmを測る武藏型の甕で、口縁部が1/3遺存している。



第61図 D146及び出土物実測図

第29表 D146出土土器一覧

No	器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成色調	遺物番号	備考
1	土師器壺	20.0	-	-	砂粒	良好	明赤褐色	12



第62図 P205・P206・P207実測図

第8節 井戸向遺跡第9地点

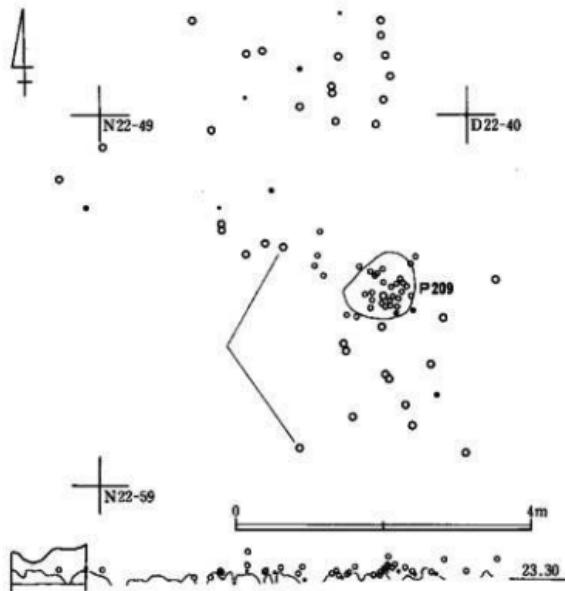
井戸向遺跡第9地点は井戸向遺跡南端のO21・O22グリッドに位置している。標高は約23mを測り、南側に寺谷津をのぞんでいる。寺谷津側は急崖で、寺谷津が形成した冲積層面との比高は標高約7mを測る。調査は2次にわたって行われ、調査対象面積は4,600m²である。検出した遺構は先土器時代遺物集中地点2か所、縄文時代陥し穴2基、土坑1基、奈良・平安時代の竪穴住居跡4軒、近世の溝状遺構と土坑である。



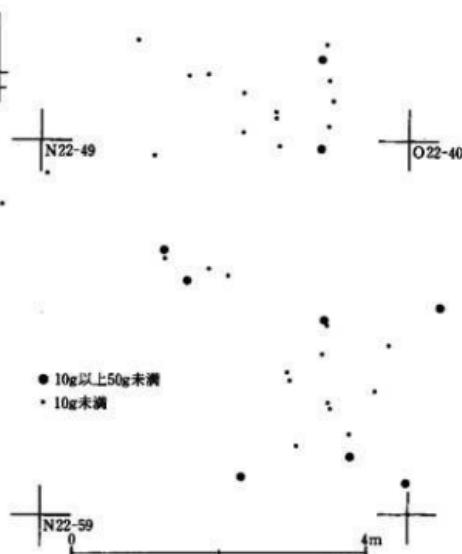
第63図 井戸向遺跡第9地点全体図

S 040 (第64~66図、第30表、図版18)

III層を産出層準とする遺物集中地点で、N12-49グリッドを中心にして直径約6mの範囲に遺物が分布している。遺物はほとんどが礫片で、細かく破碎され被熱している。また、P209が重複しており、この土坑の覆土からも同一母岩の礫片が多く出土している。P209の確認面はIII層上面であり、S 040地点より新しい構築と考えられ、P209の埋没に際して周辺に散乱していた礫片が混入したが、周辺に散乱していた礫片を再利用したものと思われる。S 040地点では2点が接合しただけであるが、P209の覆土内の礫片は8点が接合している。礫片の重量は以下のとおりである。



第64図 S 040地点遺物分布状況

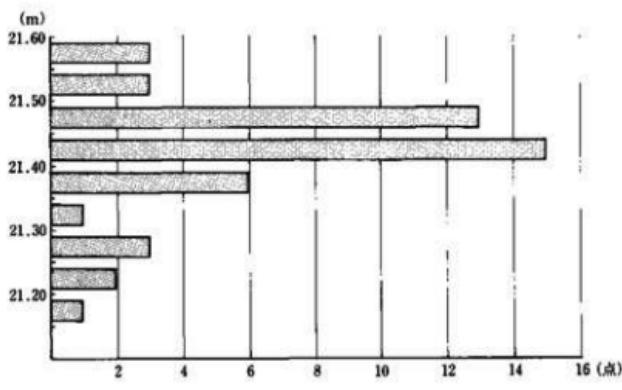


第65図 S 40地点出土器の重量別分布

第30表 S 040地点遺物集計表

	器種 石材	剝片	碎片	陳	合計	%
S 040	安山岩 12	1 2.34			1 2.34	2.13 0.63
P 209	安山岩 12	1 9.07			1 9.07	2.13 2.42
	安山岩 14			35 277.04	35 277.04	74.46 74.01
	凝灰岩	2 6.49			2 6.49	4.26 1.73
	砂岩			3 67.63	3 67.63	6.38 18.06
	珪質頁岩 7	1	3 3.98		4 9.40	8.51 2.51
	メノウ 3	1 2.41			1 2.41	2.13 0.54
	合計	6 25.73	3 3.98	38 374.38	47 374.38	100.00 100.00
	%	12.77 6.87	6.38 1.07	80.85 92.06	100.00 100.00	

(上段は点数、下段は重量)



第66図 S 040地点遺物垂直分布

この結果、平均値は S 040が9.07gなのに對し、P 209では26.98gに達し、明かな違いが認められる。しかしながら、等分散の検定から有意水準5%で分散に差があるといえることから、Welch の方法により平均値の差の検定を行ってみた。

統計量 (t 0) = 0.160616

自由度 = 5.32008

t 値 t(5.32008, 0.05) = 2.52624

t 値 t(5.32008, 0.01) = 3.91468

t 値はともに統計量(t0)を上回り、有意水準 5 %でも 1 %でも平均値に差があるとはいえない。このことは平均値に違いをもたらしているデータが P209出土の砾片のごく一部であることによっている。しかしながら、重量が70gをこえる砾片が選択的に P209から出土していることは、P209周辺に散乱していた砾片から比較的遺存状態のよい大形のものを選択した可能性を含んでいるといえよう。砾片以外には剝片・碎片がわずかにある。遺物の出土レベルは最高値 23.571m、最低値 23.196m、平均値 23.424m、標準偏差 0.084 である。

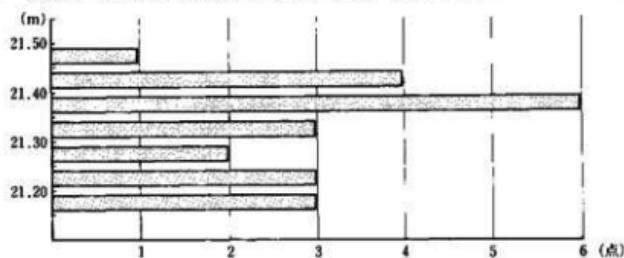
S 041 (第67~70図、第31・32表、図版8)

III層を産出標準とする遺物集中地点で、O22-42グリッドを中心に直径約 4 m の範囲に遺物が分布している。遺物総数は 22 点で、このうち 19 点を珪質頁岩 7 が占めている。珪質頁岩 7 からは石槍・削器・使用痕のある剝片が製作されている。遺物の上下への拡散は比較的少なく、最高値 23.457m、最低値 23.187m、平均値 23.330m、標準偏差 0.889 である。

安山岩 11 黒色の緻密な石材であるが、風化が著しい。剝片が 1 点あるだけで、自然面を残している。

チャート 3 比較的良質な石材であるが、剝片が 1 点あるだけである。

珪質頁岩 7 点数比・重量比とも 90% 近い組成率を示すもので、灰オリーブ色の石材である。

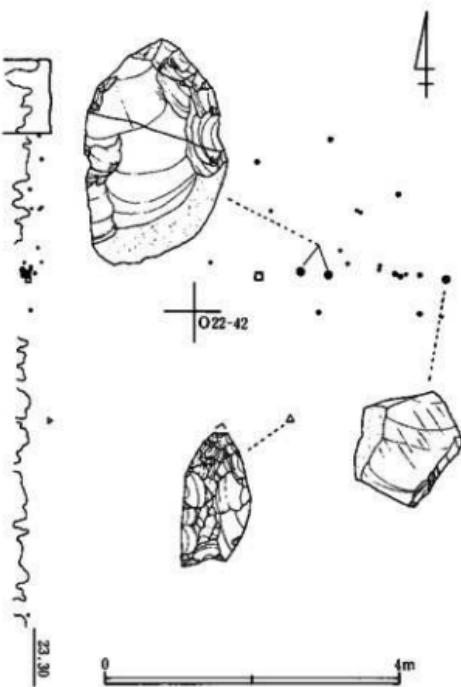


第67図 S 041地点遺物垂直分布

第31表 S 041地点遺物計測表

押団No	遺物No	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	母岩
1	S041-17	石槍	4.32	2.31	0.79	8.54	珪質頁岩	珪質頁岩 7
2	S041-6	削器	3.08	4.86	1.31	19.32	珪質頁岩	珪質頁岩 7
2	S042-7	削器	4.88	5.07	1.31	28.97	珪質頁岩	珪質頁岩 7
3	S041-2	U・フレイク	3.75	3.61	0.45	6.14	珪質頁岩	珪質頁岩 7

図示した遺物はすべて珪質頁岩7である。1は小形の石槍で、基部および尖頭部を欠損している。両面から入念な調整が施されているが、石材の粗悪さはまぬがれない。2は削器である。縦長の大形の剥片を素材とし、剥片基部に調整を加えている。なお、自然面を残している。3は使用痕のある剥片で、縦長の剥片を素材としている。剥片の両端は折断されているが、実測図右側縁に使用痕が観察できる。自然面を残している。このほかの剥片はいずれも不定形である。



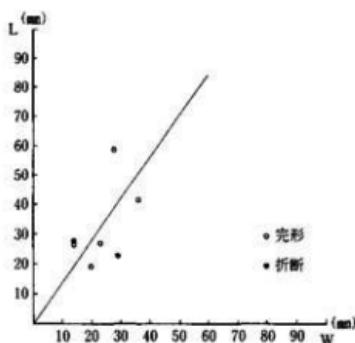
第68図 S041地点遺物分布状況

第32表 S041地点遺物集計表

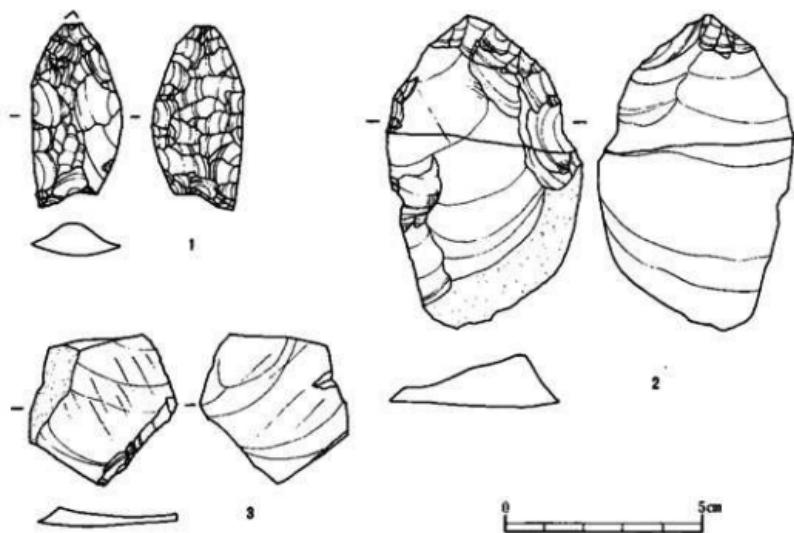
器種 石材	削器	石槍	U・ ブレイク	剥 片	碎 片	合 計	%
安山岩11				1 14.09		1 14.09	4.55 10.44
チャート3				1 1.23		1 1.23	4.55 0.91
珪質頁岩7	3 73.43	1 8.54	1 6.14	5 25.94	9 3.46	19 117.51	86.35 87.12
メノウ2					1 2.07	1 2.07	4.55 1.53
合計	3 73.43	1 8.54	1 6.14	7 41.26	10 5.53	22 134.90	100.00 100.00
%	13.64 54.43	4.55 6.33	4.55 4.55	31.82 30.59	45.46 4.10	100.00 100.00	

(上段は点数、下段は重量)

メノウ 2 不定形な剥片が 1 点ある。



第69図 S 041地点剥片計測値



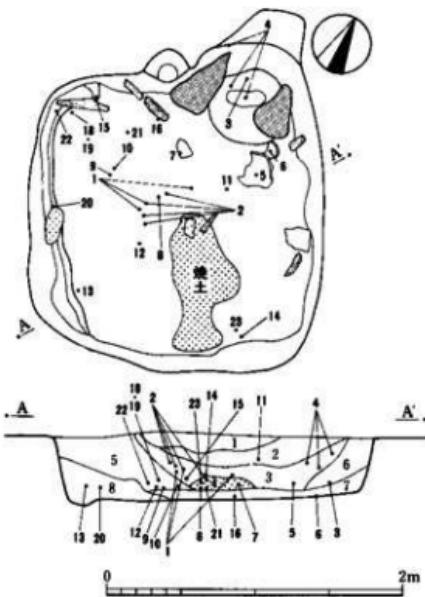
第70図 S 041地点出土遺物実測図

D147 (第71~74図、第33・34表、図版19~21)

井戸向遺跡の南半分の広い範囲に竪穴住居43軒、掘立柱建物跡4棟が展開する歴史時代第IV群とした建物群に属する竪穴住居跡である。規模は 2 m × 2 m で、平面形は正方形である。確認面からの深さは 0.4 m で、埋土は全体に焼土粒・炭化粒を多く含んでいる。床面から 10 cm ほど厚さに焼土粒・炭化粒を含む土層が水平に堆積し、その上に炭化材片を多く含んだ焼土が堆積している。この土層には炭化米を多く混入し、この層の直上および直下からそれぞれ三彩陶

器が出土している。壁溝は住居南西壁だけに設けられ、南東壁中央には約5cmほどの高さに掘り残した部分がある。床面には柱穴ではなく、北西壁中央に直径約0.3mのピットが壁から張り出して存在する。カマドは住居北コーナーに設置され、煙道部が約0.4m張り出している。カマド内には遺物実測図4の土師器甕が底面から15cmほど上の位置から正位で出土した。焼土の堆積は10cmほどで、底面から甕の下位に堆積していた。

遺物は非常に多く、三彩陶器を含む土器類をはじめ、鉄製品も豊富である。三彩陶器は焼土層の直上から托が、直下から小甕が出土している。焼土層は炭化米の遺存状況から廃棄された可能性が高いが、第82図に示した炭化米の重量分布から、廃棄が住居の東西2方向から行われたことが明かで、さらに西側は壁から住居内部に向けて炭化米の重量が減少するのに対し、東側では壁に向けて重量が減少している。また、住居西コーナー近くから鍛鉄が出土し、近接して鍛石が出土している。この2点は焼土層の上面である。遺物実測図9の須恵器長頸瓶は頸部を除いてほぼ完形に復元できたが、1cm以下の碎片が住居内に広く散乱していた。

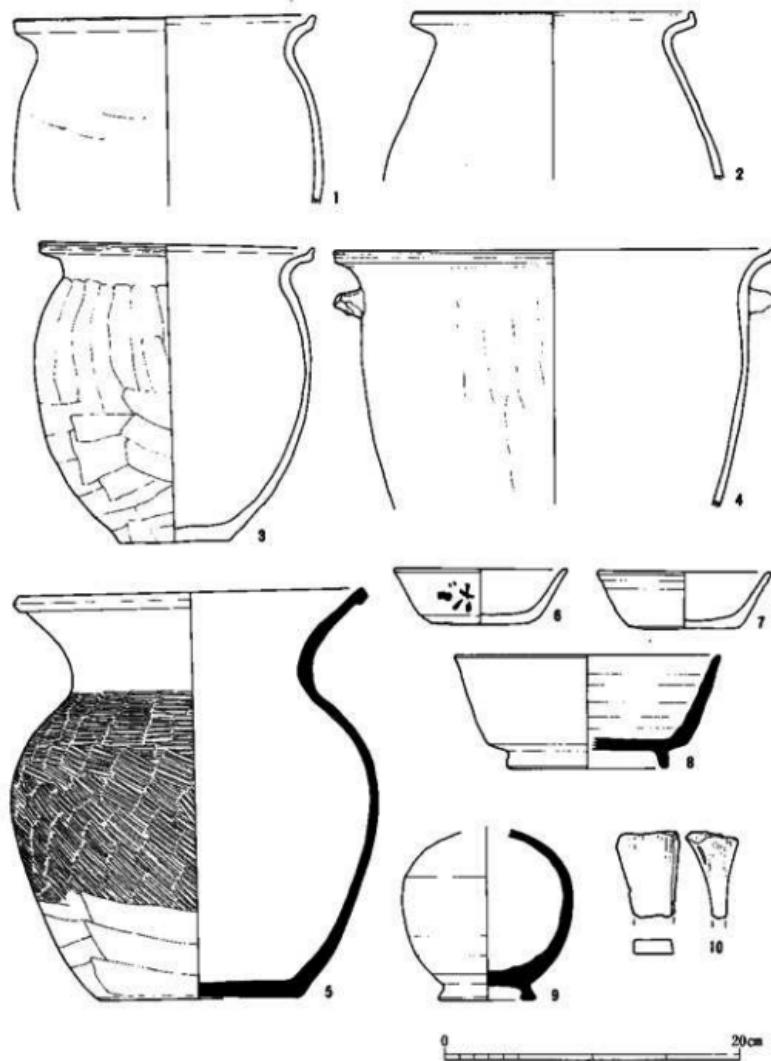


第71図 D147実測図

第33表 D147出土土器一覧

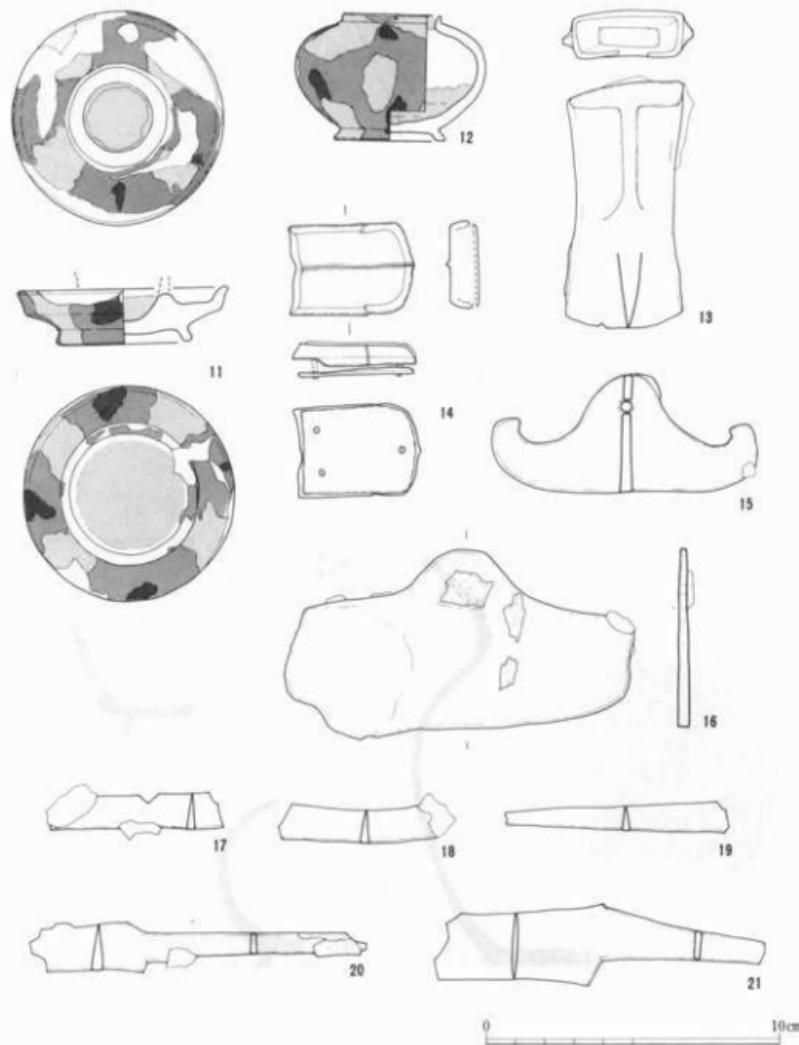
No	器種	口径	底径	器高	胎土	焼成色	調	遺物番号	備考
No	土師器甕	20.4	-	-	石英粒	良	好	褐色	11, 19, 29
2	土師器甕	19.1	-	-	石英粒	良	好	褐色	11, 22, 27, 28
3	土師器甕	18.6	7.5	20.2	砂粒	良	好	暗赤褐色	88
4	土師器甕	30.0	-	-	砂粒	良	好	褐色	81, 83, 86
5	須恵器甕	23.4	13.7	27.0	石英粒	良	好	明褐色	3
6	ロクロ土師器甕	11.7	6.7	3.8	雲母粒	良	好	赤褐色	73
7	ロクロ土師器甕	11.7	7.5	3.7	精	良	好	褐色	7
8	須恵器高台甕	18.0	10.7	7.5	砂粒	不	良	明褐色	10, 12, 13, 30, 31, 38, 41 43, 50
9	須恵器長頸瓶	-	6.6	-	精	良	好	青灰色	15
11	三彩陶器托	7.2	4.6	1.8	精	良	好	白色	5
12	三彩陶器小甕	3.3	3.8	4.2	精	良	好	灰色	57

1～3は土師器壺である。1・2は口縁部が遺存するだけであるが、3は完形である。1・2は常総型の壺で、口径はいずれも20cm前後の大形の製品である。これに対して3は一回り小さな口径で、器高も低い中形の壺であり、大中のセットが揃っている。4は土師器壺で胴部は縱位のヘラ削りを施した後、ナデて消している。5は須恵器の広口の壺で、完形に近い。肩部



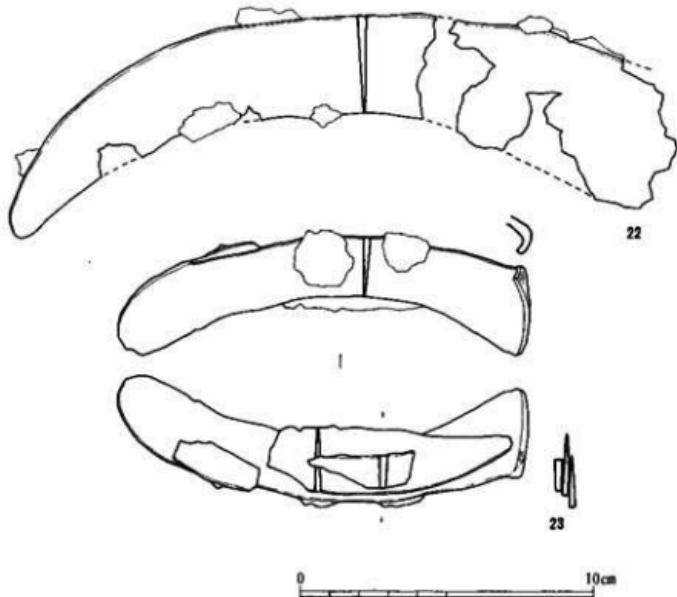
第72図 D147出土遺物実測図(1)

は横位、胸部は斜位のタタキ調整を施し、胸部下端に横位のヘラ削りを施している。6・7はロクロ土器器坏で、ともに体部は直線的に立ち上がっている。底部の調整は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りで、6は体部下端にも回転ヘラ削りを施している。なお、6は体部外面に横位に「大田」と墨書されている。8は須恵器高台坏で、ほぼ完形に復元できた。体部外面は平滑であるが、内面はロクロ目が強く残されている。9は小形の須恵器長頸瓶で、前述したよう



第73図 D147出土遺物実測図(2)

に微細な破片が住居内の広い範囲に散布していた。11・12は三彩陶器である。11は托で、受部を欠損している。受部の欠損面はかなり摩耗し、さらにススが付着していることから、受部が欠損した後に灯明皿として利用されていたことがわかる。受部の欠損の時期は明らかにできないが、ススの状況から廃棄直前ということはないようだ。施釉は4単位で緑色釉の発色が鮮やかで、透明釉も若干緑がかかっている。これに対して褐色釉の発色は悪く、また、褐色釉の施さ



第74図 D147出土遺物実測図(3)

第34表 D147出土金属製品一覧

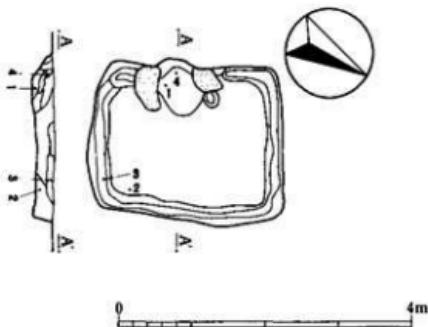
No.	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	遺物番号	備考
13	笄	8.4	4.3	1.6	102.65	鉄	55	
14	蛇尾	4.3	3.0	1.2	31.75	鉄	1	針は3本、裏面遺存。
15	鍔抜	9.0	4.0	0.4	40.87	鉄	68	
16	鍔抜	12.0	6.2	0.4	136.28	鉄	72	木質付着
17	刀子	6.0	1.24	0.25	12.07	鉄	サンブル9-2	
18	刀子	6.1	1.2	0.3	5.84	鉄	54	
19	刀子	7.6	1.0	0.25	4.96	鉄	54	25と同一個体か
20	刀子	11.5	1.5	0.4	11.17	鉄	56	基部に木質遺存
21	刀子?	11.2	2.5	0.2	15.59	鉄	67	両刃
22	鍔	22.8	4.3	0.25	29.87	鉄	69	
23	鍔	14.0	3.0	0.3	104.95	鉄	74	鍔3本が付着

れている範囲も非常に狭いものである。高台はしっかりと外方に開き、断面は方形である。胎土は精緻で白色である。12は小壺で、ほぼ完形である。2次的に被熱しているため、釉の遺存状況はけっしてよくない。施釉は4単位で、緑色釉を基本として、透明釉・褐色釉を塗り分けている。透明釉は口縁部・胸部・底部の3段に施され、褐色釉は胸部に限られる。口縁部は短く直立し、胸部は中心よりやや上位に最大径を有している。高台は短く外方へ張り出している。胎土は灰色から青灰色となっている。

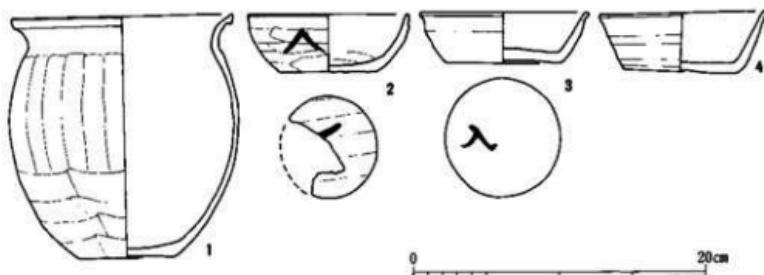
13~21は金属製品である。14は銅製の鉈尾で、3本の鉈で裏座を固定している。表金具中央に細い隆帯があり、全体も宝珠様の形状である。15~16は燧鉄で16はかなり大形である。なお、15は燧石と近接して出土した。17から21は刀子である。22・23は鎌で、23は3点の鉄製品がかけられており、このうち2本が鎌である。

D148 (第75・76図、第35表、図版22)

D147の北側に位置する堅穴住居跡で、南北2.6m、東西2.1mの方形である。確認面からの深さは0.2mで、覆土は全体にローム粒を多く含んでいる。床面はとくに堅緻に構築された部分はなく、カマド右手前に径0.2mのピットが1か所ある。壁溝はカマド部分を除いてめぐり、カマド左側でやや深くなっている。カマドは住居南西壁に設置され、煙道部の張り出しは0.2m前後である。煙道部はゆるやかに立ち上がり、両袖が遺存している。袖の内法は0.5mといどで、カマド内から遺物実測図1の土師器壺・4のロクロ土師器壺が出土した。ロクロ土師器壺は煙道部よりの底面からかなり上の位置に伏せられていた。



第75図 D148実測図



第76図 D148出土遺物実測図

第35表 D148出土土器一覧

No.	器種	口径	底径	器高	胎土	成形	色調	遺物番号	備考
1	土師器臺	15.1	6.7	16.0	砂粒	良好	暗褐色	11	
2	土師器坏	11.0	6.7	3.8	砂粒	良好	褐色	3.6	
3	ロクロ土師器坏	11.4	7.9	3.4	精緻	良好	明褐色	4	
4	ロクロ土師器坏	11.2	7.8	4.2	精緻	良好	褐色	16	

遺物は4点を図示した。1は土師器臺で、ほぼ完形に復元できた。口縁部はわずかに受け口状となり、胴部は上半を縦位、下半を横位にヘラ削りを施している。2は土師器坏で、平底である。体部外面は横位のヘラ削り、内面は横位にナデている。体部外面および底部外面に墨書きされている。3・4はロクロ土師器坏で、3は口縁部がわずかに外反している。底部はともに回転糸切り後、回転ヘラ削りを施し、体部下端にはヘラ削りは施されていない。4は灯明皿に利用され、体部内面に油煙が付着している。3は体部外面に「入」と墨書きされている。

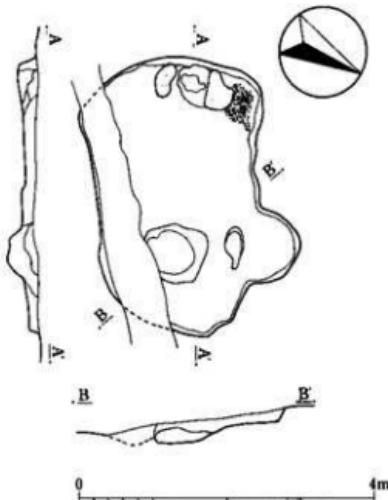
D149 (第77図、図版23)

D147の東側に約50m離れて位置する竪穴住居で、若干斜面にかかることと、南東側を擾乱されていることにより本来の形状を残していない。現状では長軸3.8mの不整な掘り込みとなっている。確認面からの深さは0.2mで、覆土は全体にローム粒を含んでいる。床面はほとんど遺存していないよう、斜面に直交する断面は斜面と平行となり、ほとんど平坦な場所がない。カマドは住居南西壁に設置され、わずかに袖材が残されていた。カマド右側の住居コーナー部分にわずかに焼土が堆積しており、住居廃絶時に他所から廃棄したかカマド内からかきだしたものと考えられる。

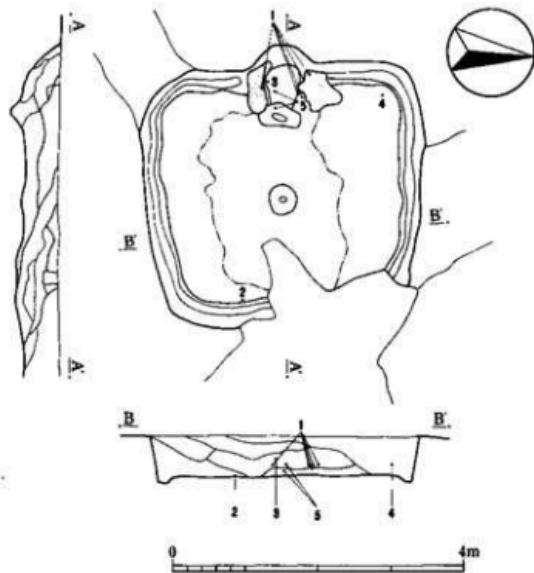
出土遺物はない。

D150 (第78・79図、第36表、図版23)

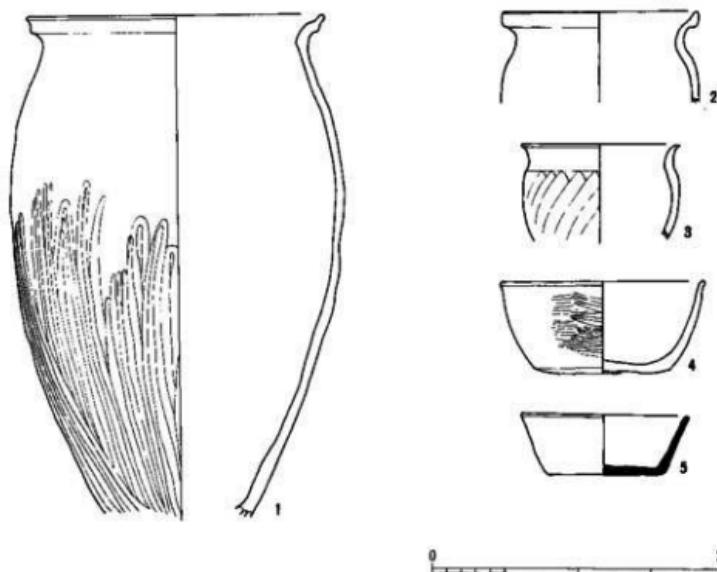
D147の北東側に約45m離れて位置する竪穴住居で、上面を近世の溝状構造によって破壊されるが、ほぼ住居の全体をうかがうことができた。規模は3.5m×3.9mの方形で、確認面からの深さは0.5m～0.6mを測る。覆土は全体にローム粒・焼土粒を含み、床面近くで炭化粒を多く含んでいる。柱穴はないが、住居中央に直径約0.4mの円形の浅い掘り込みがある。床面からは7cmほどの深さがあり、断面形は皿状で、著しく硬化していた。壁溝はカマド部分を除いてめぐり、床面はカマド前面から東壁ぎわまで帯状に硬化面が確認できた。カマドは住居西壁中央



第77図 D149実測図



第78図 D150実測図



第79図 D150出土遺物実測図

に設置され、煙道部は約0.4m壁外へ張り出している。煙道部の立ち上がりは比較的急で、炊き口部に深さ0.2mていどの掘り込みがある。袖の遺存状況はわるく、左側袖は0.1mていどの高さしか残されていなかった。

遺物はあまり多くなく、住居中央から炭化材が出土した。また、遺物実測図1・3の土師器壺・5の須恵器壺はカマドから出土した。1～3は土師器壺である。1は大形の常総型の壺で、底部を欠損している。胴部は細く、縦位の細かいヘラ磨きが施されている。2・3は口径10cmていどの小形の壺で、2は常総型の手法を用い、胴のヘラ削りはナデで消されている。3は胴部に斜位のヘラ削りを施している。4はロクロ土師器壺で、器高6.0cmを測る深い製品である。底部はヘラ切り後、ナデを施し、わずかにヘラ磨きを施している。体部外面は横位にいねいに磨き、内面は黒色処理されている。5は須恵器壺で、完形である。酸化炎焼成の製品で、色調は赤褐色であるが、底部はヘラ切り無調整で、体部外面にもヘラ削りは施されていない。

第36表 D150出土土器一覧

No.	器種	口徑	底径	高さ	胎土	焼成	色調	遺物番号	備考
1	土師器壺	20.2	—	—	石英粒	良 好	赤褐色	59,60,62,63,70	
2	土師器壺	13.1	—	—	精 織	良 好	褐色	14	
3	土師器壺	10.8	—	—	砂 粒	良 好	赤褐色	69	
4	ロクロ土師器壺	13.9	9.2	6.0	精 織	良 好	明赤褐色	26,74	
5	須恵器壺	11.3	7.8	4.1	精 織	良 好	赤褐色	56,57	

P 108 (第80図、図版24)

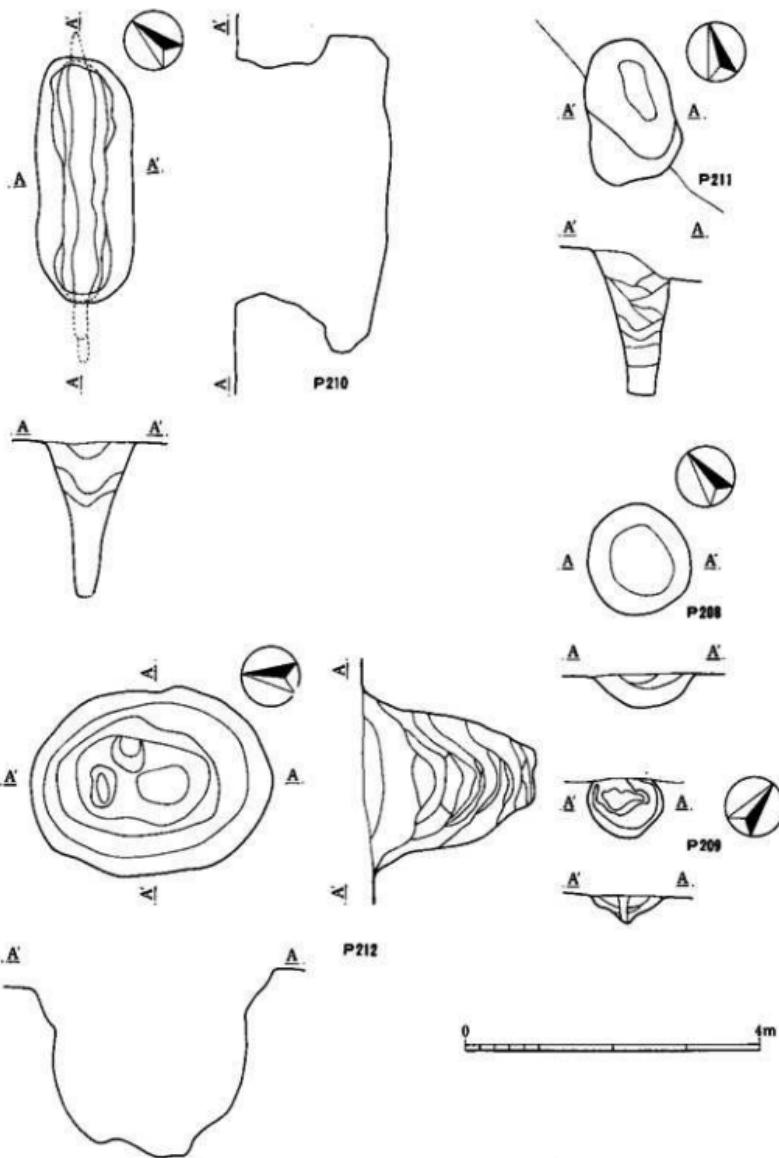
022-12グリッドに位置する土坑で、直径1.3mの円形である。確認面からの深さは0.3m前後で、覆土はローム粒・炭化粒を含んでいる。僅かに土師器の破片が出土している。

P 209 (第80図)

021-49に位置する土坑で、直径1.0mの円形である。土坑中央に根による攪乱があり、あるいは土坑自体が根によって形成された可能性もある。しかし、この土坑から多くの礫片が出土しているので、紹介する。この土坑は旧石器時代の遺物集中地点であるS040地点と重複する位置にあり、S040の項すでに説明したように同一母岩と考えられる礫片が多く出土している。ただし、この土坑はローム層上面で存在が確認できたもので、旧石器時代の土坑とする根拠は非常に薄弱である。S040で分析したように、S040よりも大形の礫片が集中する傾向がみられたが、有意水準5%でも平均値に差があるとはいえない。

P 210 (第80図、図版24)

022-44グリッドに位置する陥し穴状の土坑である。確認面での規模は3.3m×1.3mを測り、長軸が等高線と平行している。確認面からの深さは2.0mで底面は幅0.2mしかない。また、底面は長軸方向にオーバーハングしている。覆土は上層でローム粒を含んだ黒褐色土が堆積する



第80図 P208・P209・P210・P211・P212実測図

が、中央から下はロームブロックを主体としている。

P 211 (第80図)

P 22-30グリッドに位置する陥し穴状の土坑である。確認面は近世の溝状造構に破壊されるが、ほぼ全体を知ることができる。確認面での規模は2.0m×1.1mを測り、長軸が等高線と平行している。確認面からの深さは1.9mで、底面は0.3mの幅がある。覆土は全体にローム粒・ロームブロックを混入するが、上層でわずかに炭化粒を含み、下層ではロームブロックを主体とする。

P 212 (第80図、図版24)

022-48グリッドに位置する陥し穴状の土坑である。確認面での規模は3.2m×2.5mを測り、長軸が等高線と平行している。確認面からの深さは2.5mを測り、底面の幅も1.1mと広い。覆土は薄く互層に堆積し、全体にローム粒・ロームブロックを混入するが、上層では焼土粒や炭化粒を含み、下層では比較的大粒のロームブロックが主体となる。また、最下層には炭化粒を多く含んだ土層が堆積している。

第5章 おわりに

第1節 井戸向遺跡D147の炭化米について

1. D147の調査

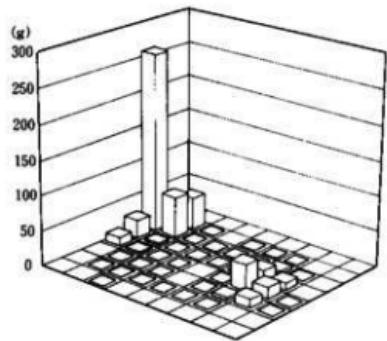
本文でも紹介したように、井戸向遺跡D147からは2点の三彩陶器、炭化米、豊富な鉄製品が出土している。本節では炭化米の出土状況と炭化米の計測結果を紹介する。

D147は井戸向遺跡の南半分に展開する歴史時代IV群とした建物群に含まれる竪穴住居である。井戸向遺跡歴史時代IV群は井戸向遺跡の他の建物群と比較して、遺構の分布状況が散漫で、掘立柱建物が少ない建物群である。具体的にどのような建物群をもって遺構の分布が散漫かという根拠はなく、あくまでも視覚的にといふものでしかない。しかし、視覚的にせよ遺構の分布が散漫といえる建物群は萱田地区のいくつかの遺跡に存在し、北海道遺跡歴史時代第III群や白幡前遺跡歴史時代2群Aなどをあげることができる。これらの建物群に共通する要素は、建物群の出現時期が萱田地区的奈良・平安時代村落の出現時までさかのぼることができ、掘立柱建物と墨書き土器の点数が少ないことが指摘できる。井戸向遺跡歴史時代IV群はこれらの建物群のなかでもとりわけ遺構の分布が散漫で、さらにここで紹介するD147はIV群の建物群の南端に位置している。

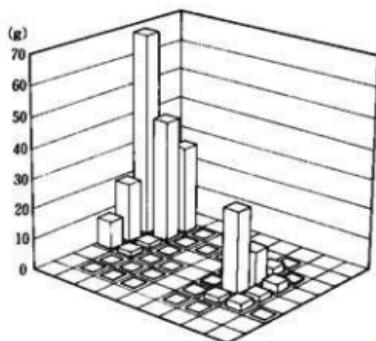
井戸向遺跡では歴史時代I群のD007から小仏像が、D023から富寿神宝が、歴史時代II群D088から「佛」の墨書き土器が、D105から「寺」「寺坏」の墨書き土器が出土しており、さらにD147と同じ歴史時代IV群のD116から三彩陶器小壺が出土している。萱田地区で出土した三彩陶器は井戸向遺跡で3点、白幡前遺跡で1点となり、井戸向遺跡の3点は竪穴住居から、白幡前遺跡では土坑から出土している。

D147は一辺2mという規模の小さい竪穴住居跡で、覆土に炭化材や焼土とともに炭化米が堆積していた。炭化材や炭化米を含む土層は床面から約10cmていど上位から堆積し、厚さは約15cmていどであった。三彩陶器の出土状況は、托が焼土層の上面から、小壺が焼土層の直下から出土し、このような状況からこれらの堆積土や遺物が祭祀後の廃棄、あるいは住居廃絶後のなんらかの行為の結果としてD147の覆土を形成したと予想した。

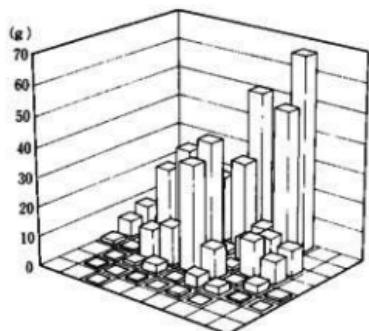
遺構の調査は通常の竪穴住居跡の調査と同じように開始したが、炭化米が住居の広い範囲に分布し、さらに部分的に密度の濃いところが確認されたため、炭化米が確認された面から住居内を20cm単位の包含に区切り、覆土を5cmの厚さで採取し、床面までの覆土を持ち帰って水洗選別を行った。その結果覆土内に約300gの炭化米が含まれていることがわかり、分布に偏りがあることも判明した。



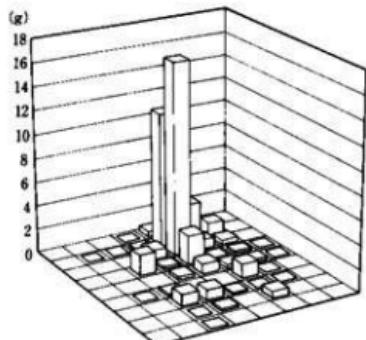
第81図 炭化米の出土量(1)



第82図 炭化米の出土量(2)



第83図 炭化材片の出土量



第84図 須恵器瓶子の破片の出土量

2. 炭化米の分布

採取した土壤を水洗選別した結果、土器、鉄製品、炭化米、炭化種子、炭化材片を確認することができた。土壤のサンプルはサンプリングを開始した面に高低差があるため、すべての地点が同じ枚数のサンプルを採取することはできなかったが、最大で同一地点で4枚のサンプルを採取している。水洗選別で分離できたもののうち、炭化米、炭化材片、第72図9の須恵器長頸瓶の破片の地点別重量を第81図～第83図に示した。ここで示した重量は、各地点での合計の重量を示し、各グラフともグラフ右コーナーがカマドになる。また、須恵器長頸瓶は土壤サンプルから選別できたものだけを計量し、個体として認識して取り上げた破片は含まれていない。したがって、ここで計量したものはそのほとんどが1cm以下の微細な破片である。

まず、須恵器長頸瓶の出土状況からみてみたいが、個体として認識して取り上げた部分はグラフでもピークとなる地点から出土している。復元した結果、頸部を欠損するものの、体部か

ら底部にかけてほぼ復元できた。さて、土壌サンプルから選別したさいへんであるが、その量は総数893点、重量50.03gであり、1点あたりの平均値は0.056gときわめて微細なものである。その分布は個体が出土した地点をピークとし、住居のほぼ前面に拡散し、カマド内およびカマド内から出土した土師器甕（第72図4）のなかにつまつた土からも確認できた。このような状況から、この須恵器長頸瓶は部分的に破損していた可能性は否定できないものの、最終的に廃棄する際にD147のなかで破壊されたことを物語っていると考えられる。ここで注意しなければならないのは、長頸瓶はあくまで破壊されたのであり、けっして破碎ではないこと。このことは大部分の破片がそれほど微細な破片となっていないことからも、細かく打ち碎いたという状況は想定し得ない。ここでは、単に割ったという状況を想定したいが、その場合に微細な破片が住居の広い範囲に拡散するとは考えることができず、積極的な論証があるわけではないが、拡散の原因を人の移動にともなうものと考えたい。すなわち、住居内にこれらの遺物を廃棄する際に、実際に住居内部に人が立ち入っていた可能性を示しているといえる。

つぎに、炭化米の分布状況をみてみたい。炭化米の重量別分布図は2枚作成した。第82図は地点ごとの合計重量を、第83図は土壌サンプルの上から2枚目の重量である。先にも述べたのうに、土壌サンプルの採取の開始のレベルが地点ごとに異なっていたため、1枚目のサンプルは住居全体におよんでいない。そのため、住居全体を網羅し、層として最も炭化米の密度の濃い2枚目をグラフ化した。なお、2枚目は炭化米を確認した面の5cm下から10cm下までの部分で、標高23.2mから23.15mの範囲である。両図とも炭化米の分布状況は同じような傾向を示し、西壁のきわに高いピークをもっている。住居中央ではほとんど出土がなく、東壁の近くで弱いピークを示している。東壁に近い部分は、2枚目のサンプルでより顕著に表現できる。すなわち、炭化米の分布は住居の東と西の2か所にピークが認められる。さて、それぞれのピークでの炭化米の状況を観察すると、まず、最も集中する西壁に接する部分では、壁より高いピークがあり、住居内側へ向って急激に量が減少している。これに対し、住居東側のピークは壁から若干住居の内側へよった位置にピークがあり、壁に向ってじょじょに量が減少している。当初、炭化米の投棄は重量のピークが2か所に認められることから、住居の両側から行われたのではないかと想定していた。しかし、住居西側のピークは住居外側からの投棄として理解できるが、住居東側の分布状況は住居外側からの投棄とは考えにくく、住居内部からの投棄もしくは、土壌サンプル2枚目の分布状況から、住居西側から投棄した炭化米が住居東側までおよんだものの、何らかの理由により住居中央の炭化米がなくなってしまったという二つの考えにいたった。

そこで、炭化材片の分布状況をみてみたが、炭化材片の分布状況は炭化米と相対的な状況を示し、住居中央に濃く、周辺に薄いという状況である。したがって、炭化米が住居中央に存在しないのは、人の移動や人為的な清掃等の行為を考えることはできない。覆土に含まれてい

た焼土は、この場所で長時間火を燃やしたものとは考えられないが、焚火ていどの燃焼、もしくは炭化材片がまだくすぶった状態だったのではないかと思われる。本来住居西側をピークとして、住居東側までじょじょに量を減らしながら分布していた炭化米が、住居中央部分だけ完全に燃焼してしまい、その部分が空白になったのではないかと考えられる。ここで問題となるのは、米が炭化した時期である。住居内に米を投棄した段階で炭化していなかったものが、焚火ていどの火や、いまだ火がくすぶった状態の木材で周辺の米が炭化するとは考えにくく、投棄した段階すでに炭化していたと考えるのが自然である。

3. 住居埋没の過程

これまでのことを整理しながら、D147の住居廃絶後の過程を想定してみたい。焼土層が床面に密着した状態ではなく、約10cmの土層の上に堆積していたことから、住居廃絶後しばらくして三彩等を廃棄する行為が行われた。焼土や炭化材片の状況から、このときにはすでに上屋は残されておらず、豊穴住居の堀方だけが存在していた。この時期は住居廃絶からそれほど時間が経過したものではなく、焼土層の下に堆積していた10cmほどの覆土も住居廃絶から短期間に堆積したと考えられる。この層が人為的な埋め戻しによるものという確証は得られていないが、少なくとも焼土層内に廃棄された須恵器長頸瓶の微細な破片がカマド内やカマド内の土師器甕の内部から出土したことからも、この段階でカマドもあるていどの外観を残していたのではないかと思われる。焼土層の堆積以前に住居の中央に三彩陶器小壺を置き、焚火ていどの火を燃やしたか、まだ火がくすぶっている木材を住居内に投棄した。このとき、同時に住居西側から小形の壺一杯ほどの炭化米を投棄した。投棄の最終段階に入り、鎌・刀子等の鉄製品や鉈尾、燧鉄、燧石、三彩陶器托を置き、住居廃絶にかかる重要な行為の大部分は終了した。

第2節 井戸向遺跡第9地点出土の炭化米穀類同定計測報告

1. はじめに

八千代市井戸向遺跡は、八千代市を南北に流れる新川を東に臨む標高15~24mの台地上に立地しており、八千代市萱田地区土地区画整理事業に伴い、昭和52年より発掘調査が行われている。今回分析試料が採取されたD147堅穴住居址は、井戸向遺跡第9地点において検出された奈良・平安時代（8世紀後半～9世紀後半）の堅穴住居址のひとつである。同住居址からは三彩陶器が出土しており、この点でも注意されている。その年代観からは、本住居址が9世紀初頭に属すると判断されている。

2. 分析目的

D147堅穴住居址は、2.0m×2.0mの方形を呈する堅穴住居址で、北コーナーにカマドが設置されている。住居址覆土は約40cmの深さがあり、そのうち3層を中心にして炭化種子が得られた。また、カマド内からも炭化種子が得られている。

覆土中の炭化種子の平面分布を見ると、集中部分が東側と西側に分かれていることに気づく。また、種子が床面よりやや上位の3層を中心として出土していることからみても、これらの炭化種子が貯蔵中火災にあって遺存することとなったのではなく、住居址廃絶後炭化種子が東方向、西方向それぞれから投入された、あるいは投入後炭化したものと推定される。

今回の分析調査では、種子の同定（ほとんどコメでマメが混ざる）及び計測を行い、東西集中部間の種類・大きさの偏り、種類別の大さきの変異、種類間での大きさの変異など当時の穀物生産に関する基礎資料を得ることを目的とする。

3. 対象試料

住居址を平面的に20×20cmの正方形メッシュに区切り、炭化種子が出土した面から5cm単位で試料を採取収納されている。したがって、試料番号40-1・40-2などとなっている。この場合、40は区画のNo. -1・-2などは1段目・2段目ということになる。また、種子の出はじめた面が1段目のはじまりなので、同じ-1となっていても同一面であるかどうかはわからない。

ところで、分析対象となる試料採取区画数は、カマドを含めて総計119あり、それぞれ数粒～数千粒規模の炭化種子が採取されている。したがって、依頼者との協議の結果、空間的・垂直的分布を考慮に入れ、対象試料を選択することとした。なお、計測は100粒以下のものは全点を、100粒以上のものは100粒を選択して実施するものとした。同定・計測対象は、15式（1,500粒）を目標とした。

試料の重さ及び粒数は、表1に示した。

4. 同定・計測方法

① 同 定

計測に先立ち、同定対象試料を肉眼観察し、100粒以下の試料は全点同定・計測、100粒以上のものはコメ以外のものがある場合、これも数粒～数10粒計測対象の100粒に含めるよう留意した。

② 計 測

計測は、ノギス・デバイダーなど適宜使用し、小数第1位mmまで算定した。結果は、試料番号毎に、長さ・巾・厚さをmm単位で表化した。ただし、コメとコメ以外（マメなど）が混ざる場合はそれぞれ区別して表示した。

5. 結果

結果は、一覧表（表2）に示した。

表1. 井戸向遺跡炭化米試料表

試料番号	重さ(g)	粒数	備考
4-1	—	2	
7-2	—	3	
8-1	—	3	
9-1	—	4	
19-1	1.45	約100-120	
19-2	0.05	10	
22-4	0.06	8	
24-3	0.03	4	
25-2	0.29	約45-50	
27-1	191.62	約30,000	
27-2	67.92	約10,000	
28-3	0.08	10	
33-1	17.29	約2,500-3,000	
33-2	29.68	約5,000	
41-1	0.05	5	
42-2	5.40	約750-1,000	
42-3	10.80	約1,500-2,000	
43-4	1.11	約100	
44-2	1.83	約200	
46-1	0.11	約15-20	
48-1	1.80	約100	
48-3	2.06	約300	
49-1	3.25	約350-400	
カマド1-4	0.10	約15-20	
カマド1-6	0.37	24	
カマド3-1	0.12	約20	中粒

表2. 井戸向遺跡炭化米その他種子計測表

試料	種類	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	長さ/幅	幅/厚さ	備考
4-1	米	3.7	2.4	2	1.5	1.2	
7	〃	4.3	2.3	1.7	1.9	1.4	
8	〃	4.5	2.4	2.1	1.9	1.1	
9	〃	4.7	2.6	1.8	1.8	1.4	
10	7-2	米	4.4	2.3	1.6	1.9	1.4
11	8-1	米	3.6	2.1	1.6	1.7	1.3
12	〃	不明(豆類?)	3.2	2.9			
13	〃	3.9	3.2				
14	9-1	米	3.9	2.5	1.7	1.6	1.5
15	〃	4.2	2.3	1.5	1.8	1.5	
16	〃	4.2	2.4	1.9	1.8	1.3	
17	〃						測定不能(割れている)
18	19-1	米	3.5	2.5	1.8	1.4	1.4
19	〃	3.5	2.3	1.8	1.5	1.3	
20	〃	3.6	2.3	1.7	1.6	1.4	
21	〃	3.6	2.6	1.8	1.4	1.4	
22	〃	3.7	2.4	1.7	1.5	1.4	
23	〃	3.7	2.4	2	1.5	1.2	
24	〃	3.7	2.5	1.8	1.5	1.4	
25	〃	3.8	2.4	1.8	1.6	1.3	
26	〃	3.8	2.5	2.7	1.5	0.9	
27	〃	3.8	2.6	2.1	1.5	1.2	
28	〃	3.9	2.4	1.7	1.6	1.4	
29	〃	4	2.5	1.8	1.6	1.4	
30	〃	4	2.4	1.8	1.7	1.3	
31	〃	4	2.1	1.2	1.9	1.8	
32	〃	4	2.6	1.8	1.5	1.4	
33	〃	4	2.5	1.9	1.6	1.3	
34	〃	4	2.4	2.2	1.7	1.1	
35	〃	4	2.4	2	1.7	1.2	
36	〃	4	2.3	1.4	1.7	1.6	
37	〃	4	2.3	2	1.7	1.2	
38	〃	4	2.5	2	1.6	1.3	
39	〃	4	2.2	1.9	1.8	1.2	
40	〃	4	2.6	2	1.5	1.3	
41	〃	4.1	2.3	1.8	1.8	1.3	
42	〃	4.1	2.6	2	1.6	1.3	
43	〃	4.2	2.4	1.7	1.8	1.4	
44	〃	4.2	2.4	2.2	1.8	1.1	
45	〃	4.2	2.7	1.9	1.6	1.4	
46	〃	4.2	2.5	1.7	1.7	1.5	
47	〃	4.2	2.6	1.8	1.6	1.4	
48	〃	4.2	2.7	2	1.6	1.4	
49	〃	4.2	2.4	2.1	1.8	1.1	
50	〃	4.2	2.4	1.8	1.8	1.3	
51	〃	4.2	2.3	2	1.8	1.2	
52	〃	4.2	2.3	1.9	1.8	1.2	
53	〃	4.3	2.5	1.9	1.7	1.3	
54	〃	4.3	2.4	1.9	1.8	1.3	
55	〃	4.3	2.3	1.9	1.9	1.2	
56	〃	4.3	3	2	1.4	1.5	
57	〃	4.3	2.5	2	1.7	1.3	
58	〃	4.3	2.4	1.9	1.8	1.3	
59	〃	4.3	2.7	1.7	1.6	1.6	
60	〃	4.3	2.4	2	1.8	1.2	
61	〃	4.3	2.3	1.8	1.9	1.3	
62	〃	4.4	2.7	1.7	1.6	1.6	
63	〃	4.4	2.5	1.8	1.8	1.4	
64	〃	4.4	2.7	1.9	1.6	1.4	
65	〃	4.4	2.8	1.9	1.6	1.5	

66	〃	〃	4.4	2.5	2	1.8	1.3
67	〃	〃	4.4	2.7	1.9	1.6	1.4
68	〃	〃	4.4	2.5	2	1.8	1.3
69	〃	〃	4.4	2.4	2	1.8	1.2
70	〃	〃	4.4	2.3	2	1.9	1.2
71	〃	〃	4.4	2.9	1.9	1.5	1.5
72	〃	〃	4.5	2.7	2	1.7	1.4
73	〃	〃	4.5	2.5	2	1.8	1.3
74	〃	〃	4.5	2.7	1.9	1.7	1.4
75	〃	〃	4.5	2.3	2.2	2.0	1.0
76	〃	〃	4.5	2.4	2.3	1.9	1.0
77	〃	〃	4.5	2.6	1.9	1.7	1.4
78	〃	〃	4.5	2.2	2.1	2.0	1.0
79	〃	〃	4.5	2.6	1.8	1.7	1.4
80	〃	〃	4.5	2.6	2.1	1.7	1.2
81	〃	〃	4.5	2.5	2	1.8	1.3
82	〃	〃	4.5	2.6	2.5	1.7	1.0
83	〃	〃	4.6	2.7	2.2	1.7	1.2
84	〃	〃	4.6	2.8	2.3	1.6	1.2
85	〃	〃	4.6	2.3	2	2.0	1.2
86	〃	〃	4.6	2.4	1.8	1.9	1.3
87	〃	〃	4.6	2.5	2	1.8	1.3
88	〃	〃	4.6	2.7	2.8	1.7	1.0
89	〃	〃	4.7	2.5	2.2	1.9	1.1
90	〃	〃	4.7	2.8	1.7	1.7	1.6
91	〃	〃	4.7	2.8	2.2	1.7	1.3
92	〃	〃	4.7	2.5	2.2	1.9	1.1
93	〃	〃	4.7	2.7	2.2	1.7	1.2
94	〃	〃	4.8	2.4	2.3	2.0	1.0
95	〃	〃	4.8	2.5	2.1	1.9	1.2
96	〃	〃	4.8	2.6	2.6	1.8	1.0
97	〃	〃	4.8	2.6	1.8	1.8	1.4
98	〃	〃	4.8	2.4	1.6	2.0	1.5
99	〃	〃	4.8	2.3	2.2	2.1	1.0
100	〃	〃	4.9	2.8	2.1	1.8	1.3
101	〃	〃	5	2.6	2	1.9	1.3
102	〃	〃	5	2.4	1.8	2.1	1.3
103	19-2	米	3.4	2.3	1.8	1.5	1.3
104	〃	〃	3.5	2.1	1.8	1.7	1.2
105	〃	〃	3.8	2.5	2	1.5	1.3
106	〃	〃	4.3	2.2	1.9	2.0	1.2
107	〃	〃					測定不能(割れている)
108	22-4	米	4.3	2.4	2	1.8	1.2
109	〃	〃	4.3	2.2	1.8	2.0	1.2
110	〃	〃	4.3	2.2	2	2.0	1.1
111	〃	〃	4.4	2.2	2	2.0	1.1
112	〃	〃	4.7	2.8	2.1	1.7	1.3
113	〃	〃	4.7	2.5	2.3	1.9	1.1
114	〃	〃					測定不能(割れている)
115	24-3	米	4.3	2.3	1.4	1.9	1.6
116	〃	〃					測定不能(割れている)
117	25-2	米	4	2.3	2	1.7	1.2
118	〃	〃	4	1.9	1.8	2.1	1.1
119	〃	〃	4.3	2.5	1.7	1.7	1.5
120	〃	〃	4.3	2.4	2.2	1.8	1.1
121	〃	〃	4.5	2.3	1.7	2.0	1.4
122	〃	〃	4.6	2.5	2	1.8	1.3
123	〃	〃	4.6	2	2	2.3	1.0
124	〃	〃	4.7	2.2	2	2.1	1.1
125	〃	〃	4.7	2.4	1.7	2.0	1.4
126	〃	〃	4.7	2.5	2	1.9	1.3
127	〃	〃	4.7	2.7	2	1.7	1.4
128	〃	〃	4.8	2.6	2.1	1.8	1.2
129	〃	〃	4.8	2.9	1.7	1.7	1.7

130	〃	〃	4.9	2.8	2.3	1.8	1.2
131	〃	〃	4.9	2.5	2	2.0	1.3
132	〃	〃	5	2.4	2.4	2.1	1.0
133	〃	〃	5	2.4	1.7	2.1	1.4
134	〃	〃	5.2	3	2	1.7	1.5
135	〃	〃	5.7	2.6	2	2.2	1.3
136	〃	〃					測定不能（割れている）
137	27-1	米	4	2.5	2	1.6	1.3
138	〃	〃	4.1	2.4	1.9	1.7	1.3
139	〃	〃	4.1	2.5	2	1.6	1.3
140	〃	〃	4.2	2	2.1	2.1	1.0
141	〃	〃	4.2	2.4	2.1	1.8	1.1
142	〃	〃	4.3	2.5	1.9	1.7	1.3
143	〃	〃	4.3	2.8	2.1	1.5	1.3
144	〃	〃	4.4	2.4	1.8	1.8	1.3
145	〃	〃	4.4	2.5	1.9	1.8	1.3
146	〃	〃	4.4	2.4	2	1.8	1.2
147	〃	〃	4.4	2.7	2.1	1.6	1.3
148	〃	〃	4.4	2.5	1.9	1.8	1.3
149	〃	〃	4.4	2.4	2	1.8	1.2
150	〃	〃	4.4	2.3	1.8	1.9	1.3
151	〃	〃	4.4	2.4	2.1	1.8	1.1
152	〃	〃	4.4	2.6	1.9	1.7	1.4
153	〃	〃	4.4	2.5	2	1.8	1.3
154	〃	〃	4.5	2.7	2	1.7	1.4
155	〃	〃	4.5	2.6	2.2	1.7	1.2
156	〃	〃	4.5	2.4	1.8	1.9	1.3
157	〃	〃	4.5	2.5	2	1.8	1.3
158	〃	〃	4.5	2.7	2.1	1.7	1.3
159	〃	〃	4.5	2.7	1.9	1.7	1.4
160	〃	〃	4.5	2.4	1.8	1.9	1.3
161	〃	〃	4.5	2.3	2	2.0	1.2
162	〃	〃	4.5	2.2	1.9	2.0	1.2
163	〃	〃	4.5	2.5	2	1.8	1.3
164	〃	〃	4.5	2.5	2	1.8	1.3
165	〃	〃	4.5	2.7	2	1.7	1.4
166	〃	〃	4.5	2.3	2.2	2.0	1.0
167	〃	〃	4.5	2.6	2	1.7	1.3
168	〃	〃	4.5	2.4	2.2	1.9	1.1
169	〃	〃	4.5	2.5	2	1.8	1.3
170	〃	〃	4.5	2.5	2.1	1.8	1.2
171	〃	〃	4.5	2.7	2	1.7	1.4
172	〃	〃	4.5	2.4	2.1	1.9	1.1
173	〃	〃	4.5	2.5	2	1.8	1.3
174	〃	〃	4.5	2.6	2.1	1.7	1.2
175	〃	〃	4.6	2.6	1.8	1.8	1.4
176	〃	〃	4.6	2.6	2.1	1.8	1.2
177	〃	〃	4.6	2	2	2.3	1.0
178	〃	〃	4.6	2.6	2.1	1.8	1.2
179	〃	〃	4.6	2.4	2	1.9	1.2
180	〃	〃	4.6	2.6	1.9	1.8	1.4
181	〃	〃	4.6	2.5	2	1.8	1.3
182	〃	〃	4.6	2.5	2.3	1.8	1.1
183	〃	〃	4.6	2.4	2.1	1.9	1.1
184	〃	〃	4.6	2.4	2	1.9	1.2
185	〃	〃	4.6	2.5	2.3	1.8	1.1
186	〃	〃	4.6	2.5	2	1.8	1.3
187	〃	〃	4.6	2.4	1.9	1.9	1.3
188	〃	〃	4.6	2.4	2	1.9	1.2
189	〃	〃	4.6	2.5	2.1	1.8	1.2
190	〃	〃	4.6	2.8	1.9	1.6	1.5
191	〃	〃	4.6	2.6	2.3	1.8	1.1
192	〃	〃	4.7	2.6	2	1.8	1.3
193	〃	〃	4.7	2.3	1.8	2.0	1.3
194	〃	〃	4.7	2.4	1.8	2.0	1.3

195	〃	〃	4.7	2.7	2.1	1.7	1.3
196	〃	〃	4.7	2.6	2.4	1.8	1.1
197	〃	〃	4.7	2.5	1.9	1.9	1.3
198	〃	〃	4.7	2.7	2	1.7	1.4
199	〃	〃	4.7	2.8	2.3	1.7	1.2
200	〃	〃	4.7	2.3	1.6	2.0	1.4
201	〃	〃	4.7	2.7	2.4	1.7	1.1
202	〃	〃	4.7	2.6	1.9	1.8	1.4
203	〃	〃	4.7	2.6	1.9	1.8	1.4
204	〃	〃	4.7	2.7	1.9	1.7	1.4
205	〃	〃	4.8	2.7	2	1.8	1.4
206	〃	〃	4.8	2.3	1.9	2.1	1.2
207	〃	〃	4.8	2.5	2.2	1.9	1.1
208	〃	〃	4.8	2.6	2.2	1.8	1.2
209	〃	〃	4.8	2.6	2.1	1.8	1.2
210	〃	〃	4.8	2.6	2	1.8	1.3
211	〃	〃	4.8	2.3	2	2.1	1.2
212	〃	〃	4.8	2.3	2.1	2.1	1.1
213	〃	〃	4.8	2.7	2.3	1.8	1.2
214	〃	〃	4.8	2.6	2.2	1.8	1.2
215	〃	〃	4.8	2.8	2	1.7	1.4
216	〃	〃	4.8	2.8	2	1.7	1.4
217	〃	〃	4.8	3	2.1	1.6	1.4
218	〃	〃	4.9	2.7	2	1.8	1.4
219	〃	〃	4.9	2.8	2.3	1.8	1.2
220	〃	〃	4.9	2.4	1.8	2.0	1.3
221	〃	〃	4.9	2.8	2.2	1.8	1.3
222	〃	〃	4.9	2.8	2.1	1.8	1.3
223	〃	〃	5	2.5	1.9	2.0	1.3
224	〃	〃	5	2.5	1.9	2.0	1.3
225	〃	〃	5	2.3	2.3	2.2	1.0
226	〃	〃	5	2.9	2.3	1.7	1.3
227	〃	〃	5	2.7	2.3	1.9	1.2
228	〃	〃	5	2.5	1.9	2.0	1.3
229	〃	〃	5.1	2.6	2.3	2.0	1.1
230	〃	〃	5.2	2.6	2.2	2.0	1.2
231	〃	〃	5.2	2.8	2	1.9	1.4
232	〃	〃	5.2	2.8	2.1	1.9	1.3
233	〃	〃	5.2	2.9	2.5	1.8	1.2
234	〃	〃	5.3	2.5	1.9	2.1	1.3
235	〃	〃	5.3	2.5	1.8	2.1	1.4
236	〃	〃	5.4	2.4	1.9	2.3	1.3
237	〃	不明(豆類?)	3.4	3.3		1.0	
238	〃	〃	3.8	3.2		1.2	
239	〃	〃	4	3		1.3	
240	〃	〃	4	3.2		1.3	
241	〃	〃	4.2	2.9		1.4	
242	〃	〃	4.3	2.5		1.7	
243	〃	〃	4.4	2.9		1.5	
244	〃	〃	4.7	3.3		1.4	
245	27-2	米	4	2.4	2.1	1.7	1.1
246	〃	〃	4	1.9	1.7	1.3	
247	〃	〃	4	2.4	1.7	1.7	1.4
248	〃	〃	4	2.5	1.9	1.6	1.3
249	〃	〃	4.1	2.5	1.9	1.6	1.3
250	〃	〃	4.1	2.4	1.7	1.7	1.4
251	〃	〃	4.1	2.3	1.9	1.8	1.2
252	〃	〃	4.2	2.2	2	1.9	1.1
253	〃	〃	4.2	2.3	1.8	1.8	1.3
254	〃	〃	4.2	2.5	2.2	1.7	1.1
255	〃	〃	4.3	2.5	2	1.7	1.3
256	〃	〃	4.3	2.6	2	1.7	1.3
257	〃	〃	4.3	2.7	2.3	1.6	1.2
258	〃	〃	4.3	2.6	2.3	1.7	1.1

259	#	#	4.3	2.4	1.9	1.8	1.3
260	#	#	4.3	2.2	1.9	2.0	1.2
261	#	#	4.4	2.5	1.9	1.8	1.3
262	#	#	4.4	2.4	1.9	1.8	1.3
263	#	#	4.4	2.4	1.9	1.8	1.3
264	#	#	4.4	2.3	1.8	1.9	1.3
265	#	#	4.4	2.3	2.1	1.9	1.1
266	#	#	4.4	2.3	2.1	1.9	1.1
267	#	#	4.4	2.4	2.1	1.8	1.1
268	#	#	4.4	2.4	2.1	1.8	1.1
269	#	#	4.4	2.5	1.9	1.8	1.3
270	#	#	4.4	2.3	2.2	1.9	1.0
271	#	#	4.5	2.8	2	1.6	1.4
272	#	#	4.5	2.6	1.8	1.7	1.4
273	#	#	4.5	2.5	1.9	1.8	1.3
274	#	#	4.5	2.2	2	2.0	1.1
275	#	#	4.5	2.6	2.3	1.7	1.1
276	#	#	4.5	2.3	1.6	2.0	1.4
277	#	#	4.5	2.4	1.9	1.9	1.3
278	#	#	4.5	2.3	2	2.0	1.2
279	#	#	4.5	2.2	1.9	2.0	1.2
280	#	#	4.5	2.4	2.3	1.9	1.0
281	#	#	4.5	2.3	1.8	2.0	1.3
282	#	#	4.5	2.4	1.9	1.9	1.3
283	#	#	4.5	2.7	2.3	1.7	1.2
284	#	#	4.5	2.3	1.8	2.0	1.3
285	#	#	4.5	2.4	1.9	1.9	1.3
286	#	#	4.6	2.3	1.9	2.0	1.2
287	#	#	4.6	2.6	1.9	1.8	1.4
288	#	#	4.6	2.4	1.8	1.9	1.3
289	#	#	4.6	2.3	2	2.0	1.2
290	#	#	4.6	2.5	2	1.8	1.3
291	#	#	4.6	2.7	2.2	1.7	1.2
292	#	#	4.6	2.5	2	1.8	1.3
293	#	#	4.6	2.4	2	1.9	1.2
294	#	#	4.6	2.6	1.9	1.8	1.4
295	#	#	4.6	2.9	2	1.6	1.5
296	#	#	4.6	2.4	2	1.9	1.2
297	#	#	4.6	2.4	2	1.9	1.2
298	#	#	4.6	2.5	2	1.8	1.3
299	#	#	4.7	2.7	2.1	1.7	1.3
300	#	#	4.7	2.2	2	2.1	1.1
301	#	#	4.7	2.3	1.8	2.0	1.3
302	#	#	4.7	2.5	2	1.9	1.3
303	#	#	4.7	2.6	2	1.8	1.3
304	#	#	4.7	2.5	2	1.9	1.3
305	#	#	4.7	2.6	2.2	1.8	1.2
306	#	#	4.7	2.4	2	2.0	1.2
307	#	#	4.7	2.3	2.1	2.0	1.1
308	#	#	4.7	2.4	2.1	2.0	1.1
309	#	#	4.7	2.5	1.8	1.9	1.4
310	#	#	4.7	2.4	2	2.0	1.2
311	#	#	4.8	2.5	2.3	1.9	1.1
312	#	#	4.8	2.5	1.9	1.9	1.3
313	#	#	4.8	2.8	2.2	1.7	1.3
314	#	#	4.8	2.3	2.3	2.1	1.0
315	#	#	4.8	2.6	2	1.8	1.3
316	#	#	4.8	2.6	2.1	1.8	1.2
317	#	#	4.8	2.8	2.3	1.7	1.2
318	#	#	4.8	2.6	1.8	1.8	1.4
319	#	#	4.8	2.5	2.2	1.9	1.1
320	#	#	4.8	2.4	2.1	2.0	1.1
321	#	#	4.8	2.3	1.9	2.1	1.2
322	#	#	4.8	2.4	2	2.0	1.2
323	#	#	4.9	2.7	2.1	1.8	1.3

324	〃	〃	4.9	2.3	2	2.1	1.2
325	〃	〃	4.9	2.4	1.9	2.0	1.3
326	〃	〃	4.9	2.7	1.9	1.8	1.4
327	〃	〃	5	2.5	2.1	2.0	1.2
328	〃	〃	5	2.2	1.9	2.3	1.2
329	〃	〃	5	2.7	2	1.9	1.4
330	〃	〃	5	2.7	1.9	1.9	1.4
331	〃	〃	5	2.5	2.2	2.0	1.1
332	〃	〃	5	2.4	2	2.1	1.2
333	〃	〃	5	2.5	1.8	2.0	1.4
334	〃	〃	5	2.4	1.7	2.1	1.4
335	〃	〃	5.1	2.4	2	2.1	1.2
336	〃	〃	5.1	2.3	1.9	2.2	1.2
337	〃	〃	5.2	2.6	1.9	2.0	1.4
338	〃	〃	5.2	2.7	2	1.9	1.4
339	〃	〃	5.3	2.8	1.8	1.9	1.6
340	〃	〃	5.3	2.5	2	2.1	1.3
341	〃	〃	5.3	2.8	2.1	1.9	1.3
342	〃	〃	5.3	2.8	2.2	1.9	1.3
343	〃	〃	5.5	2.4	2	2.3	1.2
344	〃	〃	6.2	2.7	2	2.3	1.4
345	28-3	米	4.9	2.6	2	1.9	1.3
346	〃	〃	5	2.5	1.9	2.0	1.3
347	〃	〃	5	2.4	1.7	2.1	1.4
348	〃	不明(豆類?)	4.2	3	1.4		
349						測定不能(割れている)	
350	33-1	米	3.9	2.5	1.8	1.6	1.4
351	〃	〃	4.2	2.4	2.1	1.8	1.1
352	〃	〃	4.2	2.2	1.8	1.9	1.2
353	〃	〃	4.2	2.2	1.5	1.9	1.5
354	〃	〃	4.2	2.7	1.6	1.6	1.7
355	〃	〃	4.3	2.3	1.8	1.9	1.3
356	〃	〃	4.3	2.3	1.8	1.9	1.3
357	〃	〃	4.3	2.4	2	1.8	1.2
358	〃	〃	4.3	2.2	2.1	2.0	1.0
359	〃	〃	4.3	2.4	1.7	1.8	1.4
360	〃	〃	4.4	2.4	1.9	1.8	1.3
361	〃	〃	4.4	2.3	1.8	1.9	1.3
362	〃	〃	4.4	2	1.8	2.2	1.1
363	〃	〃	4.5	2.3	1.6	2.0	1.4
364	〃	〃	4.5	2.2	1.9	2.0	1.2
365	〃	〃	4.5	2.4	2	1.9	1.2
366	〃	〃	4.5	2.5	1.8	1.8	1.4
367	〃	〃	4.5	2.5	1.7	1.8	1.5
368	〃	〃	4.5	2.7	1.7	1.7	1.6
369	〃	〃	4.5	2.3	1.8	2.0	1.3
370	〃	〃	4.5	2.2	2.3	2.0	1.0
371	〃	〃	4.5	2.5	1.9	1.8	1.3
372	〃	〃	4.6	2.2	2	2.1	1.1
373	〃	〃	4.6	2.5	2	1.8	1.3
374	〃	〃	4.6	2.2	1.9	2.1	1.2
375	〃	〃	4.6	2.3	1.8	2.0	1.3
376	〃	〃	4.6	2.7	1.9	1.7	1.4
377	〃	〃	4.6	2.4	1.9	1.9	1.3
378	〃	〃	4.7	2.4	2	2.0	1.2
379	〃	〃	4.7	2.6	2	1.8	1.3
380	〃	〃	4.7	2.8	1.8	1.7	1.6
381	〃	〃	4.7	2.5	2.1	1.9	1.2
382	〃	〃	4.7	2.6	1.8	1.8	1.4
383	〃	〃	4.8	2.7	1.9	1.8	1.4
384	〃	〃	4.8	2.9	2	1.7	1.5
385	〃	〃	4.8	2.1	1.7	2.3	1.2
386	〃	〃	4.8	2.5	1.8	1.9	1.4
387	〃	〃	4.8	2.5	1.8	1.9	1.4

388	〃	〃	4.8	2.7	2.1	1.8	1.3
389	〃	〃	4.8	2.5	1.8	1.9	1.4
390	〃	〃	4.8	2.3	1.8	2.1	1.3
391	〃	〃	4.8	2.3	1.8	2.1	1.3
392	〃	〃	4.8	2.5	2	1.9	1.3
393	〃	〃	4.8	2.4	2	2.0	1.2
394	〃	〃	4.8	2.6	2	1.8	1.3
395	〃	〃	4.8	2.8	1.5	1.7	1.9
396	〃	〃	4.8	2	1.8	2.4	1.1
397	〃	〃	4.9	2.3	1.7	2.1	1.4
398	〃	〃	4.9	2.6	2.2	1.9	1.2
399	〃	〃	4.9	2.4	2	2.0	1.2
400	〃	〃	4.9	2.6	1.9	1.9	1.4
401	〃	〃	4.9	2.5	2.7	2.0	0.9
402	〃	〃	4.9	2.9	1.9	1.7	1.5
403	〃	〃	4.9	2.3	2	2.1	1.2
404	〃	〃	4.9	2.5	1.6	2.0	1.6
405	〃	〃	5	2.5	2	2.0	1.3
406	〃	〃	5	2.6	1.7	1.9	1.5
407	〃	〃	5	2.7	2.2	1.9	1.2
408	〃	〃	5	2.6	1.9	1.9	1.4
409	〃	〃	5	2.6	2.2	1.9	1.2
410	〃	〃	5	2.4	1.6	2.1	1.5
411	〃	〃	5	2.6	1.9	1.9	1.4
412	〃	〃	5	2.6	2	1.9	1.3
413	〃	〃	5	2.5	1.7	2.0	1.5
414	〃	〃	5	2.7	2	1.9	1.4
415	〃	〃	5	2.8	1.7	1.8	1.6
416	〃	〃	5	2.6	2.1	1.9	1.2
417	〃	〃	5	2.7	1.7	1.9	1.6
418	〃	〃	5	2.3	2	2.2	1.2
419	〃	〃	5.1	2.4	1.8	2.1	1.3
420	〃	〃	5.1	2.7	1.8	1.9	1.5
421	〃	〃	5.1	2.4	1.9	2.1	1.3
422	〃	〃	5.1	2.8	2.1	1.8	1.3
423	〃	〃	5.2	2.5	1.9	2.1	1.3
424	〃	〃	5.2	2.5	2.2	2.1	1.1
425	〃	〃	5.2	2.5	1.8	2.1	1.4
426	〃	〃	5.2	2.7	1.9	1.9	1.4
427	〃	〃	5.2	2.3	1.8	2.3	1.3
428	〃	〃	5.2	2.5	2	2.1	1.3
429	〃	〃	5.2	2.7	1.9	1.9	1.4
430	〃	〃	5.2	2.4	1.9	2.2	1.3
431	〃	〃	5.2	2.2	1.6	2.4	1.4
432	〃	〃	5.2	2.6	1.6	2.0	1.6
433	〃	〃	5.2	2.6	1.6	2.0	1.6
434	〃	〃	5.3	2.5	2.1	2.1	1.2
435	〃	〃	5.3	2.7	2	2.0	1.4
436	〃	〃	5.3	2.7	1.8	2.0	1.5
437	〃	〃	5.3	2.9	1.9	1.8	1.5
438	〃	〃	5.3	3	2.1	1.8	1.4
439	〃	〃	5.3	2.8	2	1.9	1.4
440	〃	〃	5.3	2.3	2	2.3	1.2
441	〃	〃	5.3	2.6	1.5	2.0	1.7
442	〃	〃	5.4	2.4	1.8	2.3	1.3
443	〃	〃	5.4	2.8	2.1	1.9	1.3
444	〃	〃	5.4	2.3	1.6	2.3	1.4
445	〃	〃	5.5	2.5	1.8	2.2	1.4
446	〃	〃	5.5	2.7	2	2.0	1.4
447	〃	〃	5.5	2.7	2.3	2.0	1.2
448	〃	〃	5.5	2.6	1.8	2.1	1.4
449	〃	〃	5.5	2.5	2.3	2.2	1.1
450	33-2	米	4	2.3	1.7	1.7	1.4
451	〃	〃	4.2	2.1	2	2.0	1.1
452	〃	〃	4.2	2.2	2	1.9	1.1

453	H	H	4.2	2.2	1.9	1.9	1.2
454	H	H	4.3	2.3	1.6	1.9	1.4
455	H	H	4.3	2.5	1.9	1.7	1.3
456	H	H	4.3	2.2	1.9	2.0	1.2
457	H	H	4.3	2.5	2	1.7	1.3
458	H	H	4.3	2.2	1.7	2.0	1.3
459	H	H	4.4	2.4	2.1	1.8	1.1
460	H	H	4.4	2.3	1.8	1.9	1.3
461	H	H	4.4	2.4	1.8	1.8	1.3
462	H	H	4.4	2.5	1.8	1.8	1.4
463	H	H	4.4	2.3	1.9	1.9	1.2
464	H	H	4.4	2.3	1.7	1.9	1.4
465	H	H	4.4	2.6	1.8	1.7	1.4
466	H	H	4.4	2.8	1.9	1.6	1.5
467	H	H	4.5	2.3	1.7	2.0	1.4
468	H	H	4.5	2	2	2.3	1.0
469	H	H	4.5	2.5	1.9	1.8	1.3
470	H	H	4.6	2.4	1.9	1.9	1.3
471	H	H	4.6	2.4	1.9	1.9	1.3
472	H	H	4.6	2	1.9	2.3	1.1
473	H	H	4.6	2.5	1.9	1.8	1.3
474	H	H	4.6	2.6	1.7	1.8	1.5
475	H	H	4.6	2.3	1.8	2.0	1.3
476	H	H	4.6	2.5	1.8	1.8	1.4
477	H	H	4.7	2.6	1.8	1.8	1.4
478	H	H	4.7	2.3	2.1	2.0	1.1
479	H	H	4.7	2.4	2.2	2.0	1.1
480	H	H	4.7	2.6	2	1.8	1.3
481	H	H	4.7	2.2	1.8	2.1	1.2
482	H	H	4.7	2.4	1.5	2.0	1.6
483	H	H	4.7	2.1	1.9	2.2	1.1
484	H	H	4.7	2.5	2	1.9	1.3
485	H	H	4.7	2.7	1.7	1.7	1.6
486	H	H	4.7	2.8	1.7	1.7	1.6
487	H	H	4.7	2.7	1.6	1.7	1.7
488	H	H	4.7	2.4	2	2.0	1.2
489	H	H	4.7	2.4	1.8	2.0	1.3
490	H	H	4.8	2.6	2	1.8	1.3
491	H	H	4.8	2.3	1.8	2.1	1.3
492	H	H	4.8	2.4	1.7	2.0	1.4
493	H	H	4.8	2.4	1.7	2.0	1.4
494	H	H	4.8	2.3	1.7	2.1	1.4
495	H	H	4.8	2.4	1.9	2.0	1.3
496	H	H	4.8	2.3	1.9	2.1	1.2
497	H	H	4.8	2.5	2	1.9	1.3
498	H	H	4.8	2.2	1.9	2.2	1.2
499	H	H	4.8	2.3	1.9	2.1	1.2
500	H	H	4.8	2.6	2.1	1.8	1.2
501	H	H	4.8	2.4	1.7	2.0	1.4
502	H	H	4.8	2.8	2	1.7	1.4
503	H	H	4.8	2.2	1.9	2.2	1.2
504	H	H	4.9	2.5	1.6	2.0	1.6
505	H	H	4.9	2.6	1.8	1.9	1.4
506	H	H	4.9	2.7	2	1.8	1.4
507	H	H	4.9	2.5	1.7	2.0	1.5
508	H	H	4.9	2.2	1.8	2.2	1.2
509	H	H	4.9	2.3	1.9	2.1	1.2
510	H	H	4.9	2.2	1.9	2.2	1.2
511	H	H	4.9	2.3	1.8	2.1	1.3
512	H	H	5	2.6	1.5	1.9	1.7
513	H	H	5	2.6	2	1.9	1.3
514	H	H	5	2.4	1.6	2.1	1.5
515	H	H	5	2.7	1.8	1.9	1.5
516	H	H	5	2.7	1.8	1.9	1.5
517	H	H	5	2.5	1.9	2.0	1.3

518	〃	〃	5	2.3	1.9	2.2	1.2
519	〃	〃	5	2.6	1.8	1.9	1.4
520	〃	〃	5	2.6	2	1.9	1.3
521	〃	〃	5	2.6	1.8	1.9	1.4
522	〃	〃	5	2.2	1.6	2.3	1.4
523	〃	〃	5	2.1	1.8	2.4	1.2
524	〃	〃	5	2.6	1.7	1.9	1.5
525	〃	〃	5.1	2.5	2	2.0	1.3
526	〃	〃	5.1	2.5	1.8	2.0	1.4
527	〃	〃	5.1	2.6	2	2.0	1.3
528	〃	〃	5.1	2.5	2.6	2.0	1.0
529	〃	〃	5.1	2.3	1.7	2.2	1.4
530	〃	〃	5.1	2.5	1.8	2.0	1.4
531	〃	〃	5.2	2.4	1.8	2.2	1.3
532	〃	〃	5.2	2.5	2	2.1	1.3
533	〃	〃	5.2	2.4	2	2.2	1.2
534	〃	〃	5.2	2.3	1.6	2.3	1.4
535	〃	〃	5.3	2.2	1.8	2.4	1.2
536	〃	〃	5.3	2.5	2.1	2.1	1.2
537	〃	〃	5.3	2.5	2	2.1	1.3
538	〃	〃	5.3	2.4	1.8	2.2	1.3
539	〃	〃	5.3	2.7	2	2.0	1.4
540	〃	〃	5.3	2.5	2	2.1	1.3
541	〃	〃	5.3	2.4	2	2.2	1.2
542	〃	〃	5.4	2.4	1.9	2.3	1.3
543	〃	〃	5.5	2.6	1.9	2.1	1.4
544	〃	〃	5.6	2.5	2.2	2.2	1.1
545	〃	〃	5.6	2.5	1.7	2.2	1.5
546	〃	〃	5.6	2.5	1.8	2.2	1.4
547	〃	〃	5.6	2.6	1.6	2.2	1.6
548	〃	〃	5.7	2.7	2.1	2.1	1.3
549	〃	〃	5.7	2.9	2.1	2.0	1.4
550	41-1	米	4	2.2	1.6	1.8	1.4
551							測定不能（割れている）
552	42-2	米	4	2.4	1.9	1.7	1.3
553	〃	〃	4	2.4	1.5	1.7	1.6
554	〃	〃	4	2.2	1.3	1.8	1.7
555	〃	〃	4	2.4	1.9	1.7	1.3
556	〃	〃	4.1	2.2	1.6	1.9	1.4
557	〃	〃	4.1	2.4	1.8	1.7	1.3
558	〃	〃	4.1	2.3	1.9	1.8	1.2
559	〃	〃	4.1	2.5	1.9	1.6	1.3
560	〃	〃	4.1	2.3	1.6	1.8	1.4
561	〃	〃	4.1	2.2	2	1.9	1.1
562	〃	〃	4.1	2.3	1.7	1.8	1.4
563	〃	〃	4.1	2.3	1.4	1.8	1.6
564	〃	〃	4.2	2	1.7	2.1	1.2
565	〃	〃	4.2	2.5	1.7	1.7	1.5
566	〃	〃	4.2	2.4	1.9	1.8	1.3
567	〃	〃	4.2	2.6	1.8	1.6	1.4
568	〃	〃	4.2	2.6	1.8	1.6	1.4
569	〃	〃	4.2	2.3	1.9	1.8	1.2
570	〃	〃	4.2	2	1.6	2.1	1.3
571	〃	〃	4.2	2.4	1.7	1.8	1.4
572	〃	〃	4.2	2.4	1.9	1.8	1.3
573	〃	〃	4.2	2.3	1.6	1.8	1.4
574	〃	〃	4.2	2.4	1.8	1.8	1.3
575	〃	〃	4.3	2.3	1.7	1.9	1.4
576	〃	〃	4.3	2.2	1.9	2.0	1.2
577	〃	〃	4.3	2.2	2	2.0	1.1
578	〃	〃	4.3	2.7	1.7	1.6	1.6
579	〃	〃	4.3	2.6	2	1.7	1.3
580	〃	〃	4.3	2.5	1.6	1.7	1.6
581	〃	〃	4.4	2.4	1.9	1.8	1.3

582	H	H	4.4	2.7	1.8	1.6	1.5
583	H	H	4.4	2.4	1.8	1.8	1.3
584	H	H	4.4	2.4	1.8	1.8	1.3
585	H	H	4.4	2.5	2	1.8	1.3
586	H	H	4.4	2.5	1.8	1.8	1.4
587	H	H	4.4	2.3	1.8	1.9	1.3
588	H	H	4.4	2.5	1.9	1.8	1.3
589	H	H	4.4	2.4	1.7	1.8	1.4
590	H	H	4.4	2.4	1.5	1.8	1.6
591	H	H	4.5	2.6	2.2	1.7	1.2
592	H	H	4.5	2.5	1.7	1.8	1.5
593	H	H	4.5	2.4	2	1.9	1.2
594	H	H	4.5	2.3	2.1	2.0	1.1
595	H	H	4.5	2.4	1.7	1.9	1.4
596	H	H	4.5	2.4	1.7	1.9	1.4
597	H	H	4.5	2.3	1.7	2.0	1.4
598	H	H	4.5	2.3	1.6	2.0	1.4
599	H	H	4.5	2.3	1.9	2.0	1.2
600	H	H	4.5	2.5	1.7	1.8	1.5
601	H	H	4.5	2.3	1.7	2.0	1.4
602	H	H	4.5	2.2	1.6	2.0	1.4
603	H	H	4.5	2.5	1.6	1.8	1.6
604	H	H	4.5	2.4	1.6	1.9	1.5
605	H	H	4.5	2.4	1.8	1.9	1.3
606	H	H	4.6	2.6	1.6	1.8	1.6
607	H	H	4.6	2.7	1.8	1.7	1.5
608	H	H	4.6	2.4	1.7	1.9	1.4
609	H	H	4.6	2.2	1.6	2.1	1.4
610	H	H	4.6	2.6	2	1.8	1.3
611	H	H	4.6	2.8	1.8	1.6	1.6
612	H	H	4.6	2.6	2	1.8	1.3
613	H	H	4.6	2.5	1.8	1.8	1.4
614	H	H	4.6	2.3	1.7	2.0	1.4
615	H	H	4.6	2.3	1.6	2.0	1.4
616	H	H	4.6	2.6	1.7	1.8	1.5
617	H	H	4.6	2.5	1.7	1.8	1.5
618	H	H	4.6	2.3	1.5	2.0	1.5
619	H	H	4.6	2.5	1.8	1.8	1.4
620	H	H	4.6	2.7	1.8	1.7	1.5
621	H	H	4.7	2.6	2	1.8	1.3
622	H	H	4.7	2.5	1.8	1.9	1.4
623	H	H	4.7	2.5	1.8	1.9	1.4
624	H	H	4.7	2.4	1.9	2.0	1.3
625	H	H	4.7	2.8	1.7	1.7	1.6
626	H	H	4.7	2.4	1.9	2.0	1.3
627	H	H	4.7	2.5	1.8	1.9	1.4
628	H	H	4.7	2.5	1.7	1.9	1.5
629	H	H	4.7	2.6	2.1	1.8	1.2
630	H	H	4.7	2.2	1.6	2.1	1.4
631	H	H	4.7	2.6	1.9	1.8	1.4
632	H	H	4.7	2.6	1.9	1.8	1.4
633	H	H	4.7	2.7	1.8	1.7	1.5
634	H	H	4.8	2.3	1.6	2.1	1.4
635	H	H	4.8	2.6	1.8	1.8	1.4
636	H	H	4.8	2.5	1.6	1.9	1.6
637	H	H	4.8	2.4	1.9	2.0	1.3
638	H	H	4.8	2.6	2.2	1.8	1.2
639	H	H	4.8	2.7	1.9	1.8	1.4
640	H	H	4.8	2.7	1.9	1.8	1.4
641	H	H	4.9	2.7	1.8	1.8	1.5
642	H	H	4.9	2.7	1.9	1.8	1.4
643	H	H	4.9	2.9	2	1.7	1.5
644	H	H	5	2.3	1.9	2.2	1.2
645	H	H	5	2.8	2	1.8	1.4
646	H	H	5	2.9	2	1.7	1.5

647	〃	〃	5	2.6	1.7	1.9	1.5
648	〃	〃	5	2.5	1.9	2.0	1.3
649	〃	〃	5.2	2.5	1.9	2.1	1.3
650	〃	〃	5.2	2.8	1.9	1.9	1.5
651	〃	〃	5.3	2.7	1.8	2.0	1.5
652	42-3	米	3.6	1.8	1.4	2.0	1.3
653	〃	〃	3.8	2.1	1.7	1.8	1.2
654	〃	〃	3.9	2.3	1.6	1.7	1.4
655	〃	〃	3.9	2.2	1.4	1.8	1.6
656	〃	〃	4	2.4	1.7	1.7	1.4
657	〃	〃	4	2.3	1.7	1.7	1.4
658	〃	〃	4.2	2.8	2	1.5	1.4
659	〃	〃	4.2	2.5	1.7	1.7	1.5
660	〃	〃	4.2	2.8	1.7	1.5	1.6
661	〃	〃	4.2	2.3	1.6	1.8	1.4
662	〃	〃	4.3	2.3	1.8	1.9	1.3
663	〃	〃	4.3	2.5	1.8	1.7	1.4
664	〃	〃	4.3	2.4	1.7	1.8	1.4
665	〃	〃	4.3	2.4	1.9	1.8	1.3
666	〃	〃	4.3	2.5	1.7	1.7	1.5
667	〃	〃	4.3	2.5	1.8	1.7	1.4
668	〃	〃	4.3	2.5	1.8	1.7	1.4
669	〃	〃	4.3	2.4	1.6	1.8	1.5
670	〃	〃	4.3	2.6	1.8	1.7	1.4
671	〃	〃	4.4	2.5	2	1.8	1.3
672	〃	〃	4.4	2.3	1.6	1.9	1.4
673	〃	〃	4.4	2.5	1.8	1.8	1.4
674	〃	〃	4.4	2.6	1.9	1.7	1.4
675	〃	〃	4.4	2.3	1.5	1.9	1.5
676	〃	〃	4.4	2.3	1.7	1.9	1.4
677	〃	〃	4.4	2.4	1.5	1.8	1.6
678	〃	〃	4.5	2.4	1.7	1.9	1.4
679	〃	〃	4.5	2.5	1.6	1.8	1.6
680	〃	〃	4.5	2.6	1.6	1.7	1.6
681	〃	〃	4.5	2.5	1.8	1.8	1.4
682	〃	〃	4.5	2.4	1.6	1.9	1.5
683	〃	〃	4.5	2.4	1.8	1.9	1.3
684	〃	〃	4.5	2.5	1.9	1.8	1.3
685	〃	〃	4.5	2.5	2	1.8	1.3
686	〃	〃	4.5	2	1.8	2.3	1.1
687	〃	〃	4.5	2.5	2	1.8	1.3
688	〃	〃	4.5	2.5	1.7	1.8	1.5
689	〃	〃	4.5	2.6	1.9	1.7	1.4
690	〃	〃	4.5	2.6	1.9	1.7	1.4
691	〃	〃	4.5	2.6	1.9	1.7	1.4
692	〃	〃	4.5	2.4	1.8	1.9	1.3
693	〃	〃	4.5	2.6	1.8	1.7	1.4
694	〃	〃	4.5	2.3	1.6	2.0	1.4
695	〃	〃	4.5	2.5	1.8	1.8	1.4
696	〃	〃	4.5	2.4	1.6	1.9	1.5
697	〃	〃	4.6	2.4	1.6	1.9	1.5
698	〃	〃	4.6	2.4	1.8	1.9	1.3
699	〃	〃	4.6	2.6	2	1.8	1.3
700	〃	〃	4.6	2.5	2	1.8	1.3
701	〃	〃	4.6	2.5	1.6	1.8	1.6
702	〃	〃	4.6	2.5	1.8	1.8	1.4
703	〃	〃	4.6	2.8	1.8	1.6	1.6
704	〃	〃	4.6	2.7	1.6	1.7	1.7
705	〃	〃	4.6	2.5	1.8	1.8	1.4
706	〃	〃	4.6	2.4	1.7	1.9	1.4
707	〃	〃	4.6	2.4	1.6	1.9	1.5
708	〃	〃	4.6	2.4	1.8	1.9	1.3
709	〃	〃	4.6	2.6	1.7	1.8	1.5
710	〃	〃	4.6	2.5	1.9	1.8	1.3
711	〃	〃	4.6	2.5	1.8	1.8	1.4

712	#	#	4.6	2	1.5	2.3	1.3
713	#	#	4.7	2.6	2	1.8	1.3
714	#	#	4.7	2.4	1.7	2.0	1.4
715	#	#	4.7	2.5	1.7	1.9	1.5
716	#	#	4.7	2.6	2.2	1.8	1.2
717	#	#	4.7	2.3	1.7	2.0	1.4
718	#	#	4.7	2.3	1.9	2.0	1.2
719	#	#	4.7	2.5	1.8	1.9	1.4
720	#	#	4.7	2.7	1.7	1.7	1.6
721	#	#	4.7	2.7	1.8	1.7	1.5
722	#	#	4.7	2.6	1.6	1.8	1.6
723	#	#	4.8	2.7	1.9	1.8	1.4
724	#	#	4.8	2.4	1.7	2.0	1.4
725	#	#	4.8	2.5	1.9	1.9	1.3
726	#	#	4.8	2.4	1.9	2.0	1.3
727	#	#	4.8	2.5	2	1.9	1.3
728	#	#	4.8	2.7	1.8	1.8	1.5
729	#	#	4.8	2.2	2	2.2	1.1
730	#	#	4.8	2.9	1.9	1.7	1.5
731	#	#	4.8	2.8	1.8	1.7	1.6
732	#	#	4.8	2.7	1.9	1.8	1.4
733	#	#	4.8	2.3	1.6	2.1	1.4
734	#	#	4.8	2.7	1.8	1.8	1.5
735	#	#	4.8	2.4	1.7	2.0	1.4
736	#	#	4.8	2.4	1.7	2.0	1.4
737	#	#	4.9	2.1	1.8	2.3	1.2
738	#	#	4.8	2.4	1.9	2.0	1.3
739	#	#	5	2.2	1.9	2.3	1.2
740	#	#	5	2.9	2	1.7	1.5
741	#	#	5	2.5	2	2.0	1.3
742	#	#	5	2.5	1.9	2.0	1.3
743	#	#	5	2.7	1.7	1.9	1.6
744	#	#	5	2.6	1.9	1.9	1.4
745	#	#	5	2.5	1.9	2.0	1.3
746	#	#	5	2.2	1.4	2.3	1.6
747	#	#	5.1	2.5	1.7	2.0	1.5
748	#	#	5.1	2.1	1.7	2.4	1.2
749	#	#	5.3	2.7	1.9	2.0	1.4
750	#	#	5.3	2.6	1.6	2.0	1.6
751	#	#	5.6	2.5	1.8	2.2	1.4
752	43-4	米	3.7	2	1.6	1.9	1.3
753	#	#	3.9	2.2	1.4	1.8	1.6
754	#	#	3.9	2.3	1.6	1.7	1.4
755	#	#	3.9	2.5	1.5	1.6	1.7
756	#	#	4	2.3	1.5	1.7	1.5
757	#	#	4	2.1	1.3	1.9	1.6
758	#	#	4.1	2.2	1.5	1.9	1.5
759	#	#	4.1	2.2	1.5	1.9	1.5
760	#	#	4.2	2.4	1.7	1.8	1.4
761	#	#	4.2	2.3	1.6	1.8	1.4
762	#	#	4.3	2.5	1.6	1.7	1.6
763	#	#	4.3	2.3	1.9	1.9	1.2
764	#	#	4.3	2.3	1.7	1.9	1.4
765	#	#	4.3	2.5	1.5	1.7	1.7
766	#	#	4.4	2.4	1.8	1.8	1.3
767	#	#	4.4	2.5	1.7	1.8	1.5
768	#	#	4.5	2.4	1.7	1.9	1.4
769	#	#	4.5	2.3	1.8	2.0	1.3
770	#	#	4.5	2.3	1.6	2.0	1.4
771	#	#	4.5	2.5	1.4	1.8	1.8
772	#	#	4.6	2.6	1.8	1.8	1.4
773	#	#	4.6	2.5	1.6	1.8	1.6
774	#	#	4.6	2.3	1.7	2.0	1.4
775	#	#	4.6	2.3	1.6	2.0	1.4
776	#	#	4.7	2.6	1.7	1.8	1.5

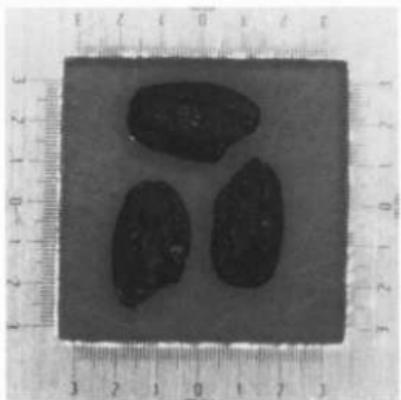
777	〃	〃	4.8	2.4	1.6	2.0	1.5
778	〃	〃	4.8	2.2	1.6	2.2	1.4
779	〃	〃	4.9	2.5	1.8	2.0	1.4
780							測定不能(ひび、割れている)
781	44-2	米	3.7	1.9	1.6	1.9	1.2
782	〃	〃	3.7	2.5	1.5	1.5	1.7
783	〃	〃	3.8	2.3	1.7	1.7	1.4
784	〃	〃	3.9	2.3	1.6	1.7	1.4
785	〃	〃	4	2.1	1.7	1.9	1.2
786	〃	〃	4	2.4	1.6	1.7	1.5
787	〃	〃	4	2.4	1.6	1.7	1.5
788	〃	〃	4	2.3	1.5	1.7	1.5
789	〃	〃	4.1	2.2	1.6	1.9	1.4
790	〃	〃	4.1	2.2	1.4	1.9	1.6
791	〃	〃	4.2	2.5	1.5	1.7	1.7
792	〃	〃	4.2	2.2	1.9	1.9	1.2
793	〃	〃	4.3	2.5	1.8	1.7	1.4
794	〃	〃	4.3	2.3	1.6	1.9	1.4
795	〃	〃	4.4	2.4	1.7	1.8	1.4
796	〃	〃	4.5	2.6	1.9	1.7	1.4
797							測定不能(割れている)
798	46-1	米	3.8	2.3	1.6	1.7	1.4
799	〃	〃	3.8	2.3	1.5	1.7	1.5
800	〃	〃	3.8	2.2	1.5	1.7	1.5
801	〃	〃	4	2.4	1.6	1.7	1.5
802	〃	〃	4.2	2.3	1.6	1.8	1.4
803	〃	〃	4.2	2.3	1.6	1.8	1.4
804							測定(割れている)
805	〃	〃	3.4	1.9	1.4	1.8	1.4
806	〃	〃	3.4	1.9	1.2	1.8	1.6
807	〃	〃	3.5	2	1.5	1.8	1.3
808	〃	〃	3.7	2.1	1.6	1.8	1.3
809	〃	〃	3.7	2.1	1.5	1.8	1.4
810	〃	〃	3.7	2.3	1.6	1.6	1.4
811	〃	〃	3.7	2.4	1.6	1.5	1.5
812	〃	〃	3.9	2.2	1.4	1.8	1.6
813	〃	〃	3.9	2.6	1.6	1.5	1.6
814	〃	〃	3.9	2.3	1.4	1.7	1.6
815	〃	〃	4	2.3	1.4	1.7	1.6
816	〃	〃	4	1.4	2	2.9	0.7
817	〃	〃	4	2.1	1.4	1.9	1.5
818	〃	〃	4	2.3	1.6	1.7	1.4
819	〃	〃	4	2.4	1.6	1.7	1.5
820	〃	〃	4.1	2.5	1.7	1.6	1.5
821	〃	〃	4.1	2.3	1.6	1.8	1.4
822	〃	〃	4.1	2.4	1.5	1.7	1.6
823	〃	〃	4.2	2.5	1.5	1.7	1.7
824	〃	〃	4.3	2.3	1.5	1.9	1.5
825	〃	〃	4.4	2.4	1.6	1.8	1.5
826	〃	〃	4.4	2.2	1.6	2.0	1.4
827	〃	〃	4.4	2.3	1.6	1.9	1.4
828	〃	〃	4.4	2.3	1.7	1.9	1.4
829	〃	〃	4.4	2.2	1.6	2.0	1.4
830	〃	〃	4.5	2.3	1.7	2.0	1.4
831	〃	〃	4.5	2.2	1.5	2.0	1.5
832	48-1	米	4.6	2.5	1.7	1.8	1.5
833	〃	〃	4.6	2.2	1.8	2.1	1.2
834	〃	〃	4.7	2.4	1.7	2.0	1.4
835	〃	〃	4.8	2.6	1.7	1.8	1.5
836	〃	〃	4.8	2.2	1.6	2.2	1.4
837	〃	〃	5	2.5	1.8	2.0	1.4
838	〃	〃	5	2.8	1.9	1.8	1.5
839							測定不能(割れている)
840	48-3	米	3.3	1.9	1.5	1.7	1.3

841	〃	〃	3.3	2	1.7	1.7	1.2
842	〃	〃	3.3	1.9	1.4	1.7	1.4
843	〃	〃	3.4	1.7	1.5	2.0	1.1
844	〃	〃	3.5	2.2	1.5	1.6	1.5
845	〃	〃	3.5	1.9	1.4	1.8	1.4
846	〃	〃	3.5	2	1.5	1.8	1.3
847	〃	〃	3.6	2	1.5	1.8	1.3
848	〃	〃	3.7	2.1	1.6	1.8	1.3
849	〃	〃	3.7	2.3	1.6	1.6	1.4
850	〃	〃	3.7	2.3	1.6	1.6	1.4
851	〃	〃	3.7	2.3	1.6	1.6	1.4
852	〃	〃	3.7	2.1	1.2	1.8	1.8
853	〃	〃	3.8	2	1.6	1.9	1.3
854	〃	〃	3.8	2.3	1.5	1.7	1.5
855	〃	〃	3.9	2.2	1.6	1.8	1.4
856	〃	〃	3.9	2.2	1.5	1.8	1.5
857	〃	〃	3.9	2.2	1.5	1.8	1.5
858	〃	〃	3.9	2	1.4	2.0	1.4
859	〃	〃	3.9	2.3	1.6	1.7	1.4
860	〃	〃	3.9	2.2	1.5	1.8	1.5
861	〃	〃	4	2.1	1.5	1.9	1.4
862	〃	〃	4	2.3	1.5	1.7	1.5
863	〃	〃	4	2.2	1.4	1.8	1.6
864	〃	〃	4	2.2	1.7	1.8	1.3
865	〃	〃	4	2.3	1.4	1.7	1.6
866	〃	〃	4	2.1	1.4	1.9	1.5
867	〃	〃	4	2.1	1.5	1.9	1.4
868	〃	〃	4	2	1.5	2.0	1.3
869	〃	〃	4	2.2	1.6	1.8	1.4
870	〃	〃	4	2.2	1.6	1.8	1.4
871	〃	〃	4	2.5	1.7	1.6	1.5
872	〃	〃	4	2.2	1.5	1.8	1.5
873	〃	〃	4	2.4	1.6	1.7	1.5
874	〃	〃	4.1	2.3	1.6	1.8	1.4
875	〃	〃	4.1	2.3	1.5	1.8	1.5
876	〃	〃	4.1	2.4	1.6	1.7	1.5
877	〃	〃	4.1	2.2	1.6	1.9	1.4
878	〃	〃	4.1	2.4	1.7	1.7	1.4
879	〃	〃	4.1	2.2	1.4	1.9	1.6
880	〃	〃	4.2	2.3	1.5	1.8	1.5
881	〃	〃	4.2	2.3	1.4	1.8	1.6
882	〃	〃	4.2	2.3	1.5	1.8	1.5
883	〃	〃	4.2	2.3	1.5	1.8	1.5
884	〃	〃	4.2	2.4	1.5	1.8	1.6
885	〃	〃	4.3	2.3	1.6	1.9	1.4
886	〃	〃	4.3	2.3	1.6	1.9	1.4
887	〃	〃	4.3	2.5	1.5	1.7	1.7
888	〃	〃	4.3	2.5	1.5	1.7	1.7
889	〃	〃	4.3	2.4	1.6	1.8	1.5
890	〃	〃	4.4	2.2	1.7	2.0	1.3
891	〃	〃	4.4	2.2	1.6	2.0	1.4
892	〃	〃	4.4	2.3	1.4	1.9	1.6
893	〃	〃	4.5	2.3	1.7	2.0	1.4
894	〃	〃	4.5	2.5	1.6	1.8	1.6
895	〃	〃	4.5	2.4	1.6	1.9	1.5
896	〃	〃	4.6	2.6	1.8	1.8	1.4
897	〃	〃	4.6	2.3	1.7	2.0	1.4
898	〃	〃	4.7	2.5	1.8	1.9	1.4
899	〃	〃	4.8	2.7	2.2	1.8	1.2
900	〃	〃	4.8	2.5	1.7	1.9	1.5
901	〃	〃	4.9	2.7	1.8	1.8	1.5
902							測定不能（割れている）
903	49-1	米	3.1	1.9	1.1	1.6	1.7
904	〃	〃	3.1	1.7	1.3	1.8	1.3
905	〃	〃	3.2	2	1.5	1.6	1.3

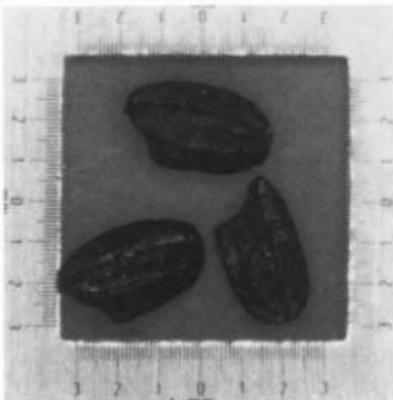
906	H	H	3.5	2.3	1.4	1.5	1.6
907	H	H	3.5	2.2	1.4	1.6	1.6
908	H	H	3.5	2	1.4	1.8	1.4
909	H	H	3.5	2	1.1	1.8	1.8
910	H	H	3.6	2.1	1.3	1.7	1.6
911	H	H	3.6	2.1	1.5	1.7	1.4
912	H	H	3.7	2.4	1.3	1.5	1.8
913	H	H	3.7	2.4	1.7	1.5	1.4
914	H	H	3.7	2.2	1.4	1.7	1.6
915	H	H	3.7	2	1.4	1.9	1.4
916	H	H	3.8	2.1	1.6	1.8	1.3
917	H	H	3.8	2.3	1.4	1.7	1.6
918	H	H	3.8	2.3	1.5	1.7	1.5
919	H	H	3.8	2.3	1.6	1.7	1.4
920	H	H	3.8	2.3	1.5	1.7	1.5
921	H	H	3.8	2.3	1.5	1.7	1.5
922	H	H	3.8	2.1	1.5	1.8	1.4
923	H	H	3.8	2.3	1.5	1.7	1.5
924	H	H	3.8	1.9	1.4	2.0	1.4
925	H	H	3.9	2.3	1.6	1.7	1.4
926	H	H	3.9	2	1.6	2.0	1.3
927	H	H	3.9	2	1.4	2.0	1.4
928	H	H	3.9	2.2	1.4	1.8	1.6
929	H	H	3.9	2.3	1.6	1.7	1.4
930	H	H	3.9	2.2	1.5	1.8	1.5
931	H	H	4	2.5	1.5	1.6	1.7
932	H	H	4	2.5	1.7	1.6	1.5
933	H	H	4	2.4	1.6	1.7	1.5
934	H	H	4	2.1	1.2	1.9	1.8
935	H	H	4	2.3	1.6	1.7	1.4
936	H	H	4	2.4	1.4	1.7	1.7
937	H	H	4	2.3	1.5	1.7	1.5
938	H	H	4	2.2	1.4	1.8	1.6
939	H	H	4	2.3	1.6	1.7	1.4
940	H	H	4	2.3	1.7	1.7	1.4
941	H	H	4	2.5	1.6	1.6	1.6
942	H	H	4	2	1.5	2.0	1.3
943	H	H	4	2	1.5	2.0	1.3
944	H	H	4	2.3	1.5	1.7	1.5
945	H	H	4	2.3	1.5	1.7	1.5
946	H	H	4	2	1.4	2.0	1.4
947	H	H	4	2.2	1.5	1.8	1.5
948	H	H	4	2.2	1.4	1.8	1.6
949	H	H	4.1	2.4	1.5	1.7	1.6
950	H	H	4.1	2.6	1.6	1.6	1.6
951	H	H	4.1	2.4	1.5	1.7	1.6
952	H	H	4.1	2.5	1.6	1.6	1.6
953	H	H	4.1	2.4	1.6	1.7	1.5
954	H	H	4.1	2.4	1.6	1.7	1.5
955	H	H	4.1	2.2	1.6	1.9	1.4
956	H	H	4.1	2.3	1.5	1.8	1.5
957	H	H	4.1	2.3	1.7	1.8	1.4
958	H	H	4.1	2.6	1.6	1.6	1.6
959	H	H	4.2	2.5	1.6	1.7	1.6
960	H	H	4.2	2.3	1.7	1.8	1.4
961	H	H	4.2	2.4	2	1.8	1.2
962	H	H	4.2	2.5	1.7	1.7	1.5
963	H	H	4.2	2.4	1.7	1.8	1.4
964	H	H	4.2	2.4	1.8	1.8	1.3
965	H	H	4.2	2.3	1.5	1.8	1.5
966	H	H	4.2	2.3	1.5	1.8	1.5
967	H	H	4.3	2.3	1.5	1.9	1.5
968	H	H	4.3	2.4	1.7	1.8	1.4
969	H	H	4.3	2.4	1.6	1.8	1.5
970	H	H	4.3	2.5	1.8	1.7	1.4

971	〃	〃	4.3	2.5	1.7	1.7	1.5
972	〃	〃	4.3	2.2	1.4	2.0	1.6
973	〃	〃	4.3	2.3	1.5	1.9	1.5
974	〃	〃	4.3	2.2	1.5	2.0	1.5
975	〃	〃	4.3	2.4	1.6	1.8	1.5
976	〃	〃	4.3	2.3	1.5	1.9	1.5
977	〃	〃	4.4	2.4	1.6	1.8	1.5
978	〃	〃	4.4	2.5	1.6	1.8	1.6
979	〃	〃	4.4	2.3	1.7	1.9	1.4
980	〃	〃	4.4	2.3	1.5	1.9	1.5
981	〃	〃	4.4	2.4	1.6	1.8	1.5
982	〃	〃	4.4	2.5	1.7	1.8	1.5
983	〃	〃	4.5	2.5	1.7	1.8	1.5
984	〃	〃	4.5	2.4	1.7	1.9	1.4
985	〃	〃	4.6	2.5	2	1.8	1.3
986	〃	〃	4.6	2.5	1.7	1.8	1.5
987	〃	〃	4.6	2.5	1.6	1.8	1.6
988	〃	〃	4.6	2.2	2	2.1	1.1
989	〃	〃	4.7	2.4	1.6	2.0	1.5
990	〃	〃	4.7	2.5	1.8	1.9	1.4
991	〃	〃	4.8	2.4	1.5	2.0	1.6
992							測定不能（割れている）
993	カマド1-4	米	4	2.4	1.6	1.7	1.5
994							測定不能（割れている）
995	カマド1-6 不明 (豆類?)		3.3	2.7			1.2
996	〃	〃	3.7	2.5			1.5
997	〃	〃	4.1	3.4			1.2
998	〃	〃	4.3	2.7			1.6
999	〃	〃	4.4	2.6			1.7
1000	〃	〃	4.4	2.6			1.7
1001	〃	〃	4.6	3.2			1.4
1002	〃	〃	4.6	3.2			1.4
1003	〃	〃	4.7	3.3			1.4
1004	〃	〃	5	3.6			1.4
1005	〃	〃	5	3.4			1.5
1006	〃	〃	5.6	3.7			1.5
1007	〃	〃	6	3.8			1.6
1008	〃	〃	6.6	3.9			1.7
1009							測定不能（割れている）
1010	カマド3-1	米	3.6	2.3	1.4	1.6	
1011	〃	〃	4.1	2	1.4	2.1	
1012	〃	〃	4.1	2	1.5	2.1	
1013							測定不能（割れている）
1014							

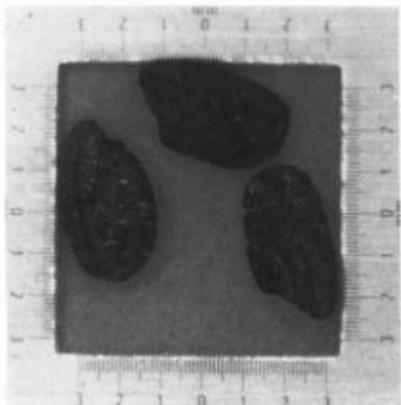
図版 1



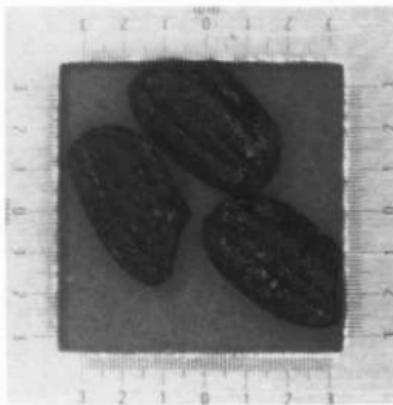
ランク a (3.1-3.3mm) 試料番号49-1



ランク b (3.4-3.6mm) 試料番号49-1



ランク c (3.7-3.9mm) 試料番号49-1



ランク d (4.0-4.2mm) 試料番号49-1

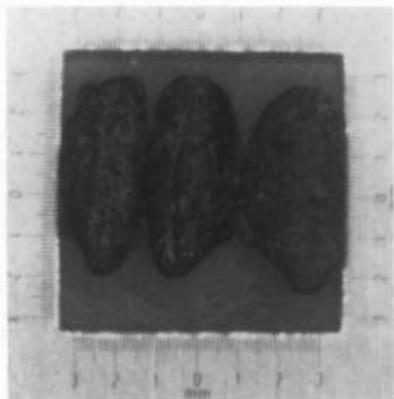


ランク e (4.3-4.5mm) 試料番号49-1

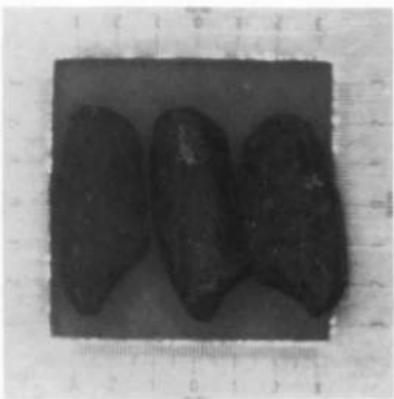


ランク f (4.6-4.8mm) 試料番号49-1

図版 2



ランク g (4.9-5.1mm) 試料番号33-2



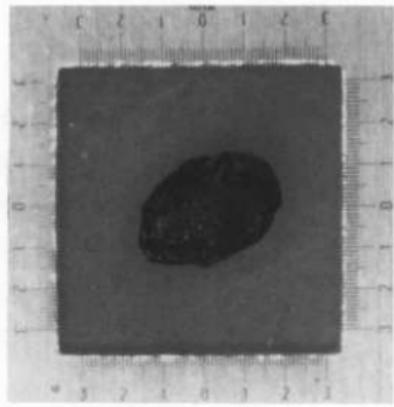
ランク h (5.2-5.4mm) 試料番号33-2



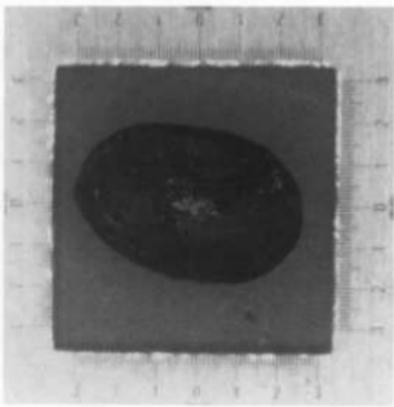
ランク i (5.5-5.7mm) 試料番号33-2



ランク k (6.1-6.2mm) 試料番号27-2



マメ類? ランク c (3.7-3.9mm)
試料番号カマド1-6



マメ類? ランク i (5.5-5.7mm)
試料番号カマド1-6

結語

萱田地区の埋蔵文化財発掘調査は、昭和52年に着手して以来17年目をむかえた。本書の刊行により萱田地区のすべての遺跡の報告書が刊行され、萱田地区埋蔵文化財調査事業もおわることとなった。

萱田地区では旧石器時代から平安時代にいたる遺構や遺物が検出され、とりわけ奈良・平安時代にはこれまでにない規模の集落が形成され、三彩陶器や墨書き土器などこの地域の歴史を解明するうえで貴重な遺物が多くある。また、旧石器時代にもまとまった資料があり、坊山遺跡で検出された環状ブロック群や權現後遺跡で検出されたVI層を中心とした遺物集中地点は特筆できるものである。「萱田地区埋蔵文化財調査報告」というシリーズのおわりにあたり、萱田地区で検出された遺構の総数を記して結語とする。

		權現後	ヲナル山	北海道	井戸向	白幡前	坊山
旧石器	石器集中地点	27	29	63	34	59	31
縄文	竪穴住居 炉穴		5 19				1
弥生	竪穴住居 方形周溝墓	73 3	34 3	73 3	6	18	
古墳	竪穴住居	47		29	8	4	
奈良・平安	竪穴住居 掘立柱建物 方形区画墓	68 17 2	2 1	114 10	99 44	265 150	4

報告書抄録

フリガナ	ヤチヨシゴンゲンウシロイセキ・ホッカイドウイセキ・イドムカイイセキ
書名	八千代市権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡
副書名	董田地区埋蔵文化財調査報告書
巻次	VII
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第243集
著者名	大野康男
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター
所在地	〒284 千葉県四街道市鹿渡809-2
発行年	1993年3月

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	° °'	° °'			
権現後遺跡	八千代市大和由新田	12201	001	35°44'07"	140°06'30"	19830509- 19851016	5,055	土地区画整理
北海道遺跡	八千代市董田	12201	002	35°43'54"	140°06'32"	19831003- 19831201	3,000	土地区画整理
井戸向遺跡	八千代市董田	12201	006	35°43'39"	140°06'25"	19830418- 19910430	17,099	土地区画整理

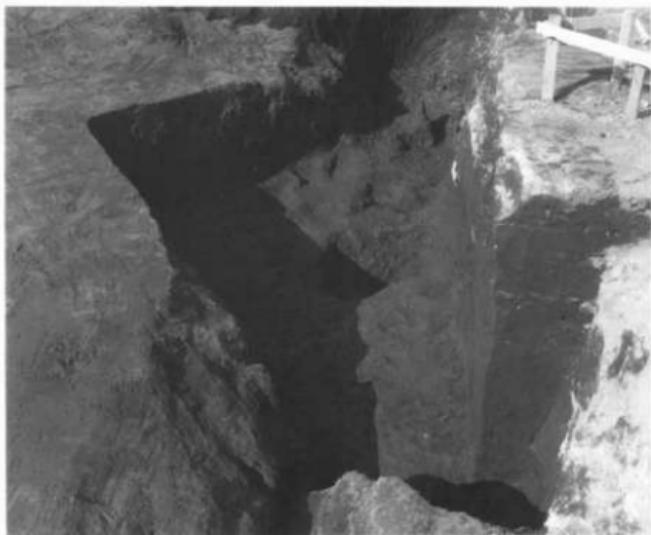
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
権現後遺跡	包蔵地	平安	竪穴住居 3 掘立柱建物 1	土師器・須恵器	
北海道遺跡	包蔵地	古墳 奈良・平安	竪穴住居 1 竪穴住居 3	土師器 土師器・須恵器	五輪式土器
井戸向遺跡	包蔵地	旧石器 縄文 奈良・平安	遺物集中地点 9 竪穴状土坑 3 竪穴住居 9	ナイフ形石器・P・S 奈良三彩・炭化米	VII層を中心としたブロック群 1軒の竪穴住居から奈良三彩2個体と炭化米が出土

写 真 図 版

權現後遺跡



1. D062全景



2. D067全景



8



10



11



12

3. D067
出土遺物

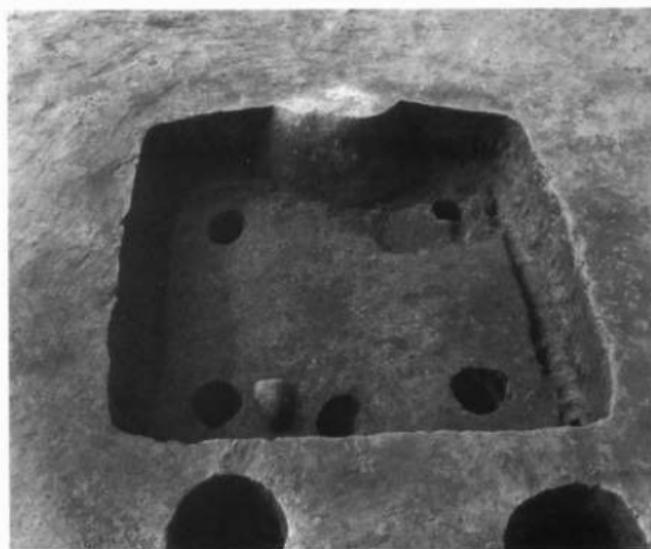


1



14

1. D067出土遺物



2. D192全景



2



1



3



4

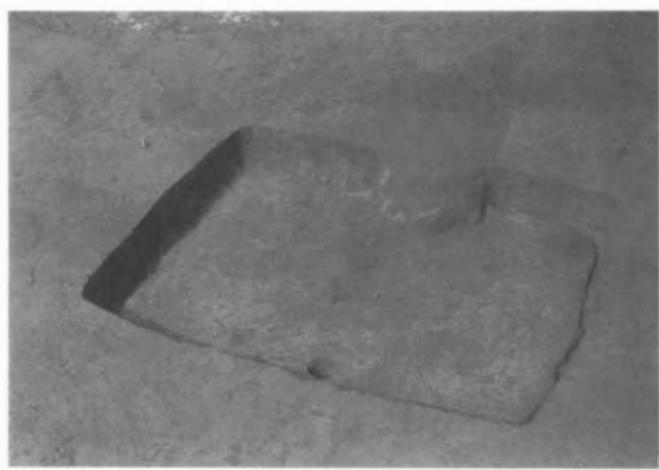
3. D192
出土遺物

権現後遺跡・北海道遺跡

1. H018全景



2. D151全景



2



5



8

3. D151
出土遺物



7

北海道遺跡

1. D152全景



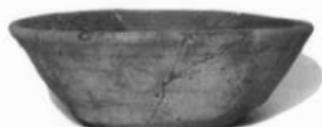
2. D153全景



3. D152
出土遺物



6



9



8



10

北海道遺跡・井戸向遺跡第1地点



1. D153
出土遺物



1

2



2. D143全景



3. D143遺物出土状況

井戸向遺跡第1・第2地点



1



3



2



5



4



6



7



8

1. D143
出土遺物



2. D142全景



4



6

1. D142出土遺物



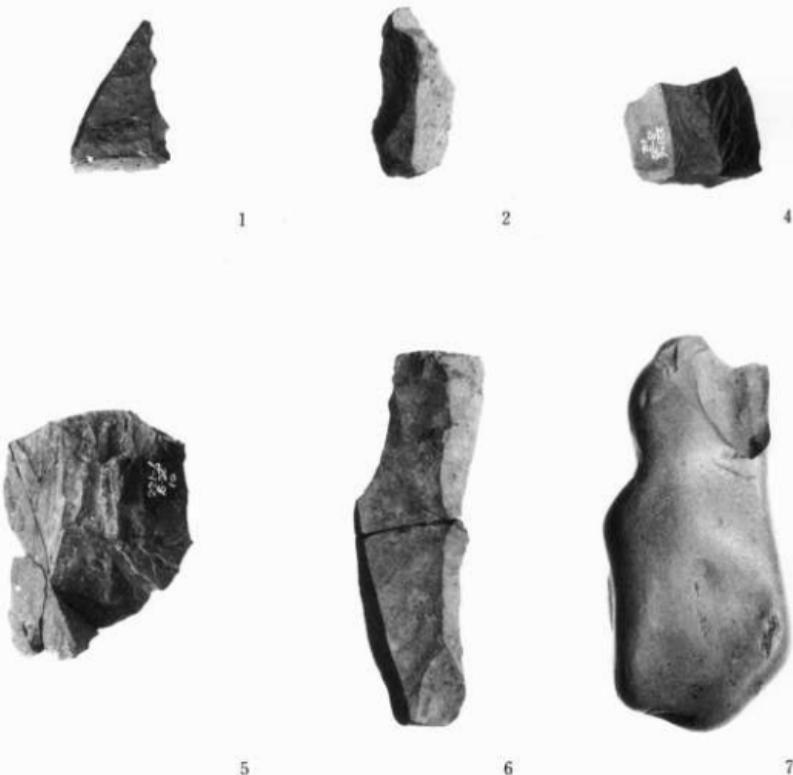
2. 井戸向遺跡第4地点



3. 井戸向遺跡第4地点

4. S032地点遺物分布
状況

井戸向遺跡第4地点

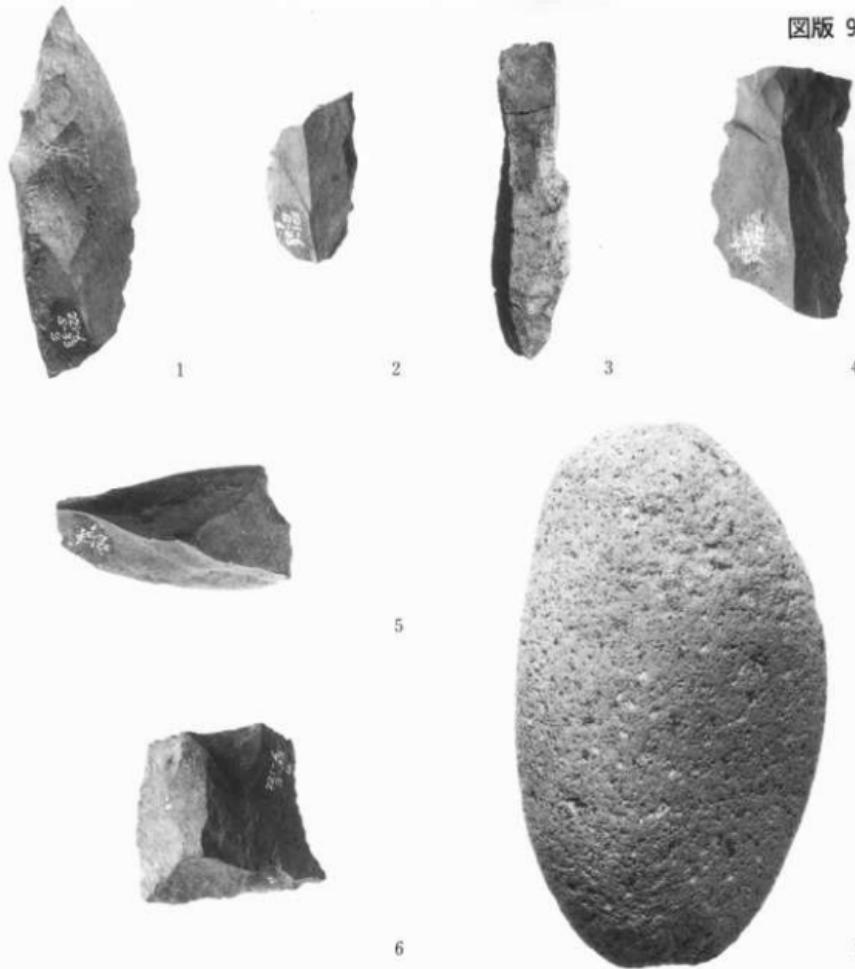


1. S 032地点出土遺物



2. S 033・S 034地点
遺物分布状況

井戸向遺跡第4地点



1. S 033・S 034地点
出土遺物



2. S 035地点
遺物分布状況

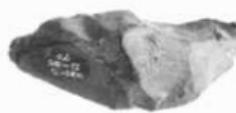
井戸向遺跡第4地点



1



2



3



4



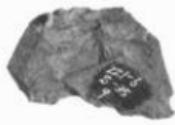
5



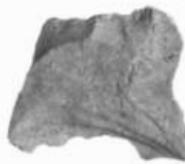
6



7



8



9



10



11



1. S 035地点出土遺物

12



13



14

井戸向遺跡第4地点

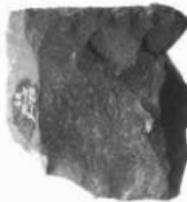
1. S 036地点遺物分布状況



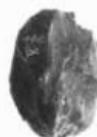
2. S 037地点遺物分布状況

3. S 036・S 037
地点出土遺物

1



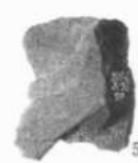
4



2



3



5

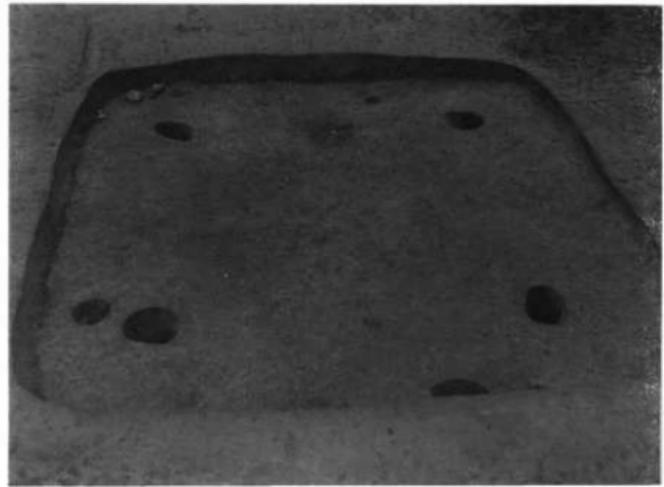
井戸向遺跡第4地点



1. S038地点遺物分布状況



2. S038地点出土遺物



3. D154全景

井戸向遺跡第4地点

1. D145遺物出土状況



2. D145
出土遺物



1



2



3

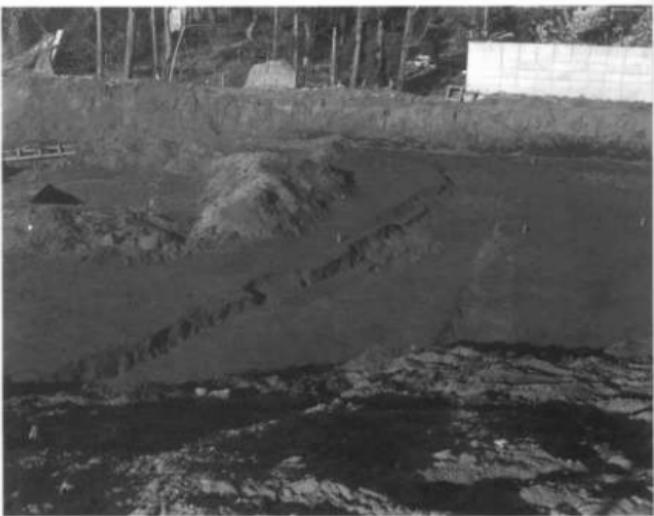


4

井戸向遺跡第5地点



1. 井戸向遺跡第5地点



2. 井戸向遺跡第5地点



3. 井戸向遺跡第5地点

井戸向遺跡第5・第8地点



1. 井戸向遺跡第5地点



2. 井戸向遺跡第8地点



3. 井戸向遺跡第8地点

井戸向遺跡第8地点

1. 井戸向遺跡第8地点



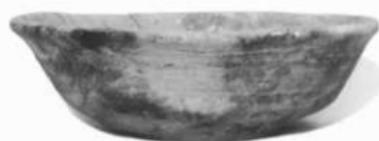
2. 井戸向遺跡第8地点



3. D144全景



井戸向遺跡第8・第9地点



4



5



6



7

1. D144出土遺物



8



2. D146全景



3. 井戸向遺跡第9地点

井戸向遺跡第9地点

1. S 040地点遺物分布状況



2. S 041地点遺物分布状況



3. S 041地点出土遺物



1

2



3

井戸向遺跡第9地点

1. D147全景



2. D147遺物出土状況



3. D147遺物出土状況



井戸向遺跡第9地点



3



5



6



7



9



8

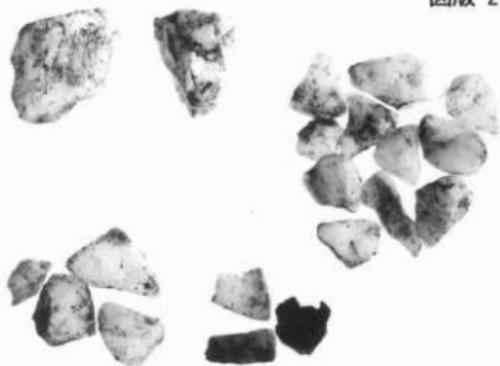


11



12

井戸向遺跡第9地点



1. D147出土焼石



2. D147出土鉈尾
3. D147出土炭化米



4. D147出土鉄製品

井戸向遺跡第9地点

1. D148全景



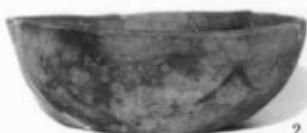
2. D148遺物出土状況



3. D148出土遺物



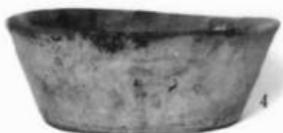
1



2



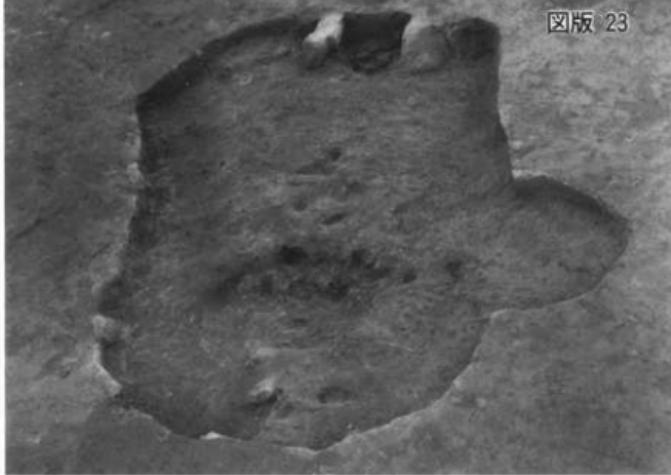
3



4

井戸向遺跡第9地点

1. D149全景



2. D150全景



3. D150出土遺物



5



1

井戸向遺跡第9地点

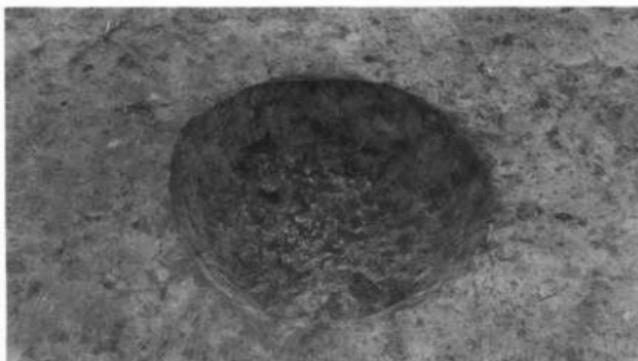
1. P210全景



2. P212全景



3. P208全景



千葉県文化財センター調査報告第243集

八千代市權現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡

—萱田地区埋蔵文化財調査報告書VII—

平成6年3月25日 印刷

平成6年3月31日 発行

発行 住宅・都市整備公団 首都圏都市開発本部
東京都新宿区新宿4丁目3番17号

編集 財團法人 千葉県文化財センター
千葉県四街道市鹿渡809-2

印刷 株式会社 弘文社
千葉県市川市市川南2-7-2
